

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する  
現状調査

《 総合編（国・公・私立小学校対象） 》

報 告 書

平成 27 年 6 月

公益財団法人 日本英語検定協会

# 目 次

調査実施概要	4
<回答者の属性>	5
<b>1. 調査結果</b>	
問 1. 今年度の外国語活動及び英語活動の年間実施時間数について	9
問 2. 「4年生以下の英語活動」について	11
問 2-1. 4年生以下の英語活動の実施について	11
問 2-2. 4年生以下の英語活動に対する考えについて	14
問 2-3. [問 2-2 で「5. どちらかといえば必要ない」「6. 必要ない」と回答した方] 問 2-2 で選択した回答理由について	16
問 2-4. [問 2-2 で「1. 5・6年生同様に必要」「2. 時間数が少なくても必要」「3. どちらかといえば必要」と回答した方] 問 2-4-1. 問 2-2 で選択した回答理由について 問 2-4-2. 4年生以下の英語活動を円滑に実施するための環境条件の整備について	18 20
問 3. 「外国語活動及び英語活動の担当者」について	22
問 3-1. 現在の外国語活動及び英語活動の担当者について	22
問 3-2. 望ましいと思われる外国語活動及び英語活動の担当者について	25
問 4. 「外国語活動及び英語活動で使用している教材」について	31
問 4-1. 「使用教材」について	31
問 4-2. [問 4-1 で 5・6年生の使用教材に「1. 『Hi, friends!』』と回答した方] 問 4-2-1. (1)「Hi, friends!」を用いて授業を行っている感想について (2)「Hi, friends!」を用いて授業を行っている理由について 問 4-2-2. 「Hi, friends!」の副教材として電子黒板及び PC 用教材以外に必要なと思われるものについて 問 4-2-3. (1)「Hi, friends!」の指導書の使用感について (2)「Hi, friends!」の指導書に生かす他教科の指導書の使いやすい点について 問 4-2-4. 「Hi, friends!」についての具体的な意見（自由記述）について	35 36 39 40 41 42
問 5. 外国語活動及び英語活動に関する「教員研修・自己学習」について	43
問 5-1. 今年度の外国語及び英語活動に関する研修会や研究発表会への参加について	43
問 5-2. [問 5-1 で「1. 参加（実施）している（予定がある）」と回答した方] 現在参加している教員研修（または自己学習）について	44

問 5-3.	今後参加したい教員研修または自己学習について	46
問 5-4.	教員研修の内容として最も必要と思われるものについて	49
問 6.	5・6年生の外国語活動における「評価」について	50
問 6-1.	現在行っている評価について	50
問 6-1-1.	外国語活動における児童への評価材料について	50
問 6-1-2.	外国語活動における児童の達成度合いの観点について	52
問 6-1-3.	外国語活動の成果を測るために小学校の卒業時までになんらかの考査(テスト)を実施する必要性と具体的な理由(自由記述)について	54
問 6-2.	5・6年生の外国語活動の教科化の際に想定される「評価(評定)」について	55
問 6-2-1.	習熟度を数値で評価(評定)することについて	55
問 6-2-2.	[問 6-2-1 で「1. 賛成である」「3. どちらともいえない」と回答した方]	
	問 6-2-1 で選択した回答理由について	56
問 6-2-3.	[問 6-2-1 で「2. 反対である」と回答した方]	
	問 6-2-1 で選択した回答理由について	57
問 7.	5・6年生の外国語活動を実施するにあたっての環境の整備について	58
問 8.	現在、5・6年生の外国語活動において問題や課題であると感じていることについて	63
問 9.	外国語活動の導入をふまえた小学校と中学校の連携(小中連携)について	69
問 9-1.	外国語活動における「小中連携」の取り組み状況について	69
問 9-2.	[問 9-1 で「1. 積極的に取り組んでいる」「2. 少しは取り組んでいる」と回答した方]	
	「小中連携」の方法について	70
問 9-3.	「5・6年生で読み書きを含めた指導を行う」ことについて	71
問 9-3-1.	5・6年生で読み書きを含めた指導を行うことについて	71
問 9-3-2.	[問 9-3-1 で「1. 賛成である」「3. どちらともいえない」と回答した方]	
	問 9-3-1 で選択した回答理由について	72
問 9-3-3.	[問 9-3-1 で「2. 反対である」と回答した方]	
	問 9-3-1 で選択した回答理由について	73
問 10.	外国語活動必修化導入から3年以上経過したが、5・6年生の外国語活動は順調に進んでいるかについて	74
問 11.	外国語活動及び英語活動の導入が教員・児童に与える影響や変化について	75
問 11-1.	教員・児童に生じた影響や変化について	75
問 11-2.	[問 11-1 で「3. 児童の英語力(リスニング力等)の向上」と回答した方]	
	児童の英語力の面で変化や成果があったと思われるものについて	77

## 調査実施概要

### 1. 調査機関

公益財団法人 日本英語検定協会

### 2. 調査実施機関

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

### 3. 調査テーマ

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査

### 4. 調査対象

全国の小学校（国・公・私立）から抽出した 5,000 校

### 5. 調査目的

平成 23 年度より小学校高学年に外国語活動が導入され 3 年以上が経過し、さらに中・低学年の英語活動への取り組みも変化が起きている。現在の小学校現場において、カリキュラムの編成・指導方法・教材の選択・研修及び小中連携などについて、どのような取り組みを行っているのか、また、どのような不安要素や課題を抱えているのかを、外国語活動及び英語活動等に関する設問によるアンケートを実施し、現状を浮き彫りにする。また、2020 年度を目処に発表された小学校の英語教育の方針（5・6 年生の正式な教科化、等）に関する設問を加え、小学校現場の反応や意見を集約する。

### 6. 調査期間

平成 26 年 12 月～平成 27 年 1 月

### 7. 調査方法

送付・回収ともに、郵送による記述アンケート方式

### 8. 送付数・回収結果

調査対象	送付数	回収数	回収率
国・公・私立小学校	5,000 件	1,684 件	33.7%

(内訳) 「回収数」については下記以外に設置者別無回答が 8 件あり

国立	73 件	32 件	43.8%
公立	4,711 件	1,574 件	33.4%
私立	216 件	70 件	32.4%

#### (注) 単位表記について

この報告書では、パーセントで表示された数値間の差を表す単位である「パーセントポイント（またはパーセンテージポイント）」の略称である「ポイント」を使用しています。

## ＜回答者の属性＞

(N=1684)

(無効回答のため合計が 1684 に満たない場合があります)

### 属性 1

#### ◎都道府県別回答校数

都道府県	回答校数
北海道	41
青森県	38
岩手県	54
宮城県	60
秋田県	38
山形県	32
福島県	51
茨城県	49
栃木県	35
群馬県	46
埼玉県	23
千葉県	36
東京都	40
神奈川県	37
新潟県	47
富山県	33

都道府県	回答校数
石川県	25
福井県	34
山梨県	41
長野県	50
岐阜県	51
静岡県	35
愛知県	42
三重県	27
滋賀県	33
京都府	19
大阪府	48
兵庫県	36
奈良県	27
和歌山県	28
鳥取県	18
島根県	27

都道府県	回答校数
岡山県	45
広島県	36
山口県	25
徳島県	37
香川県	36
愛媛県	29
高知県	26
福岡県	29
佐賀県	30
長崎県	32
熊本県	19
大分県	17
宮崎県	24
鹿児島県	42
沖縄県	39
無回答	17

### 属性 2

#### ◎回答校の設置者 (校)

国立	32
公立	1574
私立	70
無回答	8

#### ◎上記のうち小中一貫校の数

(校)

国立	1
公立	22
私立	24
無回答	0
合計	47

### 属性 3

#### ◎回答者の職位 (名)

校長	36
副校長・教頭	168
主任	249
教員	1178
ALT (外国人指導助手)	1
JTE (外国語活動指導員)	9
非常勤教員 (ALT・JTE 以外)	7
外国語活動以外の講師	12
その他(※)	12
無回答	3

#### ※「その他」の記述の内訳 (名)

教務主任	2
主幹教諭	3
臨時講師	1
常勤講師	4*
国際教育担当 教頭補佐	1
記入なし	1

\*常勤講師 1名は「外国語担当」との但し書あり

#### 属性 4

◎回答者の年齢 (名)

20代	294
30代	394
40代	490
50代以上	503
無回答	3

#### 属性 5

◎回答校の規模 (校)

50名未満	226
50名以上～100名未満	233
100名以上～200名未満	292
200名以上～500名未満	601
500名以上～800名未満	261
800名以上	68
無回答	3

# 1. 調查結果

**※ 本調査の報告書コメントに関して**

本調査と同様の調査を昨年度も実施しており、本調査報告書には、昨年度のデータ比較（上回ったなどの単純比較や数値的比較）が可能な設問においては、その変化についてのコメントも記載しています。

問1. 今年度の外国語活動及び英語活動の年間実施時間数について、学年群（5・6年生、3・4年生、1・2年生）ごとに該当する箇所を一つずつ選んでください。〈該当しない学年群は空欄〉

外国語活動及び英語活動の年間実施時間数をみると、5・6年生では昨年度と同様に最も多かったのは「⑤ 23～35時間」であるが、今年度調査では約3ポイント下がり76.5%となった。次いで、「⑥ 36～70時間」が16.8%（昨年度約15%）と続いている。「① 0時間」「③ 4～11時間」「④ 12～22時間」「⑦ 71時間以上」については、昨年度調査とほぼ同じ比率であったが、「② 1～3時間」が昨年度約1%から今年度2.6%と微増している。

3・4年生では、昨年度同様に最も多かった「③ 4～11時間」が約4ポイント上がり33.2%となった。次いで、「④ 12～22時間」が16.8%（昨年度約15%）、「① 0時間」16.4%（昨年度約25%）、「② 1～3時間」15.7%（昨年度約19%）という結果であった。

1・2年生では、昨年度調査で最も多かったのは「① 0時間」（約32%）であったが、今年度は「③ 4～11時間」が34.2%と最も多かった。2位は「① 0時間」21.0%で昨年度より約11ポイント減少した。

全体の時間数としては、5・6年生では、「⑤ 23～35時間」と「⑥ 36～70時間」の合計で全体の90%以上を占めることはほぼ昨年同様である。それ以外も多少の順位の入替わりやパーセンテージの増減はあるが、前年数値との間に有意の差は見られない。3・4年生と1・2年生については、「① 0時間」がそれぞれ約9ポイント、約11ポイント減少しているのが目立つ。「② 1～3時間」もいずれも約2～3ポイント減少しており、一方で、「③ 4～11時間」がいずれも約4ポイント、「④ 12～22時間」が約2から4ポイント増加している。「⑤ 23～35時間」は3・4年生で約1ポイント増、1・2年生ではほぼ昨年並みである。全体として時間数は増えていると考えられる。

※昨年の調査が学年ごとの年間実施時間数の回答であったため、昨年度の数値は、約〇%と記載。

(問1全体)

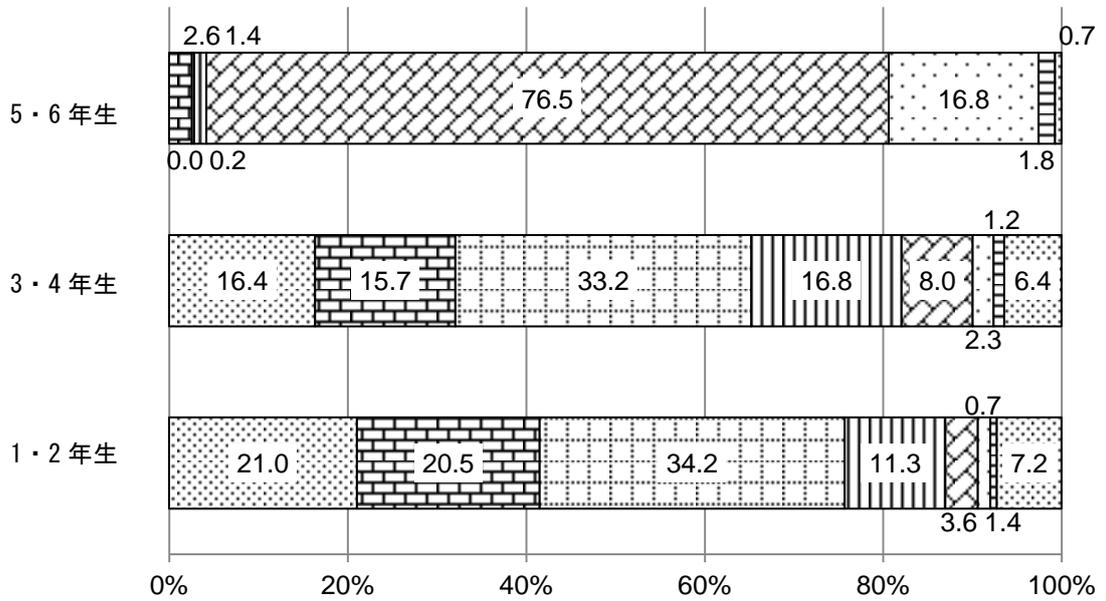
		① 0時間	② 1～3 時間	③ 4～11 時間	④ 12～22 時間	⑤ 23～35 時間	⑥ 36～70 時間	⑦ 71時間 以上	無回答
5・6年生	回答数	0	43	4	23	1,287	283	31	12
	N=1,683	0.0%	2.6%	0.2%	1.4%	76.5%	16.8%	1.8%	0.7%
3・4年生	回答数	275	264	558	283	134	39	20	108
	N=1,681	16.4%	15.7%	33.2%	16.8%	8.0%	2.3%	1.2%	6.4%
1・2年生	回答数	354	345	575	190	61	24	12	122
	N=1,683	21.0%	20.5%	34.2%	11.3%	3.6%	1.4%	0.7%	7.2%

(問1)

(問1全体)

問1. 今年度の外国語活動及び英語活動の年間実施時間数について、学年群（5・6年生、3・4年生、1・2年生）ごとに該当する箇所を一つずつ選んでください。＜該当しない学年群は空欄＞

- |   |   |   |
|---|---|---|
|  ① 0時間     |  ② 1~3時間   |  ③ 4~11時間  |
|  ④ 12~22時間 |  ⑤ 23~35時間 |  ⑥ 36~70時間 |
|  ⑦ 71時間以上  |  無回答       |   |



問2. 4年生以下の英語活動についてお伺いします。

問2-1. 貴校では、4年生以下でもなんらかの英語活動を実施していますか。学年群ごとに該当する項目を全て選んでください。〈該当しない学年群は空欄〉

3・4年生、1・2年生とも、昨年度と比べてみると、何らかの英語活動を実施している（①～⑤の合計）比率が増えており、「⑥ 実施していない」と答えた比率が減少している。実施している回答の合計は、3・4年生で90.9%（昨年度75.4%）、1・2年生で77.9%（昨年度68.5%）、また実施していない割合は3・4年生で15.9%（昨年度23.1%）、1・2年生で19.6%（昨年度30.1%）という結果となり、全体として実施している比率が増えていることがうかがえる。

3・4年生における実施方法をみると、昨年同様「② 総合的な学習の時間の中での実施」が36.2%（昨年度29.9%）と最も多く、「① 学校裁量（余剰）の時間での実施」の32.4%（昨年度27.4%）と続いた。この2つの回答で7割近くを占め、順位は昨年度と変わっていない。

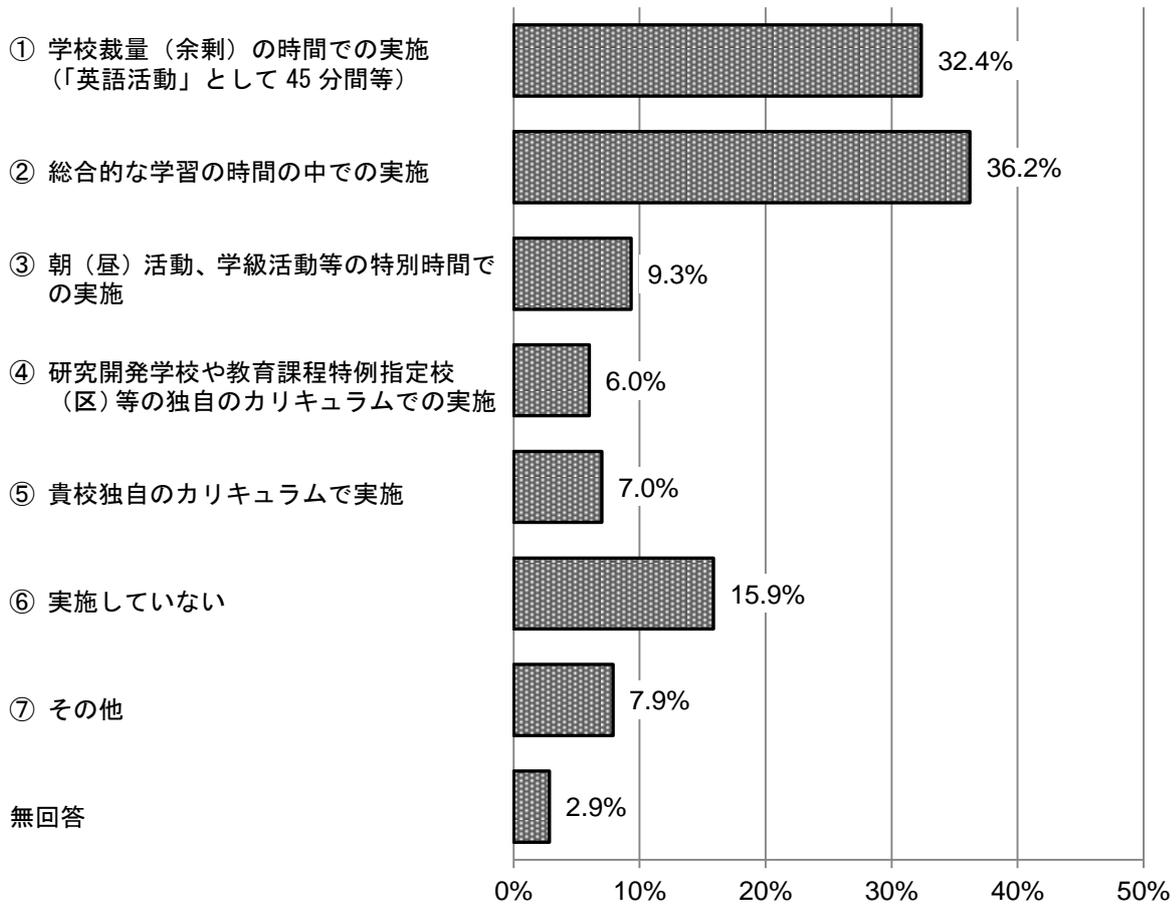
1・2年生における実施方法を見ると、「① 学校裁量（余剰）の時間での実施」が42.9%と昨年より7.1ポイント増加し、最も多かった。2位は、昨年度より4.7ポイント下がった「③ 朝（昼）活動、学級活動等の特別時間での実施」であった。3位は今回新たに選択肢として加わった「⑤ 貴校独自のカリキュラムで実施」であった。

なお、この質問は、昨年度は単一選択で、今回は複数選択のため、%の値が前回に比べ上昇する傾向があり、厳密な比較はできないことを注記しておきたい。

### 【3・4年生】

選択肢	回答数	N=1,684
① 学校裁量（余剰）の時間での実施（「英語活動」として45分間等）	545	32.4%
② 総合的な学習の時間の中での実施	610	36.2%
③ 朝（昼）活動、学級活動等の特別時間での実施	157	9.3%
④ 研究開発学校や教育課程特例指定校（区）等の独自のカリキュラムでの実施	101	6.0%
⑤ 貴校独自のカリキュラムで実施	118	7.0%
⑥ 実施していない	267	15.9%
⑦ その他	133	7.9%
無回答	48	2.9%

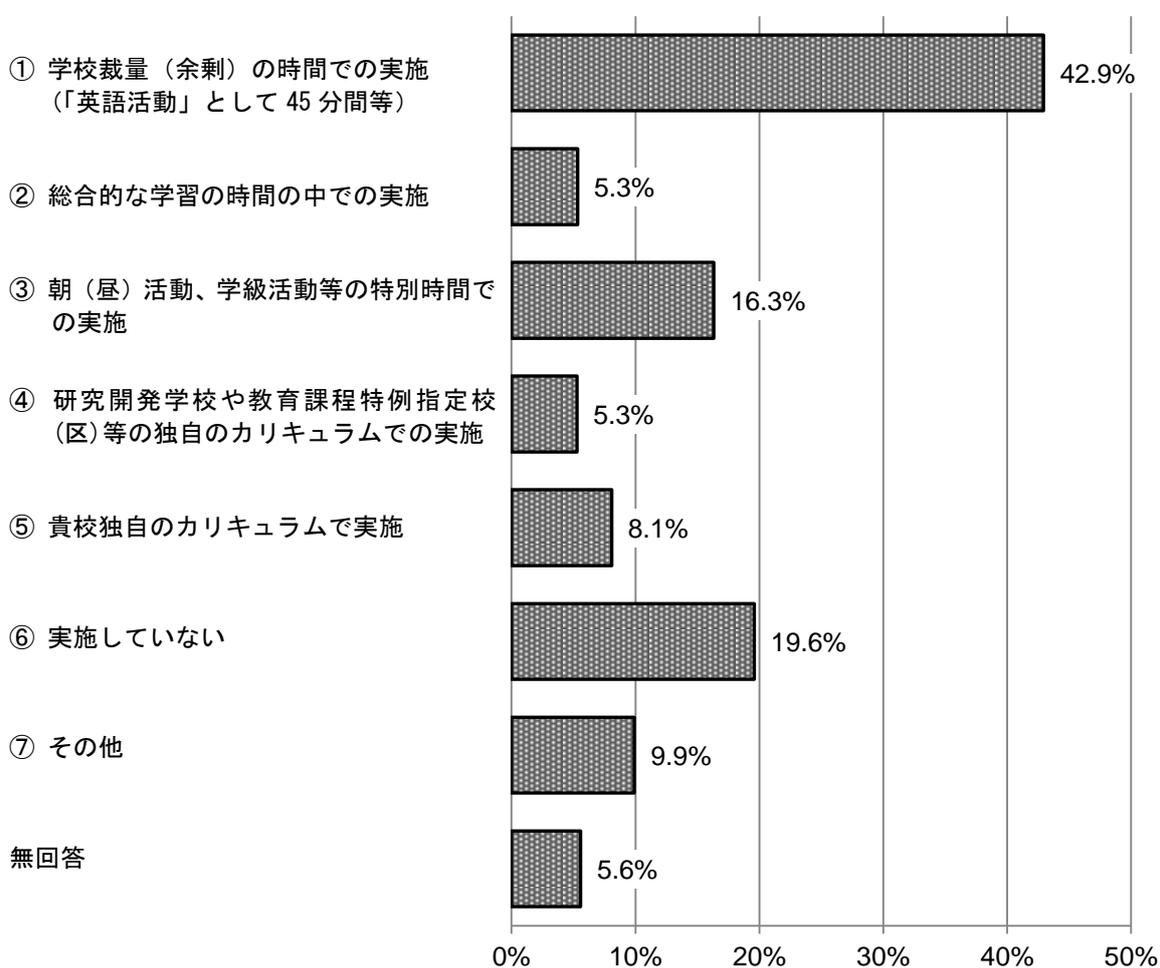
問2-1. 貴校では、4年生以下でもなんらかの英語活動を実施していますか。学年群ごとに該当する項目を全て選んでください。＜該当しない学年群は空欄＞【3・4年生】



## 【1・2年生】

選択肢	回答数	N=1,684
① 学校裁量（余剰）の時間での実施（「英語活動」として45分間等）	723	42.9%
② 総合的な学習の時間の中での実施	90	5.3%
③ 朝（昼）活動、学級活動等の特別時間での実施	275	16.3%
④ 研究開発学校や教育課程特例指定校（区）等の独自のカリキュラムでの実施	89	5.3%
⑤ 貴校独自のカリキュラムで実施	136	8.1%
⑥ 実施していない	330	19.6%
⑦ その他	167	9.9%
無回答	94	5.6%

問 2-1. 貴校では、4年生以下でもなんらかの英語活動を実施していますか。学年群ごとに該当する項目を全て選んでください。＜該当しない学年群は空欄＞【1・2年生】



問 2-2. 貴校では、4 年生以下の英語活動についてどのように考えていますか。学年群ごとに一つずつ選んでください。〈該当しない学年群は空欄〉

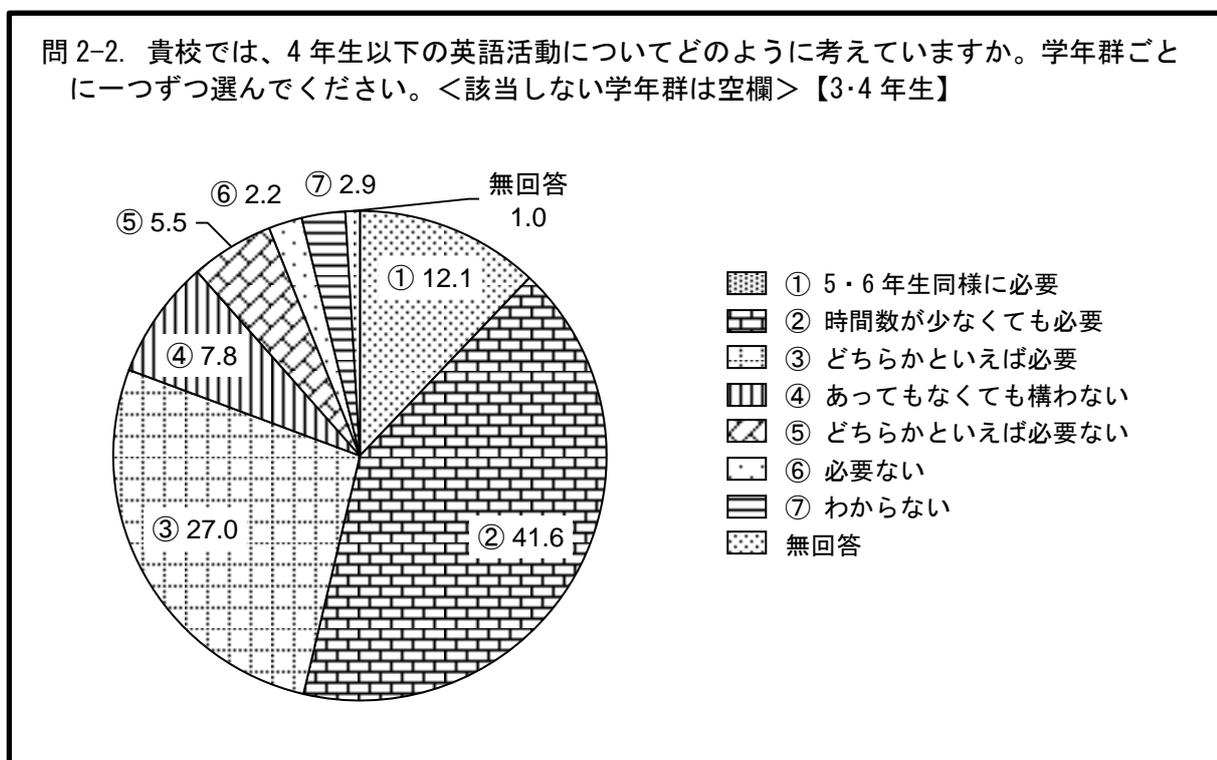
英語活動を必要だとする回答（「① 5・6 年生同様に必要」＋「② 時間数が少なくても必要」＋「③ どちらかといえば必要」）は、3・4 年生では 80.7%（昨年度 74.8%）、1・2 年生では 72.5%（昨年度 67.1%）と、大半を占めた。必要ないとする回答（「⑥ 必要ない」＋「⑤ どちらかといえば必要ない」）との差は、3・4 年生で 73.0 ポイント（昨年度 62.0 ポイント）、1・2 年生で 61.1 ポイント（昨年度 49.0 ポイント）と昨年よりさらに広がっている。

3・4 年生では、「② 時間数が少なくても必要」が 41.6%（昨年度 40.7%）と最も多く、「③ どちらかといえば必要」が 27.0%（昨年度 21.4%）で続いた。「⑤ どちらかといえば必要ない」と「⑥ 必要はない」という必要性を認めない回答の合計は 7.7%（昨年度 12.8%）と、昨年を 5.1 ポイントほど下回った。

1・2 年生では、同様に「② 時間数が少なくても必要」が 37.9%（昨年度 36.5%）と最も多く、次いで「③ どちらかといえば必要」が 26.9%（21.7%）となったが、「⑤ どちらかといえば必要ない」と「⑥ 必要ない」の回答の合計は 11.4%（昨年度 18.1%）と、3・4 年生同様昨年を 6.7 ポイント下回った。

【3・4 年生】

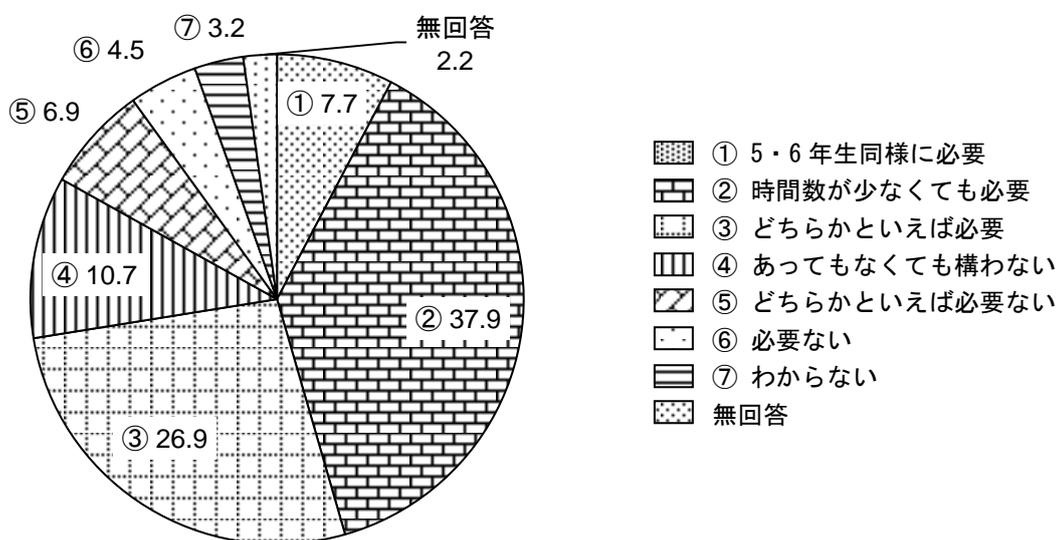
選択肢	回答数	N=1,684
① 5・6 年生同様に必要	203	12.1%
② 時間数が少なくても必要	701	41.6%
③ どちらかといえば必要	455	27.0%
④ あってもなくても構わない	132	7.8%
⑤ どちらかといえば必要ない	92	5.5%
⑥ 必要ない	37	2.2%
⑦ わからない	48	2.9%
無回答	16	1.0%



## 【1・2年生】

選択肢	回答数	N=1,684
① 5・6年生同様に必要	129	7.7%
② 時間数が少なくても必要	638	37.9%
③ どちらかといえば必要	453	26.9%
④ あってもなくても構わない	180	10.7%
⑤ どちらかといえば必要ない	117	6.9%
⑥ 必要ない	76	4.5%
⑦ わからない	54	3.2%
無回答	37	2.2%

問2-2. 貴校では、4年生以下の英語活動についてどのように考えていますか。学年群ごとに一つずつ選んでください。〈該当しない学年群は空欄〉【1・2年生】



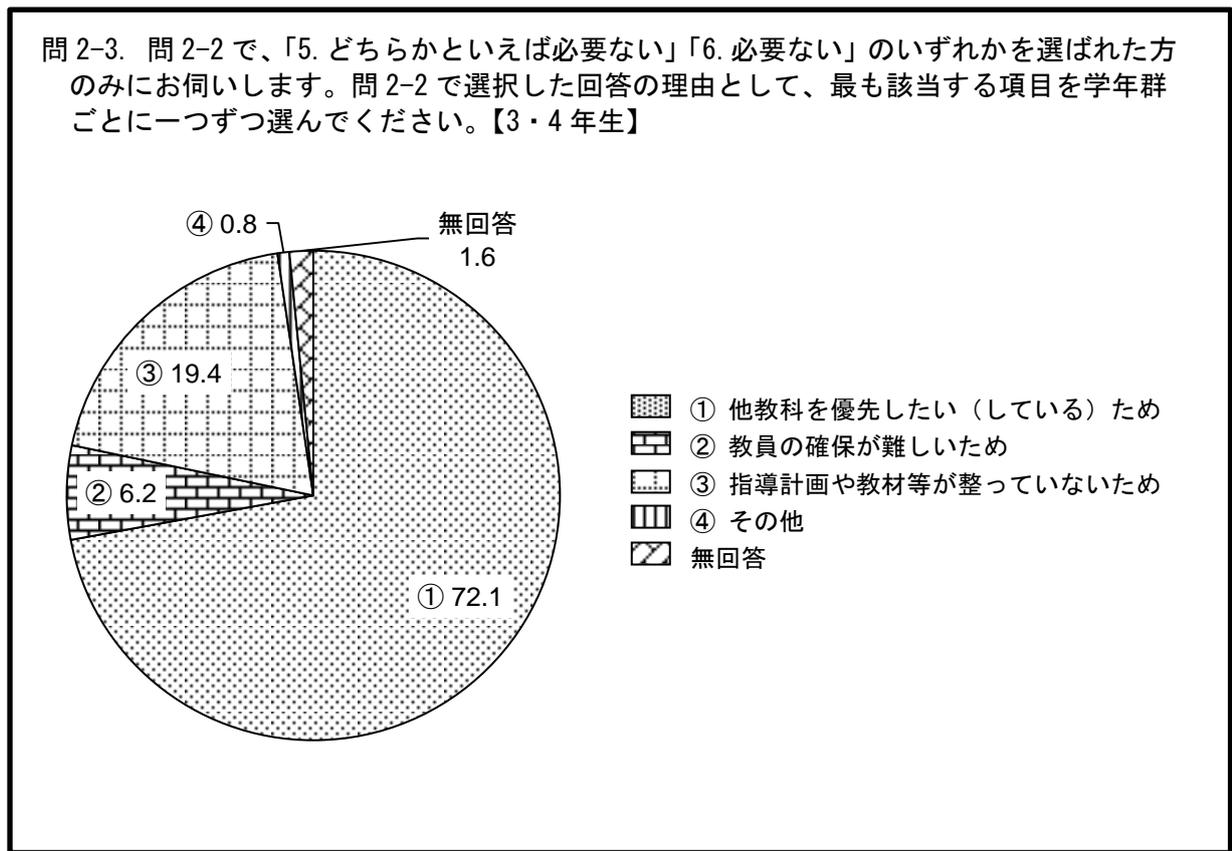
問2-3. 問2-2で、「5. どちらかといえば必要ない」「6. 必要ない」のいずれかを選ばれた方のみにお伺いします。問2-2で選択した回答の理由として、最も該当する項目を学年群ごとに一つずつ選んでください。

問2-2で、「5. どちらかといえば必要ない」「6. 必要ない」のいずれかを選んだ学校の理由としては、3・4年生、1・2年生とも「① 他教科を優先したい（している）ため」が最も多く、それぞれ72.1%、73.6%であった。次いで、「③ 指導計画や教材等が整っていないため」が3・4年生で19.4%、1・2年生で17.1%であった。

「④ その他」が、1・2年生で4.1%と3・4年生0.8%に比べてやや高かったが、理由としては「国語優先」「国や市の方針にない」などが挙げられている。

【3・4年生】

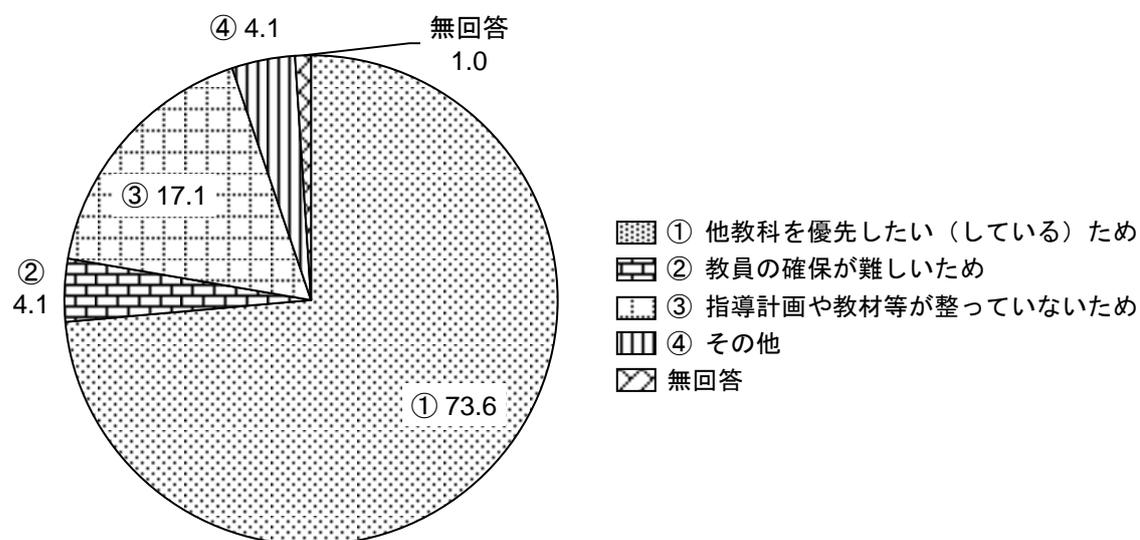
選択肢	回答数	N=129
① 他教科を優先したい（している）ため	93	72.1%
② 教員の確保が難しいため	8	6.2%
③ 指導計画や教材等が整っていないため	25	19.4%
④ その他	1	0.8%
無回答	2	1.6%



## 【1・2年生】

選択肢	回答数	N=193
① 他教科を優先したい（している）ため	142	73.6%
② 教員の確保が難しいため	8	4.1%
③ 指導計画や教材等が整っていないため	33	17.1%
④ その他	8	4.1%
無回答	2	1.0%

問2-3. 問2-2で、「5. どちらかといえば必要ない」「6. 必要ない」のいずれかを選ばれた方のみにお伺いします。問2-2で選択した回答の理由として、最も該当する項目を学年群ごとに一つずつ選んでください。【1・2年生】



問2-4. 問2-2で、「1. 5・6年生同様に必要」「2. 時間数が少なくても必要」「3. どちらかと言えば必要」のいずれかを選ばれた方にお伺いします。

問2-4-1. 問2-2で選択した回答の理由として、最も該当する項目を学年群ごとに一つずつ選んでください。

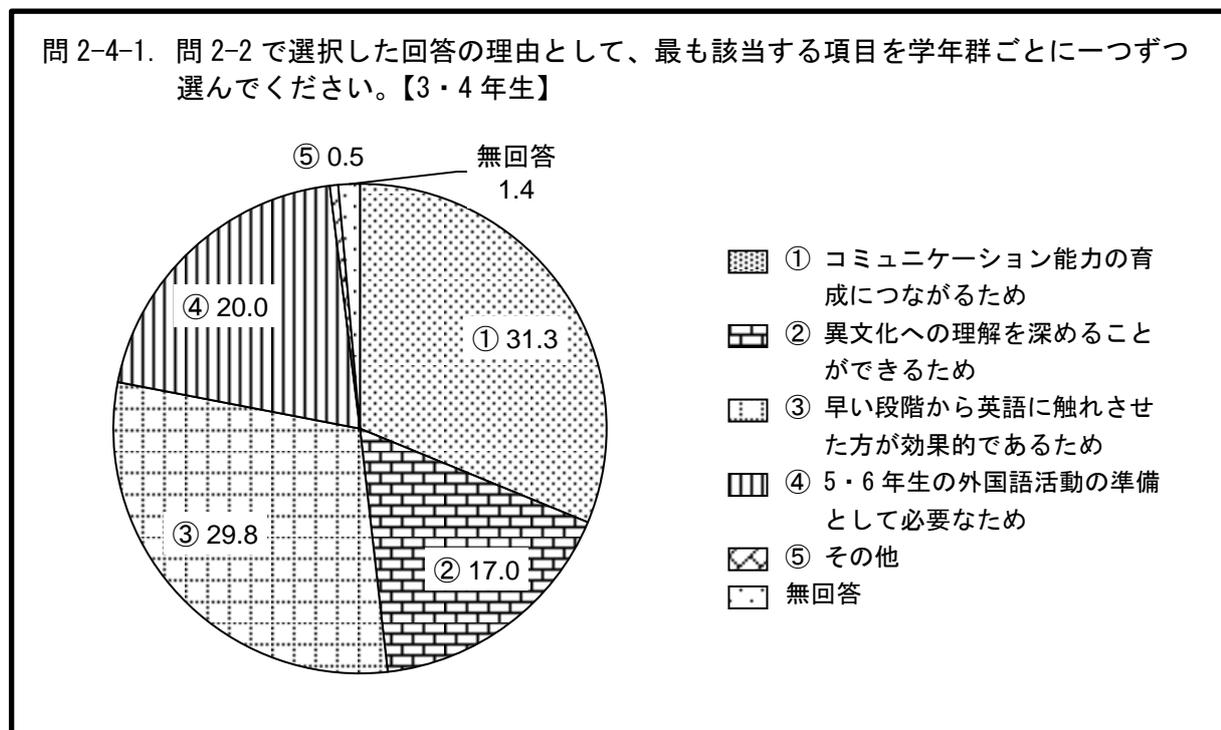
問2-2で4年生以下の英語活動について選択した回答の理由として、3・4年生で最も多かったのは「① コミュニケーション能力の育成につながるため」(31.3%)であった。次いで「③ 早い段階から英語に触れさせた方が効果的であるため」(29.8%)、「④ 5・6年生の外国語活動の準備として必要なため」(20.0%)、「② 異文化への理解を深めることができるため」(17.0%)の順であった。

1・2年生では、「③ 早い段階から英語に触れさせた方が効果的であるため」が46.7%と最も多かった。2位は、「① コミュニケーション能力の育成につながるため」(28.6%)、3位は「② 異文化への理解を深めることができるため」(19.2%)であった。

学年ごとに回答の差が大きいものとして、「④5・6年生の外国語活動の準備として必要なため」は3・4年生が1・2年生を、「③早い段階から英語に触れさせた方が効果的であるため」は1・2年生が3・4年生を、ともに17ポイント近く上回っている。それぞれの学年群の特性に応じた回答の差である。

**【3・4年生】**

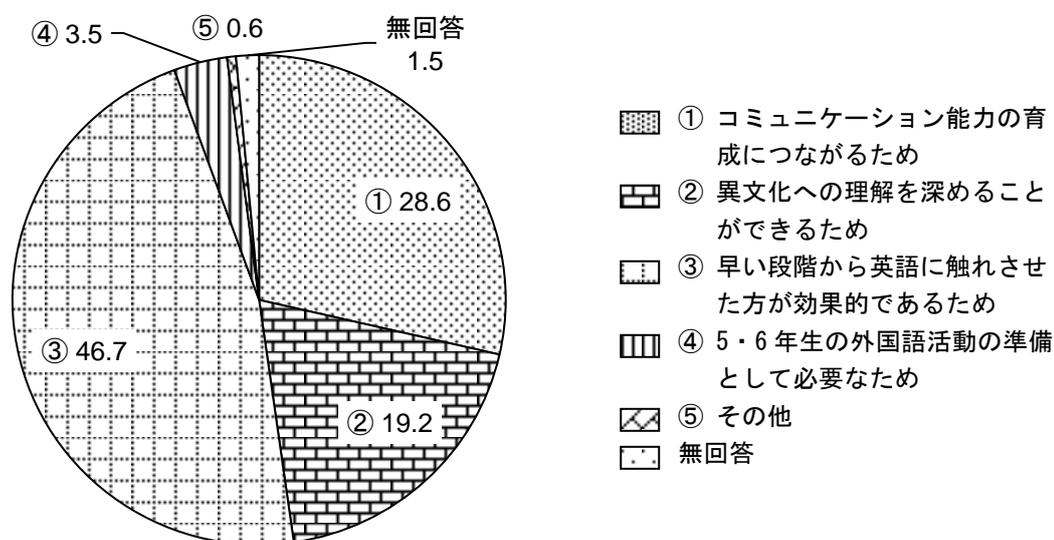
選択肢	回答数	N=1,280
① コミュニケーション能力の育成につながるため	400	31.3%
② 異文化への理解を深めることができるため	217	17.0%
③ 早い段階から英語に触れさせた方が効果的であるため	382	29.8%
④ 5・6年生の外国語活動の準備として必要なため	256	20.0%
⑤ その他	7	0.5%
無回答	18	1.4%



## 【1・2年生】

選択肢	回答数	N=1,200
① コミュニケーション能力の育成につながるため	343	28.6%
② 異文化への理解を深めることができるため	230	19.2%
③ 早い段階から英語に触れさせた方が効果的であるため	560	46.7%
④ 5・6年生の外国語活動の準備として必要なため	42	3.5%
⑤ その他	7	0.6%
無回答	18	1.5%

問 2-4-1. 問 2-2 で選択した回答の理由として、最も該当する項目を学年群ごとに一つずつ選んでください。【1・2年生】



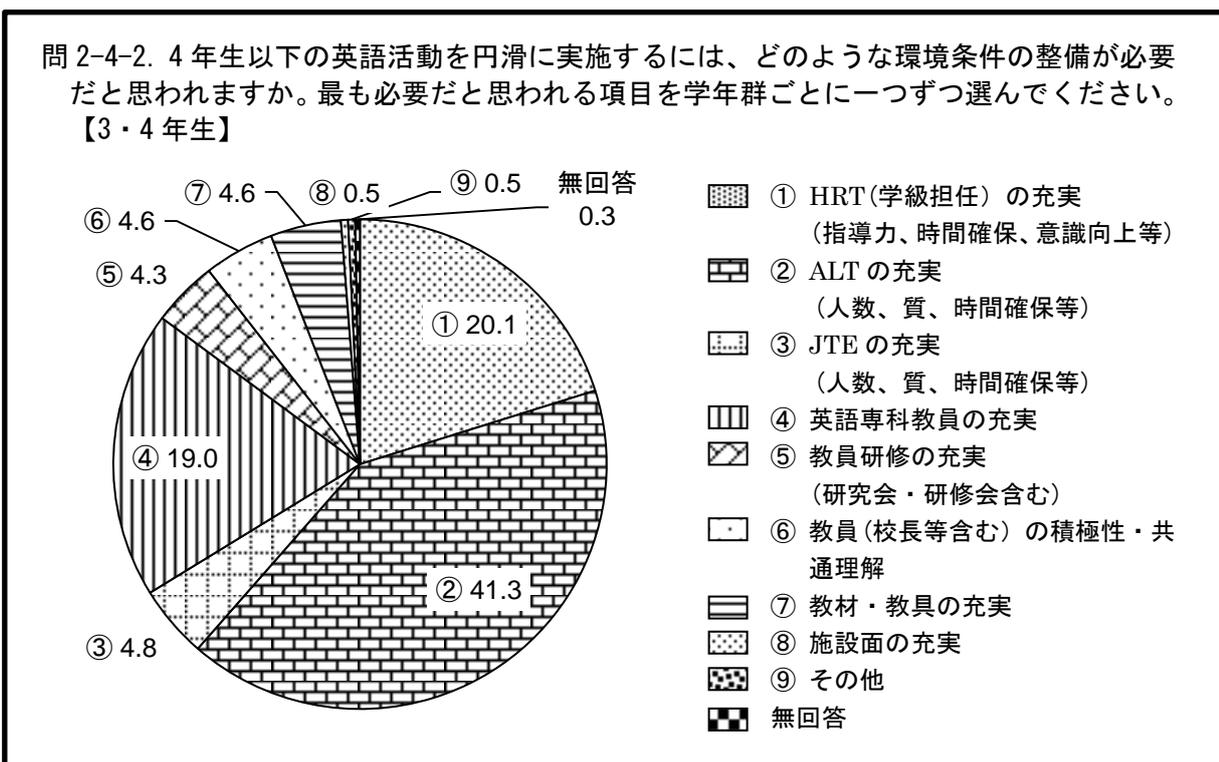
問2-4-2. 4年生以下の英語活動を円滑に実施するには、どのような環境条件の整備が必要だと思いますか。最も必要だと思われる項目を学年群ごとに一つずつ選んでください。

4年生以下の英語活動を円滑に実施するために必要な環境条件の整備について質問したところ、最も強く求められているのが、3・4年生、1・2年生とも「② ALTの充実(人数、質、時間確保等)」で、それぞれ41.3%、40.4%と約4割にのぼった。次いで、3・4年生、1・2年生とも「① HRT(学級担任)の充実(指導力、時間確保、意識向上等)」が、それぞれ20.1%、20.5%となった。第3位も3・4年生、1・2年生ともに「④ 英語専科教員の充実」で、それぞれ19.0%、16.6%であった。学年群ごとの差はほとんど見られない。

昨年度との比較は、昨年度が1年生から4年生までを一括して聞いているので、今年度の3・4年生と1・2年生の%値の平均値で比較した。全体の順位としては大きな変動はないが、今年度から追加された選択肢である「④ 英語専科教員の充実」が17.8%で3位を占めた。「② ALT(外国人指導助手)の充実」が今年度40.9%で、昨年度46.9%に対し6.0ポイント減、「③ JTEの充実(人数、質、時間確保等)」が今年度4.7%で、昨年度12.1%に対し7.4ポイント減、「⑥ 教員(校長等含む)の積極性・共通理解」が今年度4.6%で、昨年度7.7%に対し3.1ポイント減と、いずれもマイナスとなっているのは、「④ 英語専科教員の充実」に流れたためと推察される。

【3・4年生】

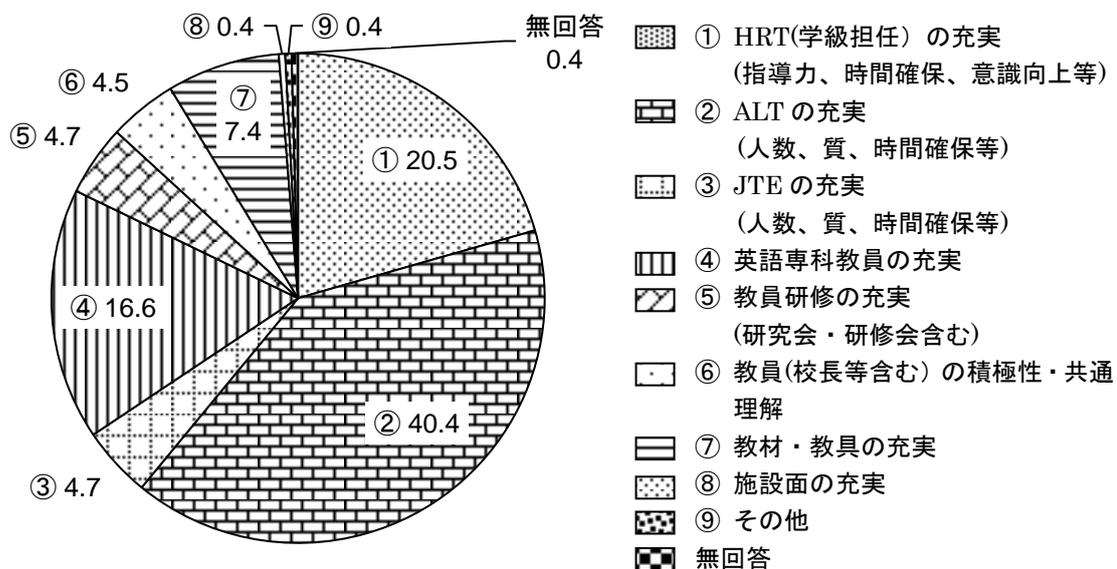
選択肢	回答数	N=1,296
① HRT(学級担任)の充実(指導力、時間確保、意識向上等)	261	20.1%
② ALTの充実(人数、質、時間確保等)	535	41.3%
③ JTEの充実(人数、質、時間確保等)	62	4.8%
④ 英語専科教員の充実	246	19.0%
⑤ 教員研修の充実(研究会・研修会含む)	56	4.3%
⑥ 教員(校長等含む)の積極性・共通理解	60	4.6%
⑦ 教材・教具の充実	60	4.6%
⑧ 施設面の充実	6	0.5%
⑨ その他	6	0.5%
無回答	4	0.3%



【1・2年生】

選択肢	回答数	N=1,203
① HRT (学級担任) の充実 (指導力、時間確保、意識向上等)	247	20.5%
② ALT の充実 (人数、質、時間確保等)	486	40.4%
③ JTE の充実 (人数、質、時間確保等)	56	4.7%
④ 英語専科教員の充実	200	16.6%
⑤ 教員研修の充実 (研究会・研修会含む)	56	4.7%
⑥ 教員 (校長等含む) の積極性・共通理解	54	4.5%
⑦ 教材・教具の充実	89	7.4%
⑧ 施設面の充実	5	0.4%
⑨ その他	5	0.4%
無回答	5	0.4%

問 2-4-2. 4年生以下の英語活動を円滑に実施するには、どのような環境条件の整備が必要だと思われますか。最も必要だと思われる項目を学年群ごとに一つずつ選んでください。  
【1・2年生】



問3. 「外国語活動及び英語活動のご担当者」についてお伺いします。

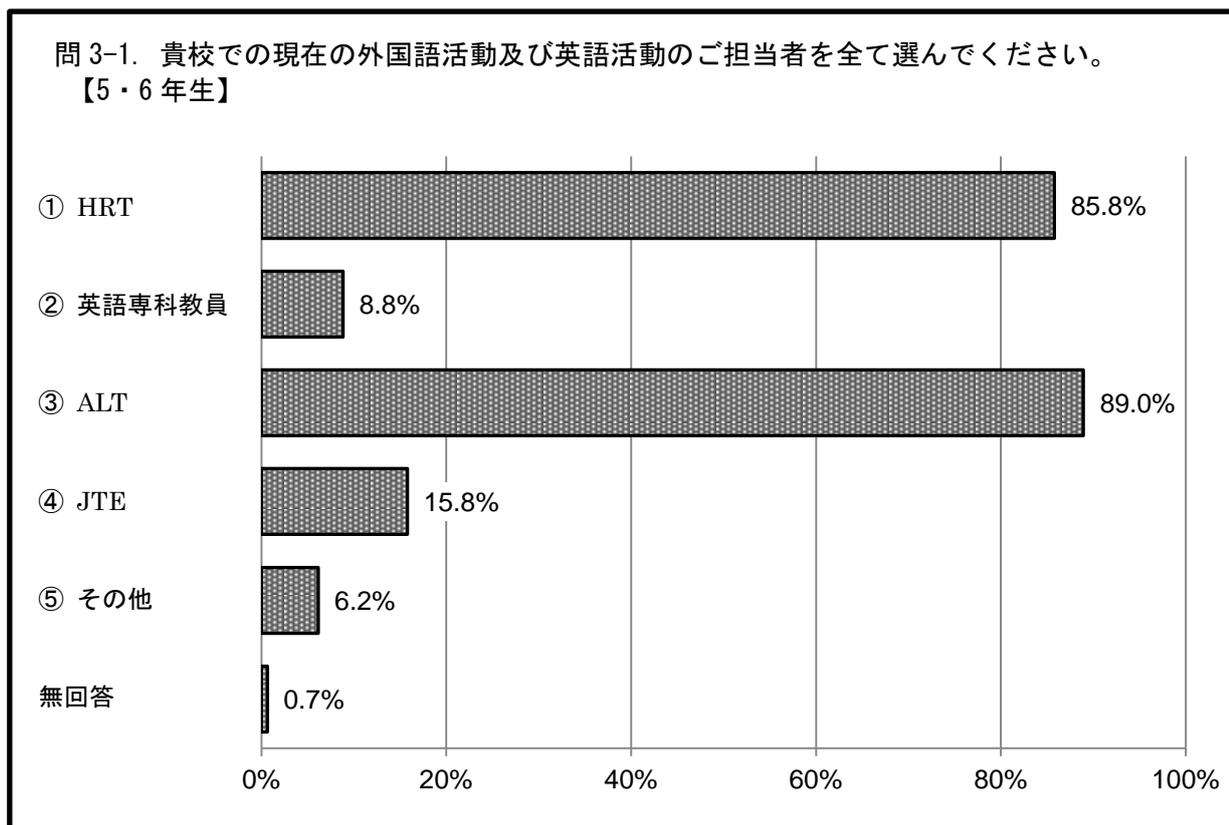
問3-1. 貴校での現在の外国語活動及び英語活動のご担当者を全て選んでください。

外国語活動及び英語活動の担当者としては、どの学年群とも「③ ALT」が最も多く、次いで「① HRT」であった。3位も、どの学年群とも「④ JTE」であった。昨年度は、5・6年生で「① HRT」「③ ALT」の順であったが、今年度は逆の結果となった。

昨年との比較においてすべての学年群で共通する傾向は、「①HRT」(5・6年生で+8.71ポイント、3・4年生で+9.8ポイント、1・2年生で+18.6ポイント)と「③ALT」(5・6年生で+18.5ポイント、3・4年生で+16.1ポイント、1・2年生で+15.1ポイント)においてパーセンテージが上昇し、「④JTE」が下降(5・6年生で-5.1ポイント、3・4年生で-2.6ポイント、1・2年生で-3.5ポイント)していることである。なお、「②英語専科教員」は今回から加わった選択肢なので、前年との比較はできない。

【5・6年生】

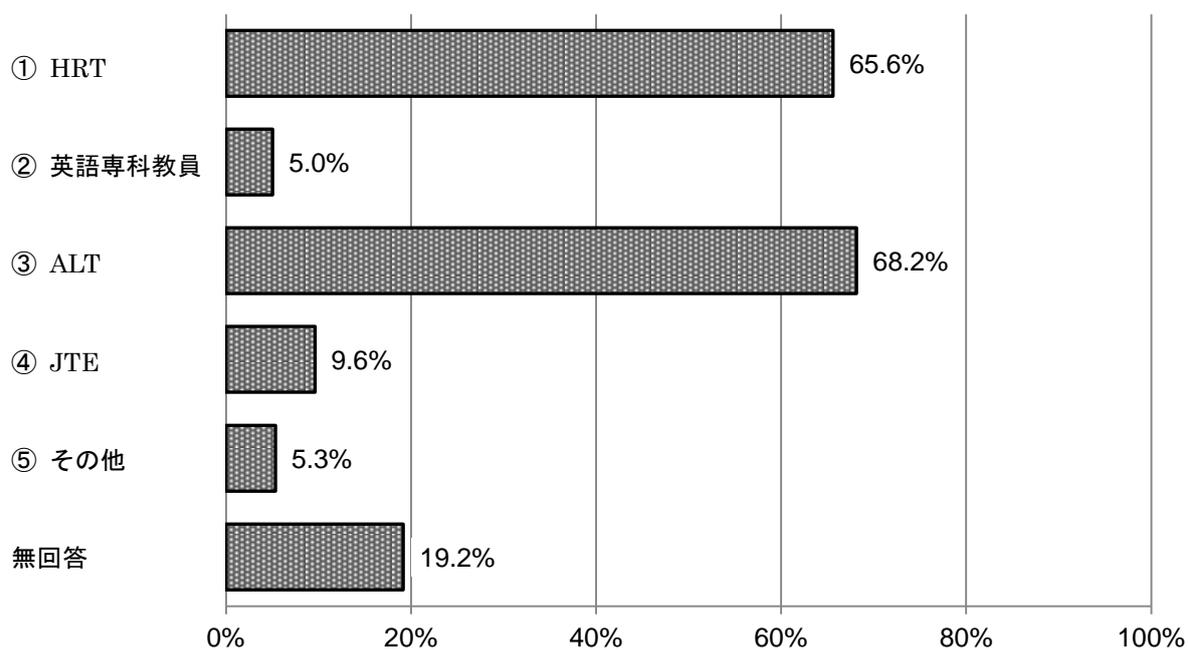
選択肢	回答数	N=1,684
① HRT	1,445	85.8%
② 英語専科教員	149	8.8%
③ ALT	1,498	89.0%
④ JTE	266	15.8%
⑤ その他	104	6.2%
無回答	11	0.7%



## 【3・4年生】

選択肢	回答数	N=1,684
① HRT	1,105	65.6%
② 英語専科教員	85	5.0%
③ ALT	1,148	68.2%
④ JTE	162	9.6%
⑤ その他	90	5.3%
無回答	323	19.2%

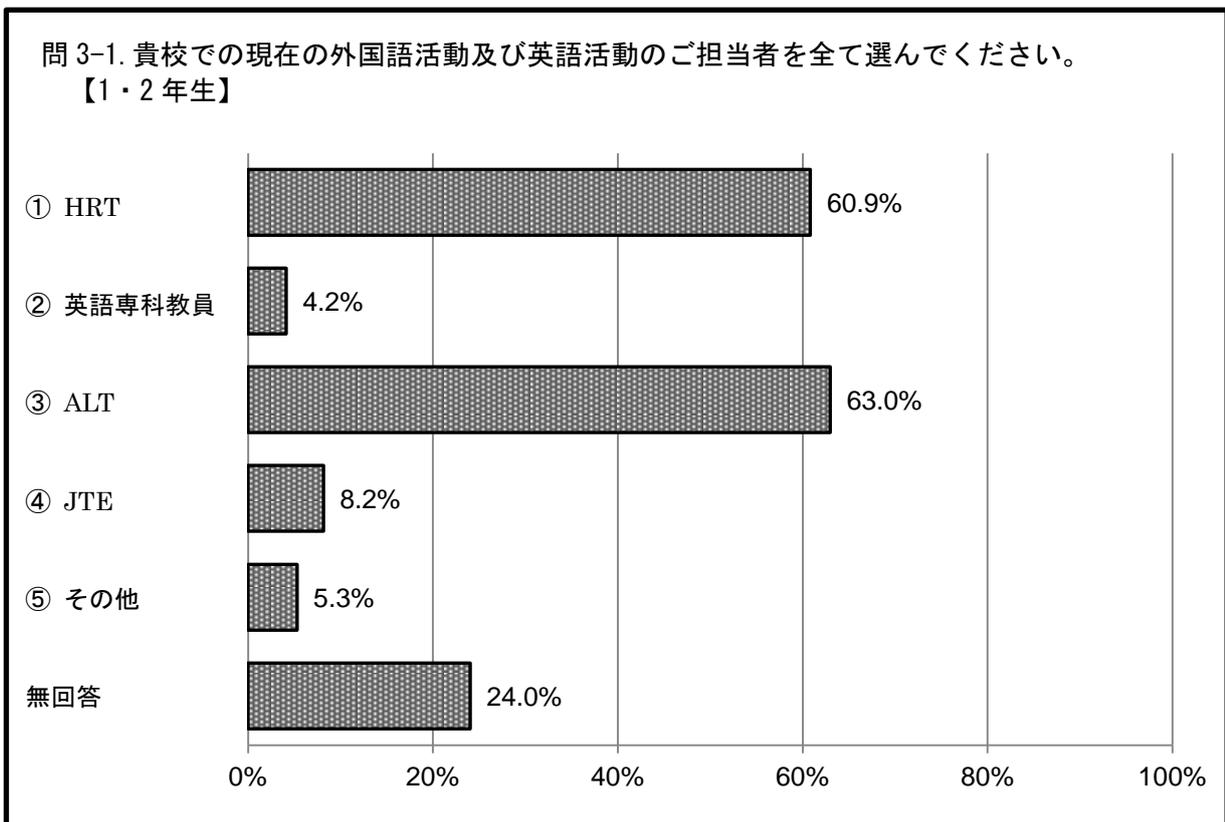
問3-1. 貴校での現在の外国語活動及び英語活動のご担当者を選んでください。【3・4年生】



(問3-1)

【1・2年生】

選択肢	回答数	N=1,684
① HRT	1,025	60.9%
② 英語専科教員	70	4.2%
③ ALT	1,061	63.0%
④ JTE	138	8.2%
⑤ その他	90	5.3%
無回答	405	24.0%



問3-2. 外国語活動及び英語活動において望ましいと思われるご担当者を全て選んでください。

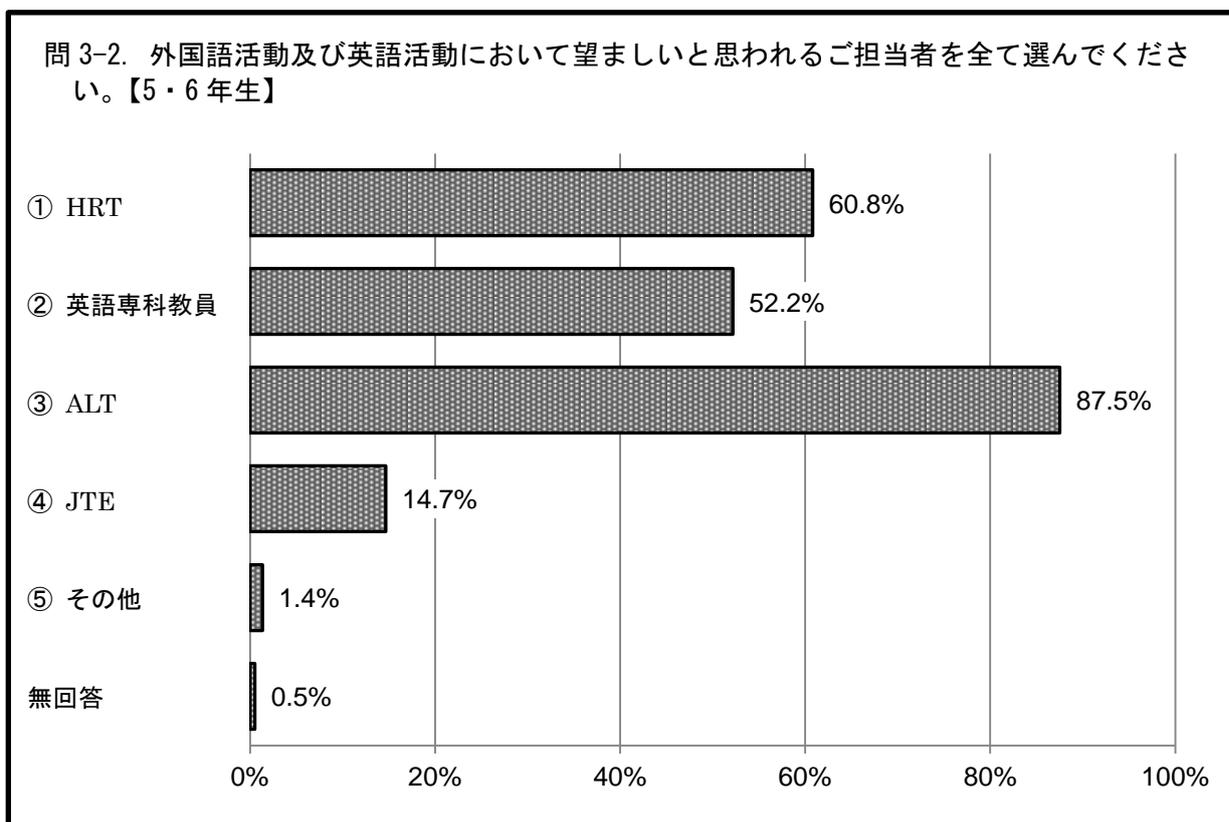
外国語活動及び英語活動において望ましいと思われる担当者としては、全ての学年群において、「③ ALT」「① HRT」「② 英語専科教員」の順であった。「③ ALT」については、5・6年生で87.5%、3・4年生で79.0%、1・2年生で76.3%と学年が下がるにつれて比率が下がっている。「② 英語専科教員」についても同様に、5・6年生で52.2%、3・4年生で34.6%、1・2年生で29.8%と、全体に占める割合はALTより低いものの、学年が下がるにつれて比率が下がっている。

外国語活動及び英語活動において「現在の担当者」と、「望ましいと思われる担当者」とを比較したところ《⇒比較の表とグラフは5・6年生p40、3・4年生p41、1・2年生p42》、「望ましいと思われる担当者」が「現在の担当者」を大きく上回るものとして、「②英語専科教員」がある。5・6年生で43.4ポイント、3・4年生で29.6ポイント、1・2年生で25.6ポイントと、全学年群で大きく上回っており「②英語専科教員」が望まれていることがうかがえる。「③ALT」も3・4年生で10.8ポイント、1・2年生で13.3ポイント、「望ましいと思われる担当者」が「現在の担当者」を上回っている。「①HRT」は、逆に「望ましいと思われる担当者」が「現在の担当者」を下回っており、5・6年生で25.0ポイント下回っている。

上記の結果から、高学年の5・6年生においては、現状に対して「①HRT」よりも「②英語専科教員」を望む傾向が特に強いと言えよう。1・2年生では、「②英語専科教員」や「③ALT」が望ましいとする声が高まっているが、「①HRT」は「望ましいと思われる担当者」と「現在の担当者」がほぼ同率となっている。

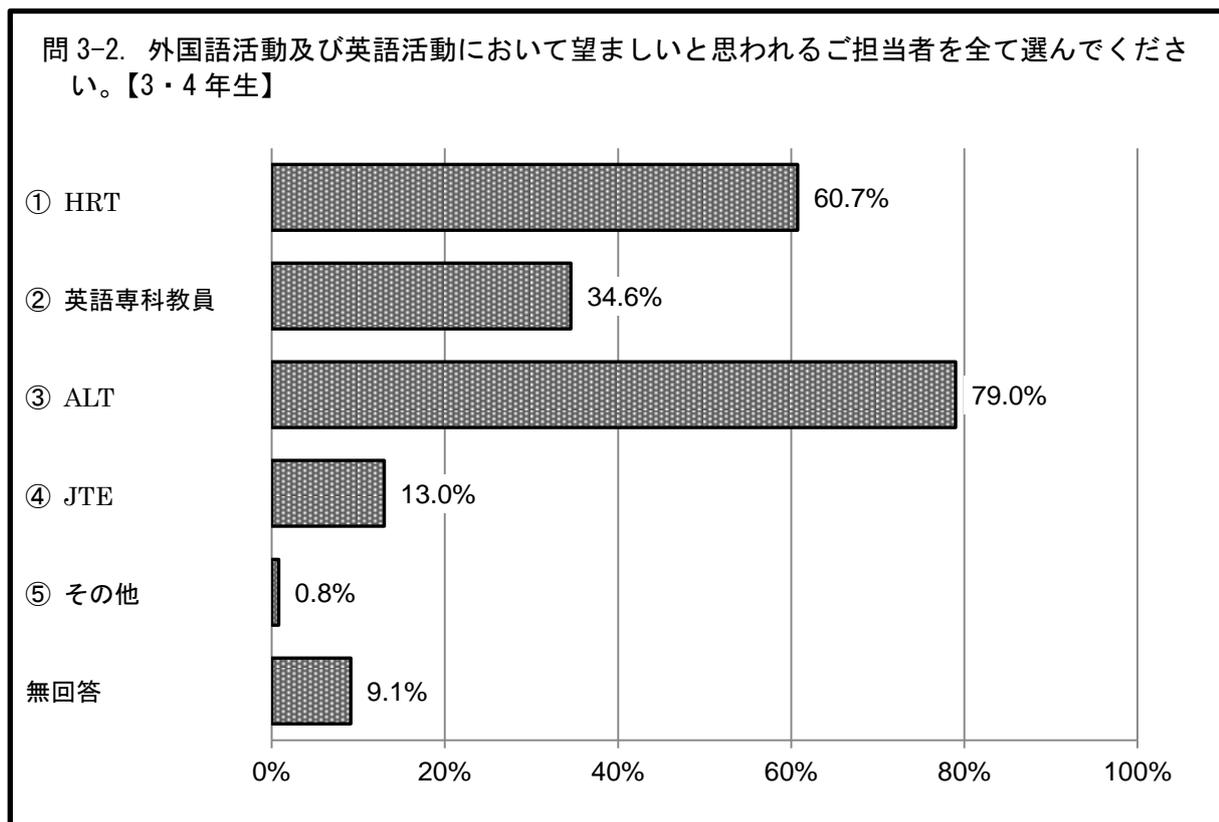
【5・6年生】

選択肢	回答数	N=1,684
① HRT	1,024	60.8%
② 英語専科教員	879	52.2%
③ ALT	1,474	87.5%
④ JTE	247	14.7%
⑤ その他	23	1.4%
無回答	9	0.5%



【3・4年生】

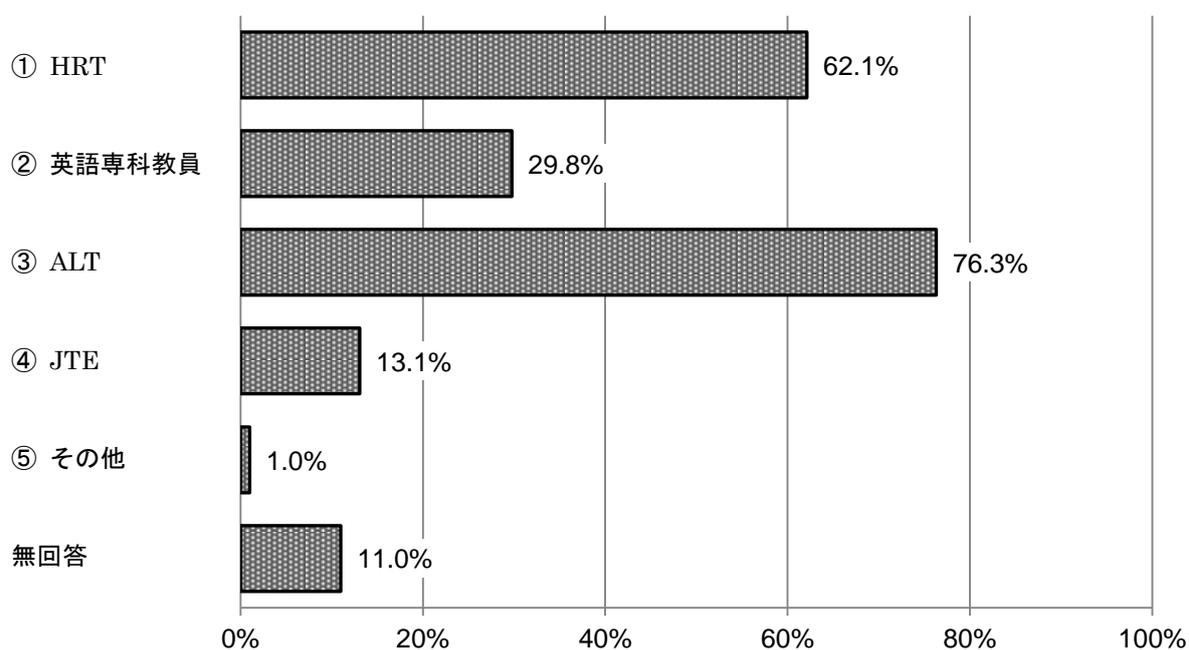
選択肢	回答数	N=1,684
① HRT	1,023	60.7%
② 英語専科教員	582	34.6%
③ ALT	1,330	79.0%
④ JTE	219	13.0%
⑤ その他	14	0.8%
無回答	154	9.1%



## 【1・2年生】

選択肢	回答数	N=1,684
① HRT	1,046	62.1%
② 英語専科教員	501	29.8%
③ ALT	1,285	76.3%
④ JTE	220	13.1%
⑤ その他	17	1.0%
無回答	185	11.0%

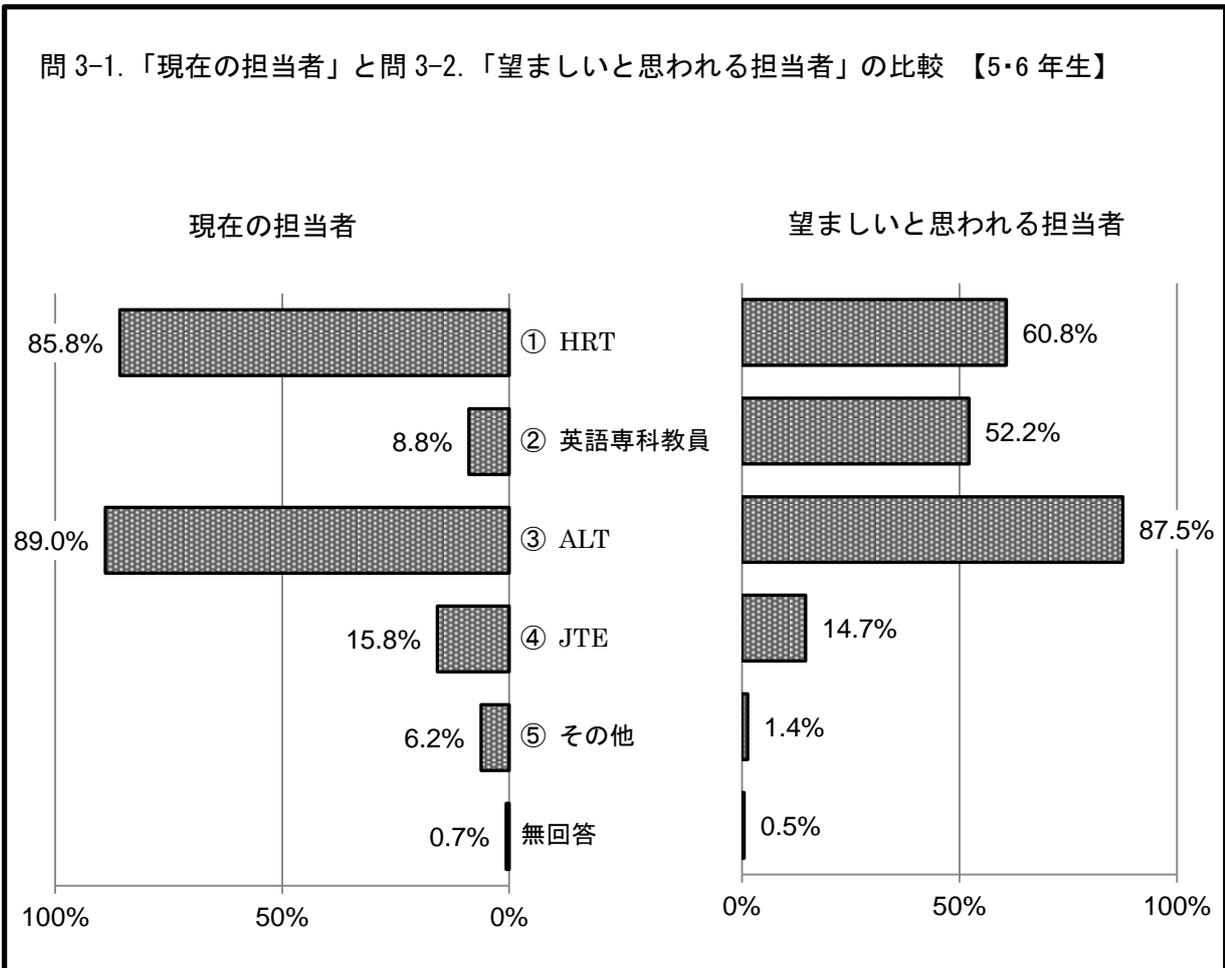
問3-2. 外国語活動及び英語活動において望ましいと思われるご担当者を全て選んでください。【1・2年生】



問3-1. 「現在の担当者」と問3-2「望ましいと思われる担当者」の比較

【5・6年生】

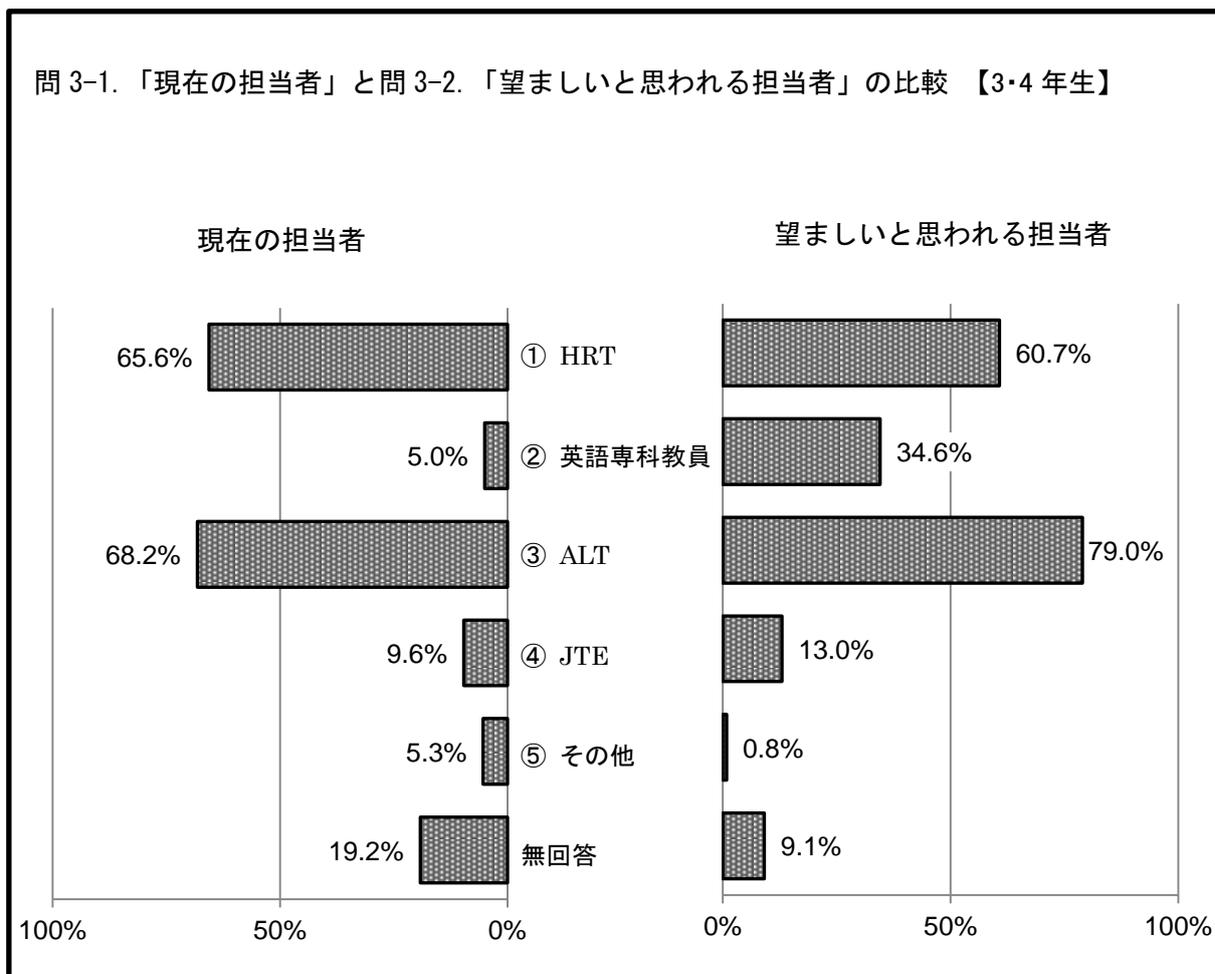
選択肢	現在の担当者	望ましいと思われる担当者
① HRT	85.8%	60.8%
② 英語専科教員	8.8%	52.2%
③ ALT	89.0%	87.5%
④ JTE	15.8%	14.7%
⑤ その他	6.2%	1.4%
無回答	0.7%	0.5%



## 【3・4年生】

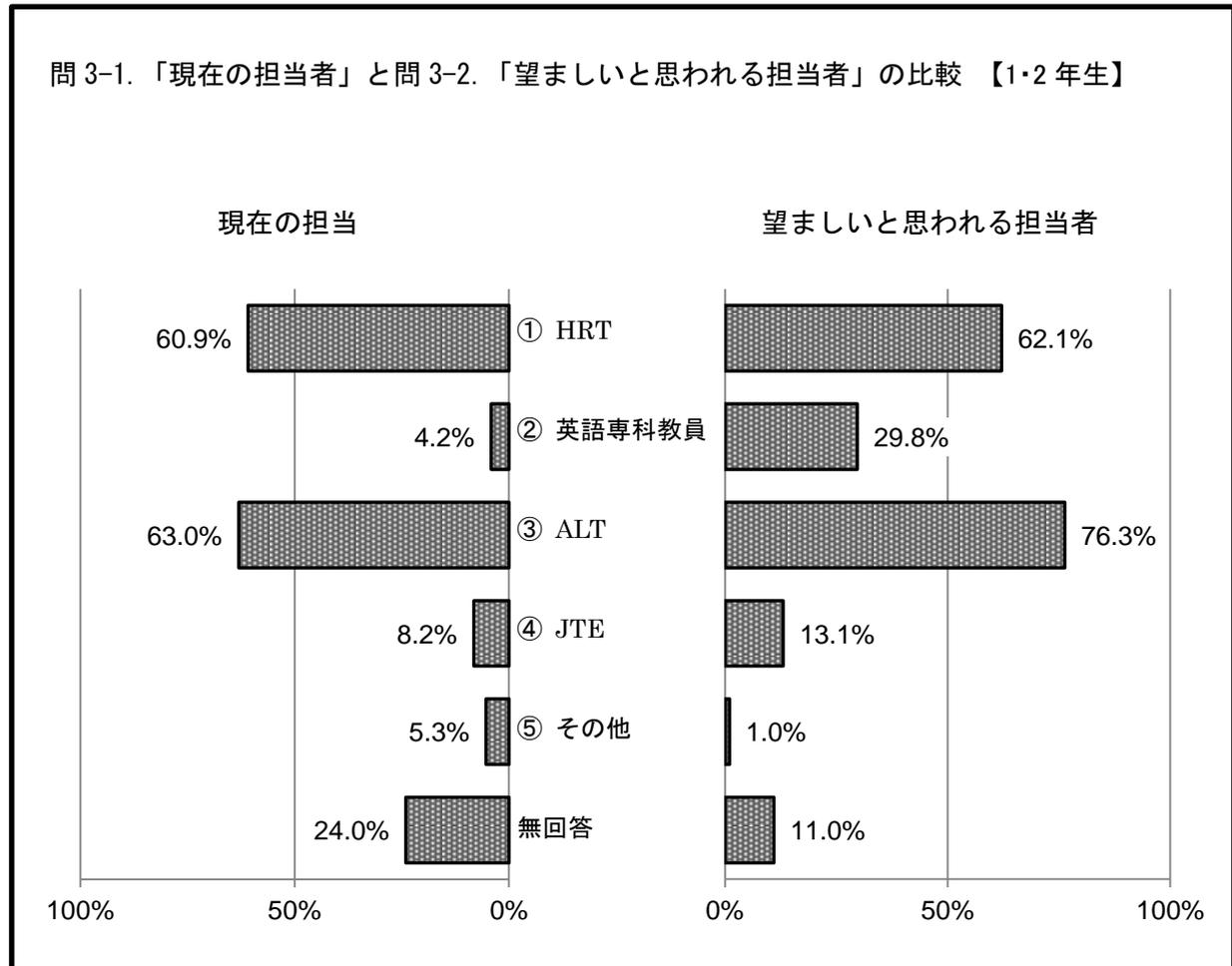
選択肢	現在の担当者	望ましいと思われる担当者
① HRT	65.6%	60.7%
② 英語専科教員	5.0%	34.6%
③ ALT	68.2%	79.0%
④ JTE	9.6%	13.0%
⑤ その他	5.3%	0.8%
無回答	19.2%	9.1%

問3-1. 「現在の担当者」と問3-2. 「望ましいと思われる担当者」の比較 【3・4年生】



【1・2年生】

選択肢	現在の担当者	望ましいと思われる担当者
① HRT	60.9%	62.1%
② 英語専科教員	4.2%	29.8%
③ ALT	63.0%	76.3%
④ JTE	8.2%	13.1%
⑤ その他	5.3%	1.0%
無回答	24.0%	11.0%



問4. 「外国語活動及び英語活動で使用している教材」についてお伺いします。

問4-1. 貴校での現在の「使用教材」を学年群ごとに全て選んでください。〈該当しない学年群は空欄〉

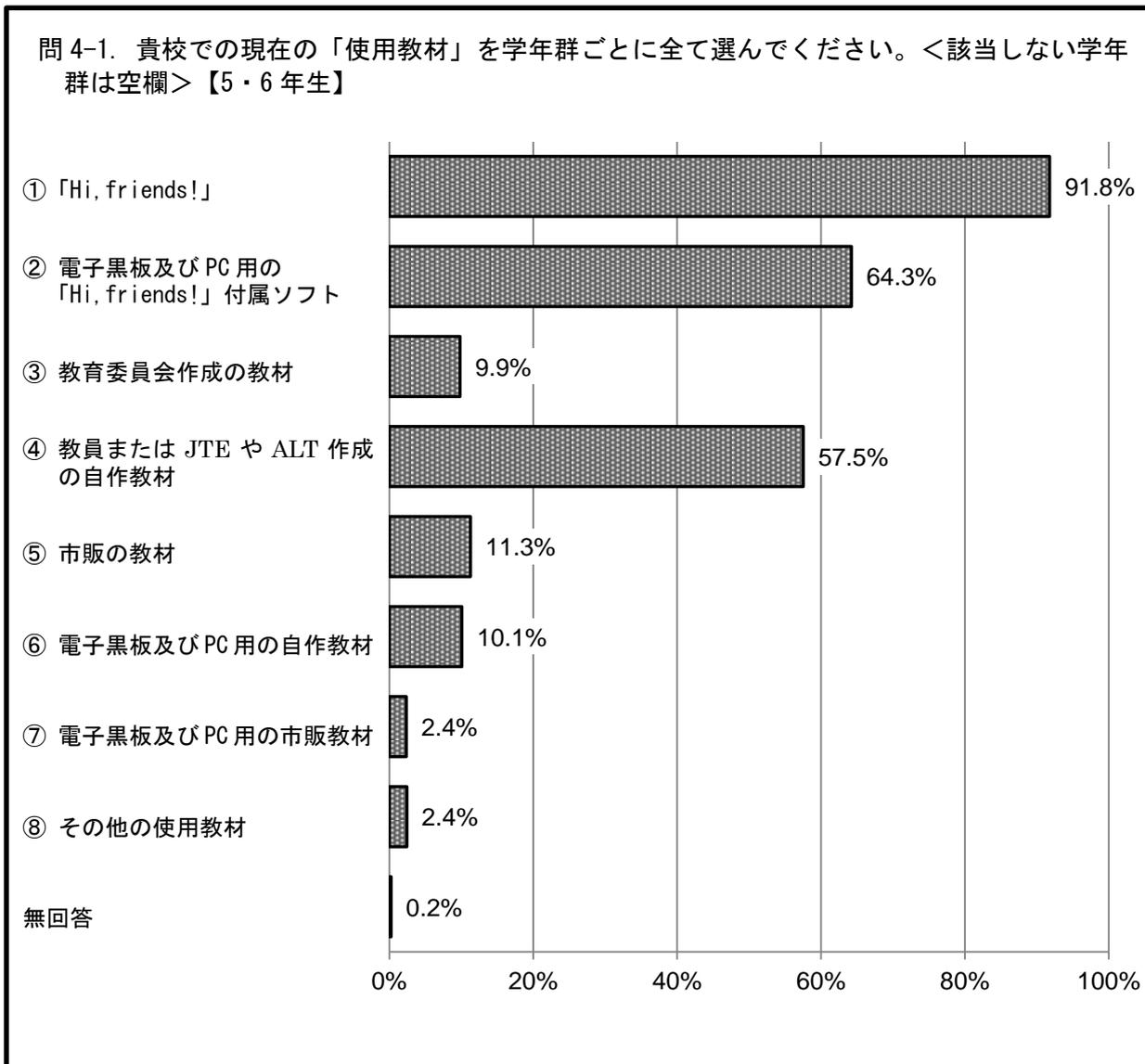
使用している教材は、5・6年生では、「①Hi, friends!」が91.8%（昨年度91.2%）と昨年に引き続き圧倒的に多かった。次いで2位に「②電子黒板及びPC用の『Hi, friends!』付属ソフト」64.3%（昨年度52.5%）が入るなど、「Hi, friends!」が英語活動教材の中心的存在を担っていることが鮮明になった。

「④教員またはJTEやALT作成の自作教材」も57.5%（昨年度49.2%）と高い比率を示した。この「④教員またはJTEやALT作成の自作教材」は昨年度よりも6.3ポイント高く、昨年度はその前年度よりさらに8.4ポイント高かったことから、年々「④教員またはJTEやALT作成の自作教材」の比率が高くなっていることがわかった。以下は、「⑤市販の教材」11.3%（昨年度16.1%）、「⑥電子黒板及びPC用の自作教材」10.1%（昨年度9.0%）、「③教育委員会作成の教材」9.9%（昨年度10.1%）と続いた。

3・4年生、1・2年生では「④教員またはJTEやALT作成の自作教材」が50%を超えた（3・4年生60.3%、1・2年生56.4%）。次いで、2位の「⑤市販の教材」、3位の「③教育委員会作成の教材」は同じ順位だった。3・4年生では「①『Hi, friends!』」の使用が4.0%、1・2年生では1.9%と、学年群が下がるにつれ、「①『Hi, friends!』」の使用割合が低くなるが、3・4年生で1.6ポイント増加、1・2年生もほぼ昨年並みとなっている。一方で「④市販の教材」がすべての学年群で5ポイント前後下がっていることは昨年にはなかった傾向である。

【5・6年生】

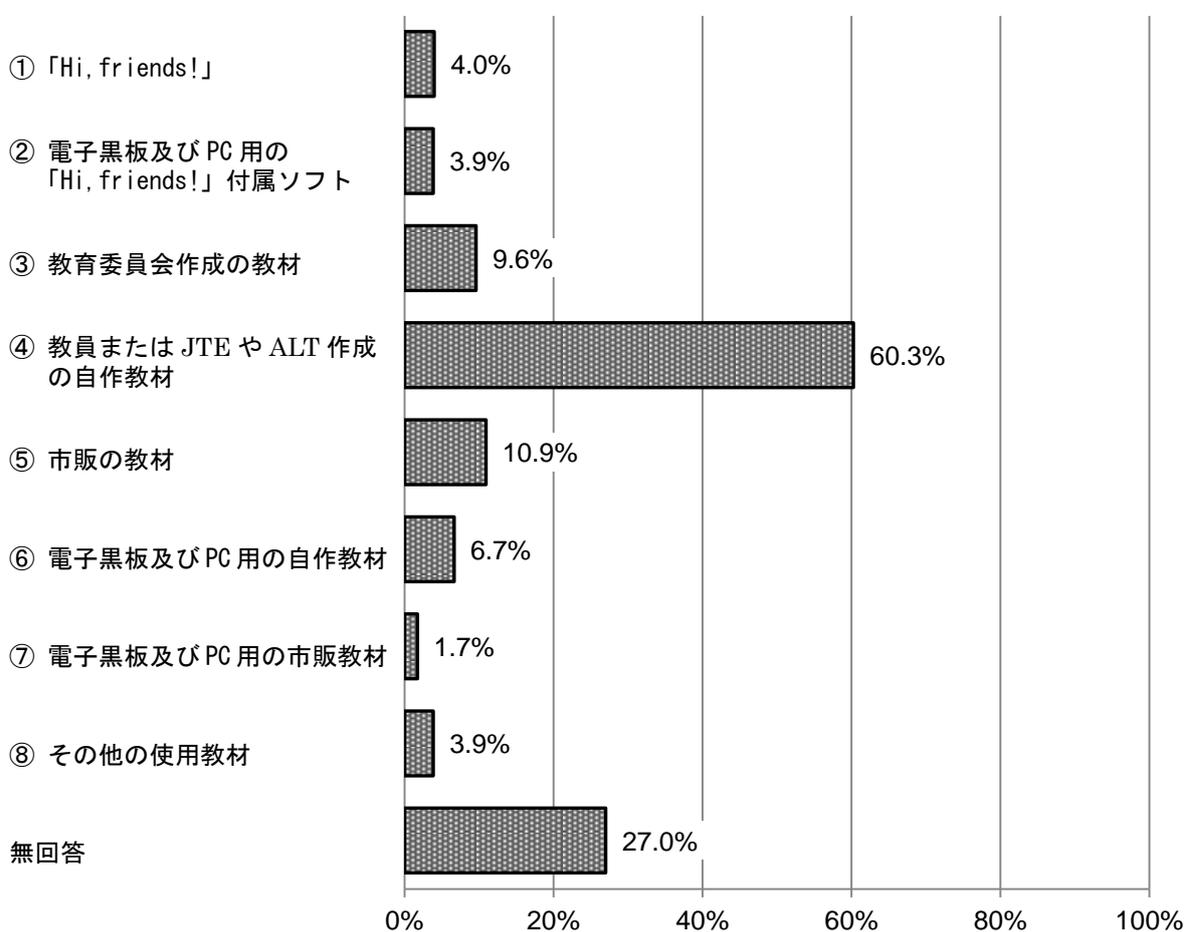
選択肢	回答数	N=1,684
① 「Hi, friends!」	1,546	91.8%
② 電子黒板及びPC用の「Hi, friends!」付属ソフト	1,082	64.3%
③ 教育委員会作成の教材	166	9.9%
④ 教員またはJTEやALT作成の自作教材	969	57.5%
⑤ 市販の教材	190	11.3%
⑥ 電子黒板及びPC用の自作教材	170	10.1%
⑦ 電子黒板及びPC用の市販教材	40	2.4%
⑧ その他の使用教材	41	2.4%
無回答	4	0.2%



## 【3・4年生】

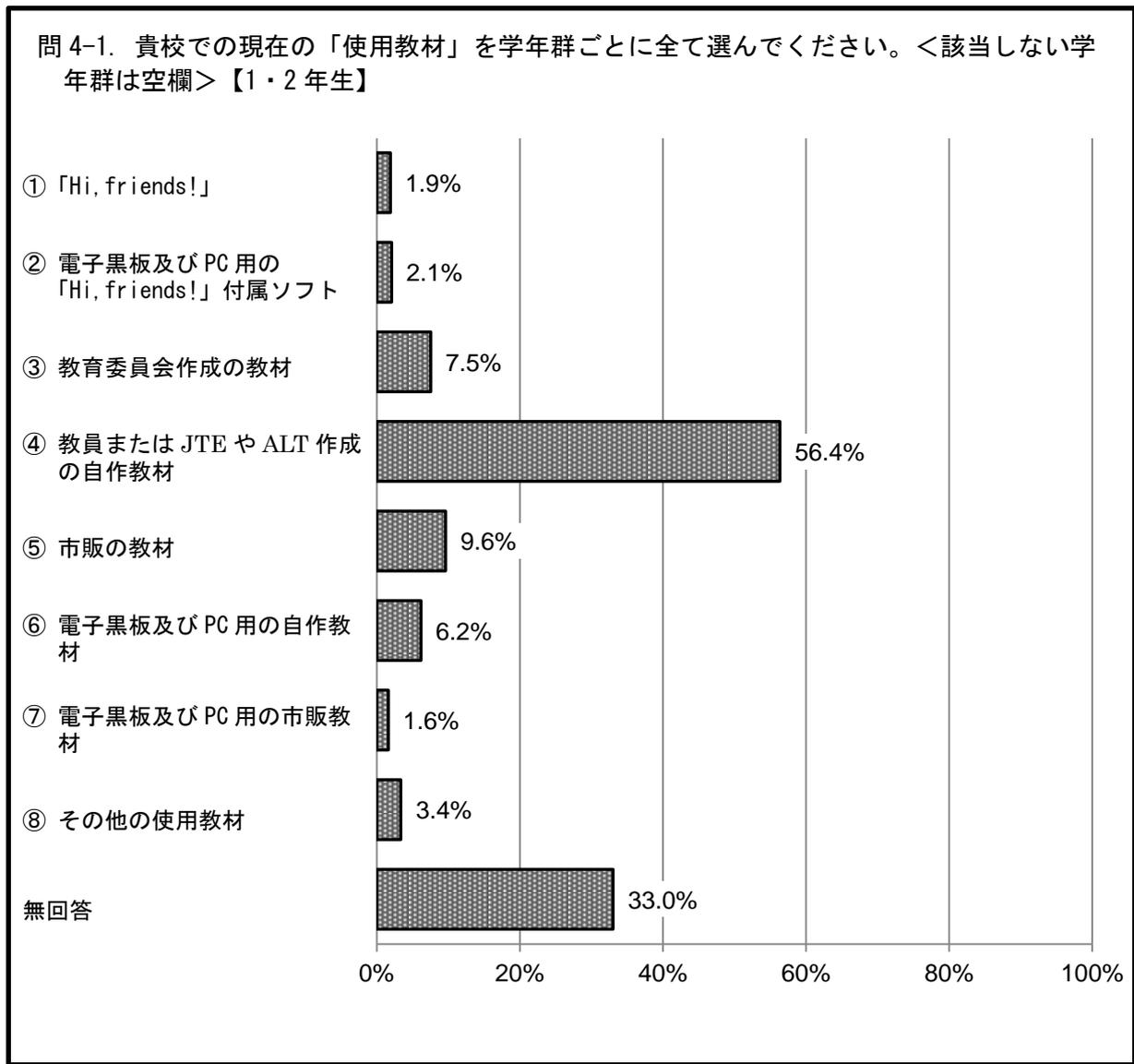
選択肢	回答数	N=1,684
① 「Hi, friends!」	67	4.0%
② 電子黒板及びPC用の「Hi, friends!」付属ソフト	65	3.9%
③ 教育委員会作成の教材	162	9.6%
④ 教員またはJTEやALT作成の自作教材	1,015	60.3%
⑤ 市販の教材	184	10.9%
⑥ 電子黒板及びPC用の自作教材	112	6.7%
⑦ 電子黒板及びPC用の市販教材	29	1.7%
⑧ その他の使用教材	65	3.9%
無回答	455	27.0%

問 4-1. 貴校での現在の「使用教材」を学年群ごとに全て選んでください。＜該当しない学年群は空欄＞ 【3・4年生】



【1・2年生】

選択肢	回答数	N=1,684
① 「Hi, friends!」	32	1.9%
② 電子黒板及びPC用の「Hi, friends!」付属ソフト	35	2.1%
③ 教育委員会作成の教材	127	7.5%
④ 教員またはJTEやALT作成の自作教材	949	56.4%
⑤ 市販の教材	162	9.6%
⑥ 電子黒板及びPC用の自作教材	104	6.2%
⑦ 電子黒板及びPC用の市販教材	27	1.6%
⑧ その他の使用教材	57	3.4%
無回答	556	33.0%

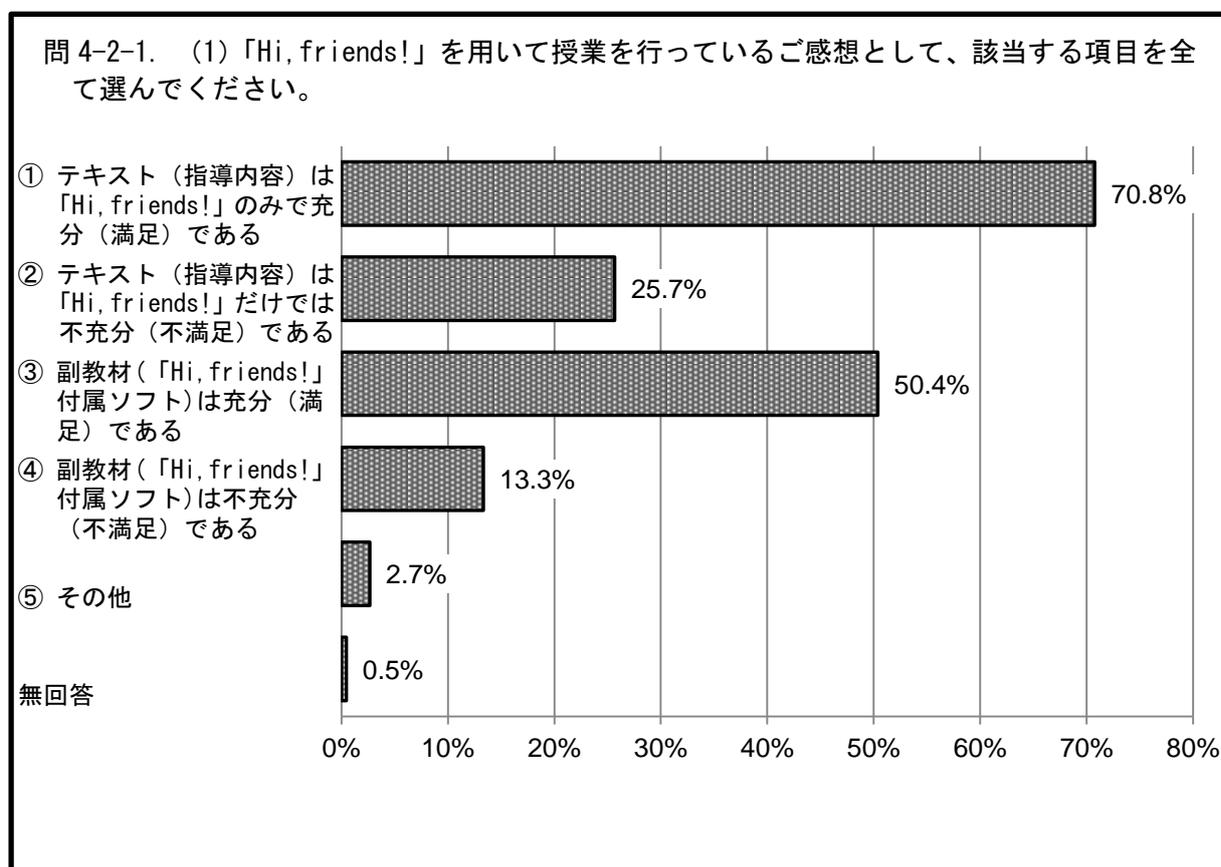


問4-2. 問4-1で、5・6年生の使用教材に「1.『Hi, friends!』」を選ばれた方にお伺いします。  
問4-2-1. (1)「Hi, friends!」を用いて授業を行っているご感想として、該当する項目を全て選んでください。

「①テキスト（指導内容）は『Hi, friends!』のみで充分（満足）である」という回答が70.8%と圧倒的に多かった。また、「③副教材（『Hi, friends!』付属ソフト）は充分（満足）である」という回答も50.4%と半数を超えた。(2)の設問に対して、「児童に対する指導内容のレベルが適当である」とした回答が86.8%、「児童に対する指導内容の量が適当である」が80.9%、「副教材（『Hi, friends!』付属ソフト）の内容・種類が適当である」が75.9%だったことから「Hi, friends!」とその付属ソフトに対する満足度と信頼性の高さが浮き彫りになった。

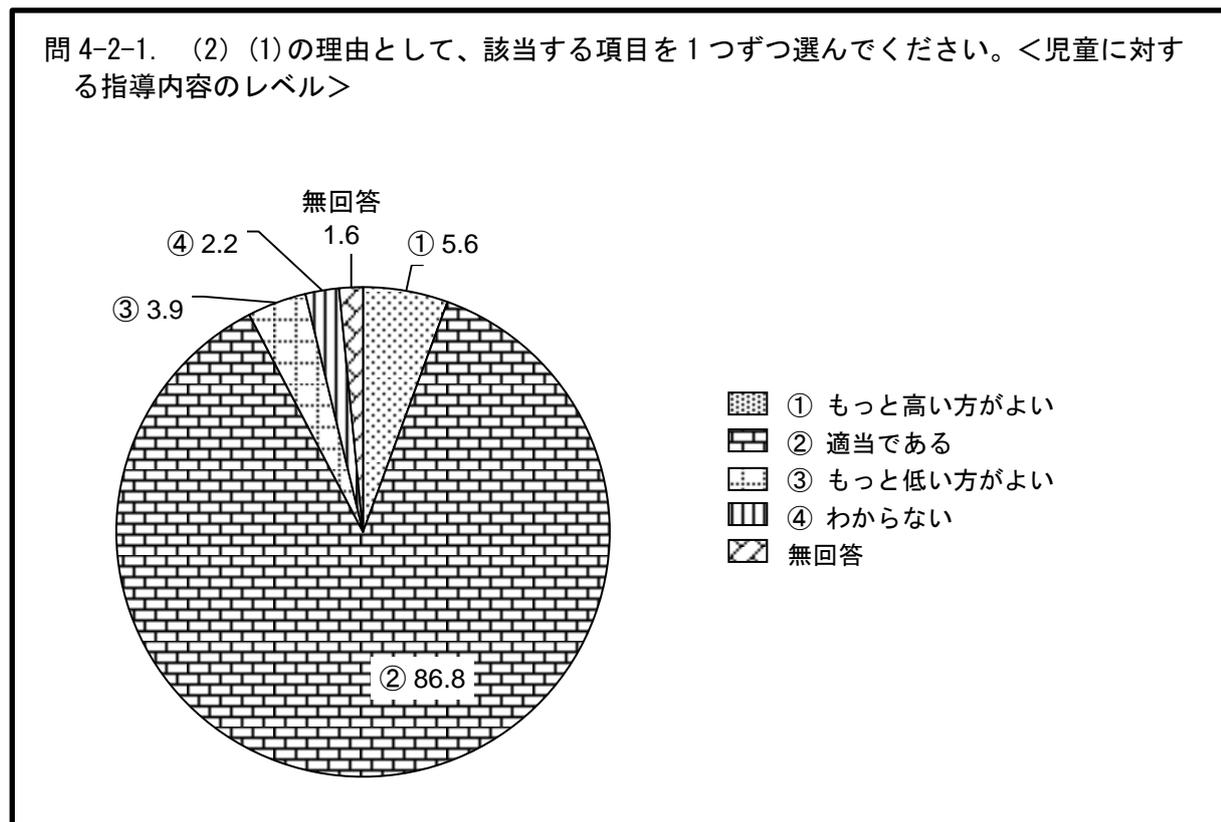
一方、「②テキスト（指導内容）は『Hi, friends!』だけでは不十分（不満足）である」との回答が25.7%と約4分の1を占め、「④副教材（『Hi, friends!』付属ソフト）は不十分（不満足）である」が13.3%を占めたことも無視できない。このため、「もっとわかりやすく、ゲームやクイズの仕方ものせてあるといい」「発問が書かれている指導書がほしい」「教師用のカード（掲示用）がもっとたくさんあるといい」「單元ごとにフラッシュカードが付いていればいい」「付属ソフトはPCでしか使用できないので不便である」「『Hi, friends!』を用いてもALTは必要である」「指導を行う内容は、日常的に扱う会話や語句を優先的にテキスト前半に構成したほうがよい」といった声が寄せられた。

選択肢	回答数	N=1,546
① テキスト（指導内容）は「Hi, friends!」のみで充分（満足）である	1,094	70.8%
② テキスト（指導内容）は「Hi, friends!」だけでは不十分（不満足）である	397	25.7%
③ 副教材（「Hi, friends!」付属ソフト）は充分（満足）である	779	50.4%
④ 副教材（「Hi, friends!」付属ソフト）は不十分（不満足）である	206	13.3%
⑤ その他	41	2.7%
無回答	7	0.5%



問4-2-1. (2) (1)の理由として、該当する項目を1つずつ選んでください。〈児童に対する指導内容のレベル〉

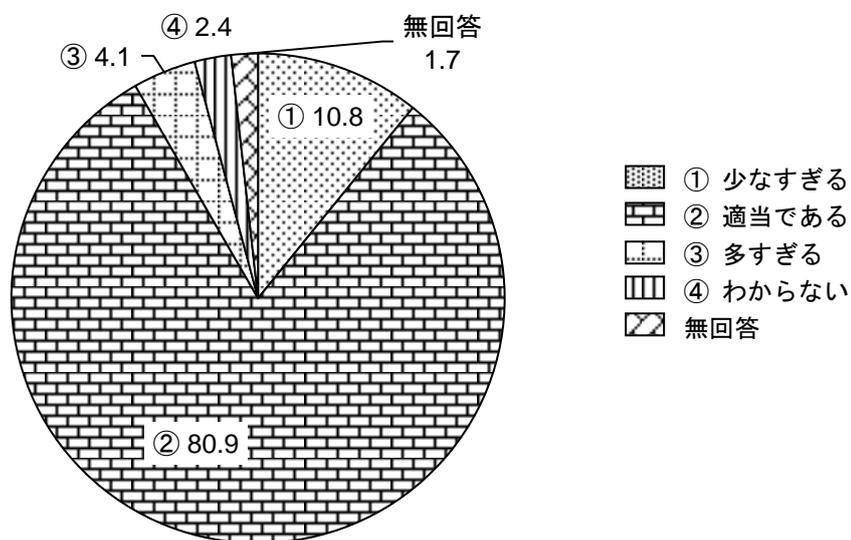
選択肢	回答数	N=1,546
① もっと高い方がよい	86	5.6%
② 適当である	1,342	86.8%
③ もっと低い方がよい	60	3.9%
④ わからない	34	2.2%
無回答	24	1.6%



問4-2-1. (2) (1)の理由として、該当する項目を1つずつ選んでください。＜児童に対する指導内容の量＞

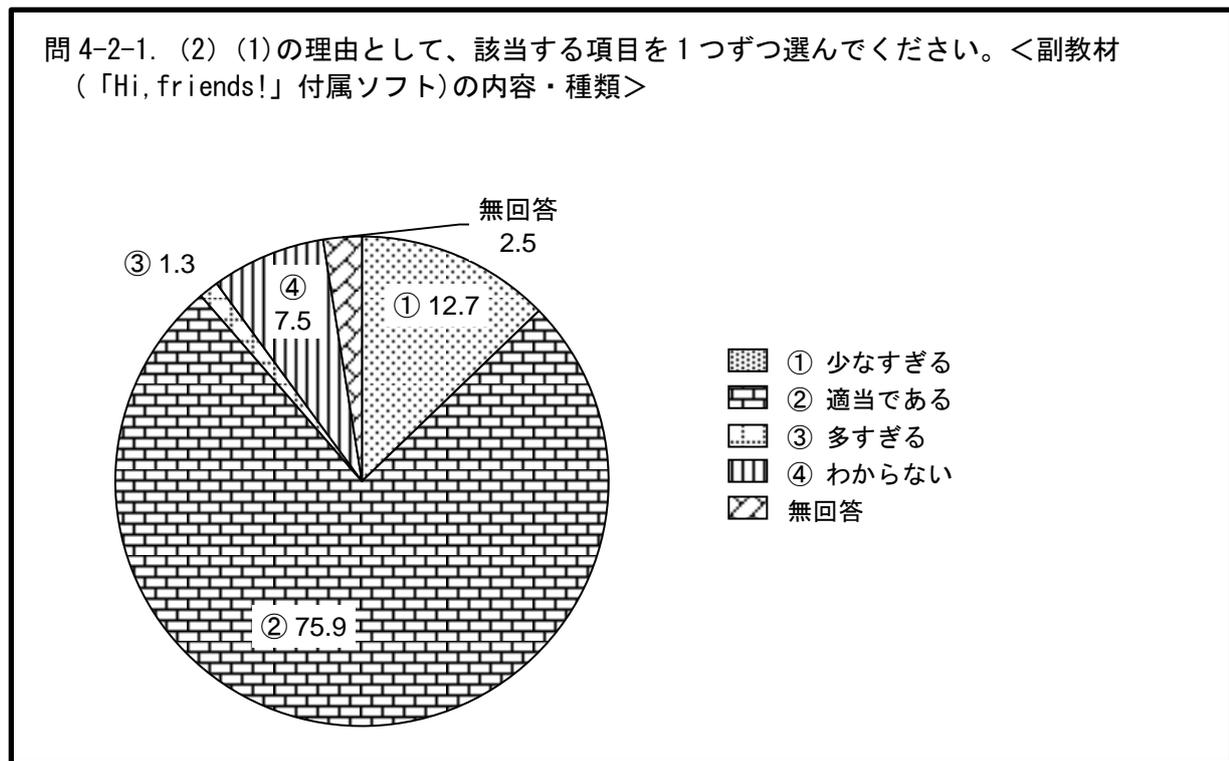
選択肢	回答数	N=1,546
① 少なすぎる	167	10.8%
② 適当である	1,251	80.9%
③ 多すぎる	64	4.1%
④ わからない	37	2.4%
無回答	27	1.7%

問4-2-1. (2) (1)の理由として、該当する項目を1つずつ選んでください。＜児童に対する指導内容の量＞



問4-2-1. (2) (1)の理由として、該当する項目を1つずつ選んでください。<副教材(「Hi, friends!」付属ソフト)の内容・種類>

選択肢	回答数	N=1,546
① 少なすぎる	197	12.7%
② 適当である	1,174	75.9%
③ 多すぎる	20	1.3%
④ わからない	116	7.5%
無回答	39	2.5%



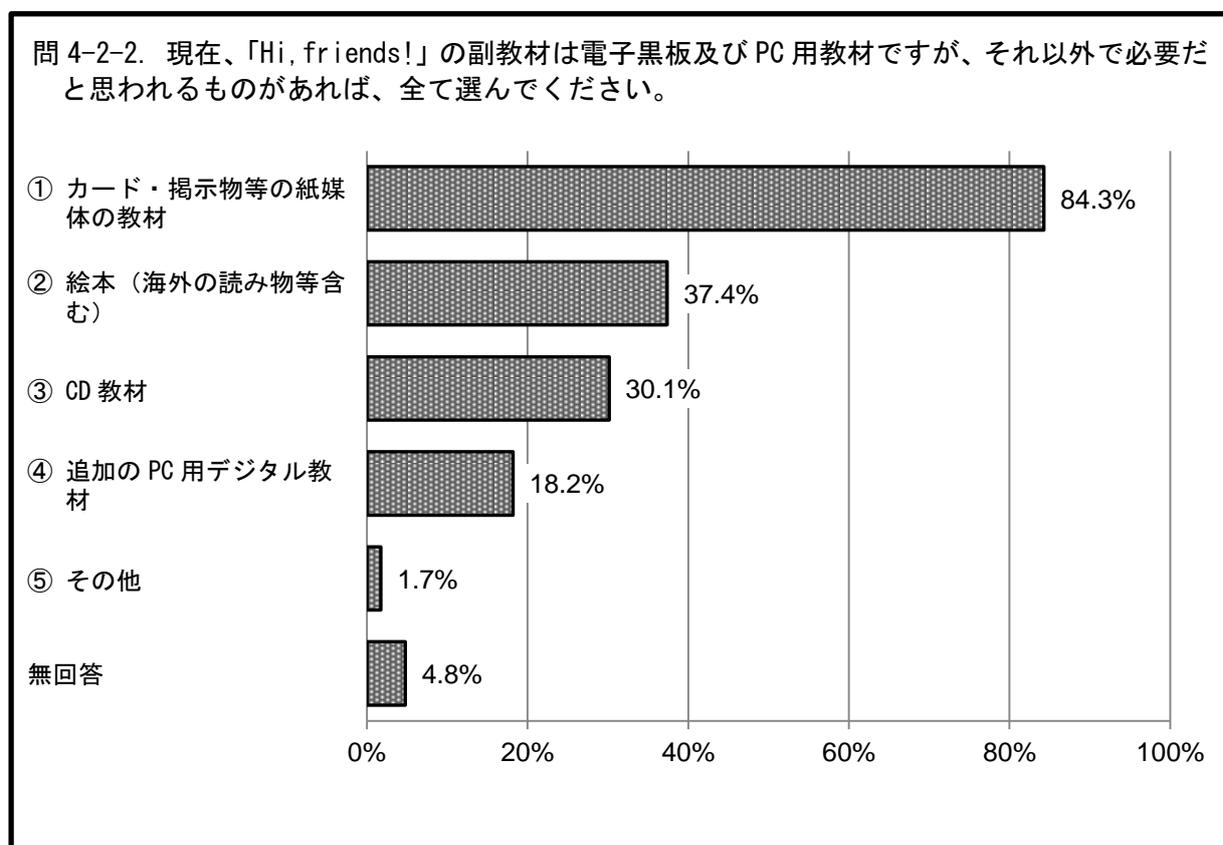
問4-2-2. 現在、「Hi, friends!」の副教材は電子黒板及びPC用教材ですが、それ以外で必要だと思われるものがあれば、全て選んでください。

「①カード・掲示物等の紙媒体の教材」という回答が84.3%という高率を示した。ITの普及でペーパーレス時代が到来したといわれているが、紙媒体の重要性は大きく変わっていないことがうかがえる。「②絵本（海外の読み物等含む）」も37.4%の回答を得た。やはり児童にとって、ビジュアルで視覚に訴える教材が有効であることが見て取れる。また、「③CD教材」が必要という声も多かった（30.1%）。このほか、「④追加のPC用デジタル教材が必要」という回答が18.2%あった。

「⑤その他」では、「ワークシートが必要だ」とする記述が多かった。一口でワークシートといっても内容は「個人のワークシート」「ワークシートなどの作業シート」「ゲームで使用できるワークシート」など内容はバラエティに富んでいた。

ワークシート以外にも様々な要望があった。いくつかの例を挙げると「グループワークやペアワークができるようなもの」「iPad等でも使える教材」「ふり返しカード」「具体物（物やお金のおもちゃなど）」「DVD教材」「カラオケCD」「タブレット端末のアプリケーション」「日本の民話（昔話）の英訳本」「日本語→英語 英語→日本語の変換アプリ」などである。

選択肢	回答数	N=1,546
① カード・掲示物等の紙媒体の教材	1,303	84.3%
② 絵本（海外の読み物等含む）	578	37.4%
③ CD教材	466	30.1%
④ 追加のPC用デジタル教材	281	18.2%
⑤ その他	27	1.7%
無回答	74	4.8%



問4-2-3. (1)「Hi, friends!」の指導書の使用感として、該当する項目を選んでください。

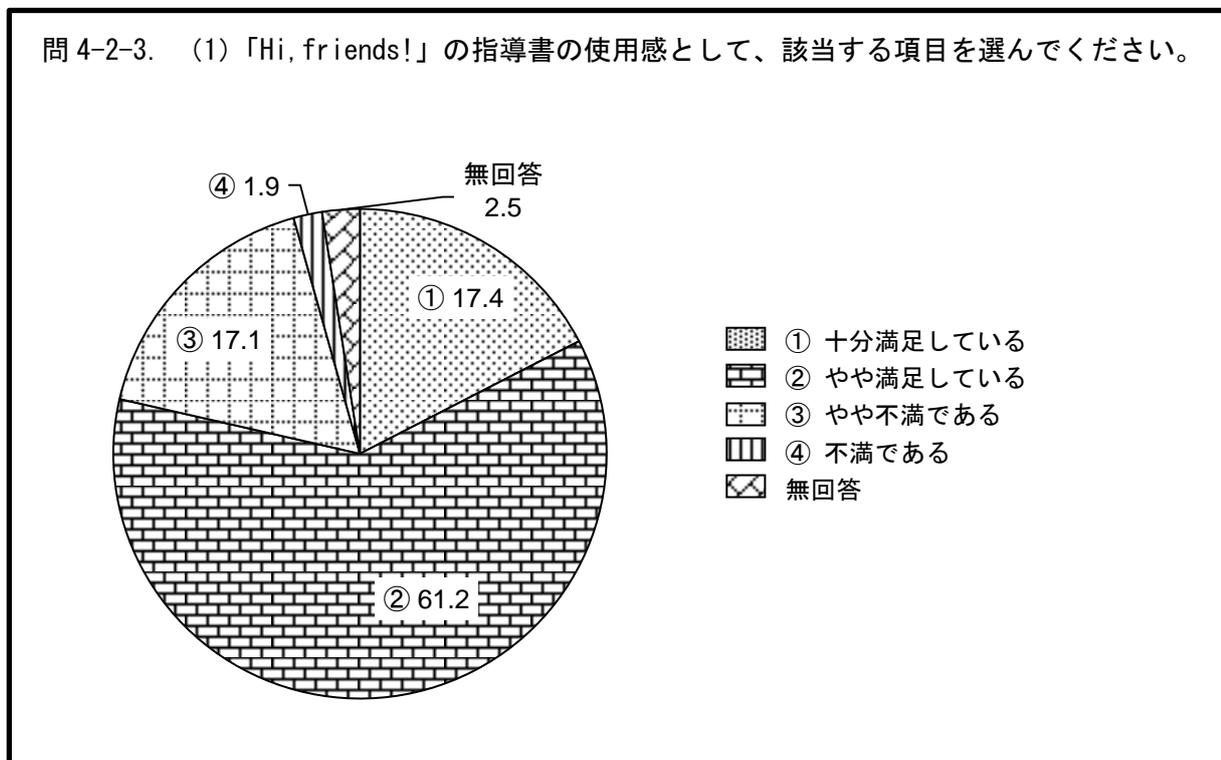
まず、(1)「Hi, friends!」の指導書の使用感では、「②やや満足している」が61.2%でトップ、次いで、「①十分満足している」が17.4%で、この2つで78.6%を占めた。このことから「Hi, friends!」の指導書が、概ね満足して使用されていることが明らかになったといえよう。一方で、「③やや不満である」が17.1%と「①十分満足している」とほぼ同じ割合となった。また、「④不満である」も1.9%あった。

(2)の設問に対しては、算数が29.9%と1位を占め、2位が国語の20.4%で、この2つが20%を超えた。次いで、社会(9.5%)、音楽(6.9%)、理科(6.7%)と続いた。家庭科(2.6%)、体育(2.5%)、図工(2.1%)の3教科はいずれも2%台だった。

算数が活用できる点としては「家庭でも教具になるものの例がある」「板書(黒板の掲示)例が掲載されている」などで、国語では、「授業の展開例がいくつも挙げられている点」「児童向けの一般書籍などが紹介されている」といったことが列挙されている。社会では「多文化共生」「実物の写真が多い」ことなどが挙げられている。音楽では「英語の歌」という指摘が目立った。歌い方についての指導と思われる。理科では資料や解説の充実を指摘する例が目立った。図工、家庭科では「実習を伴う活動に英語を組み込める」、体育では「動きのイラストが入っている」ことが活用できるとしている。

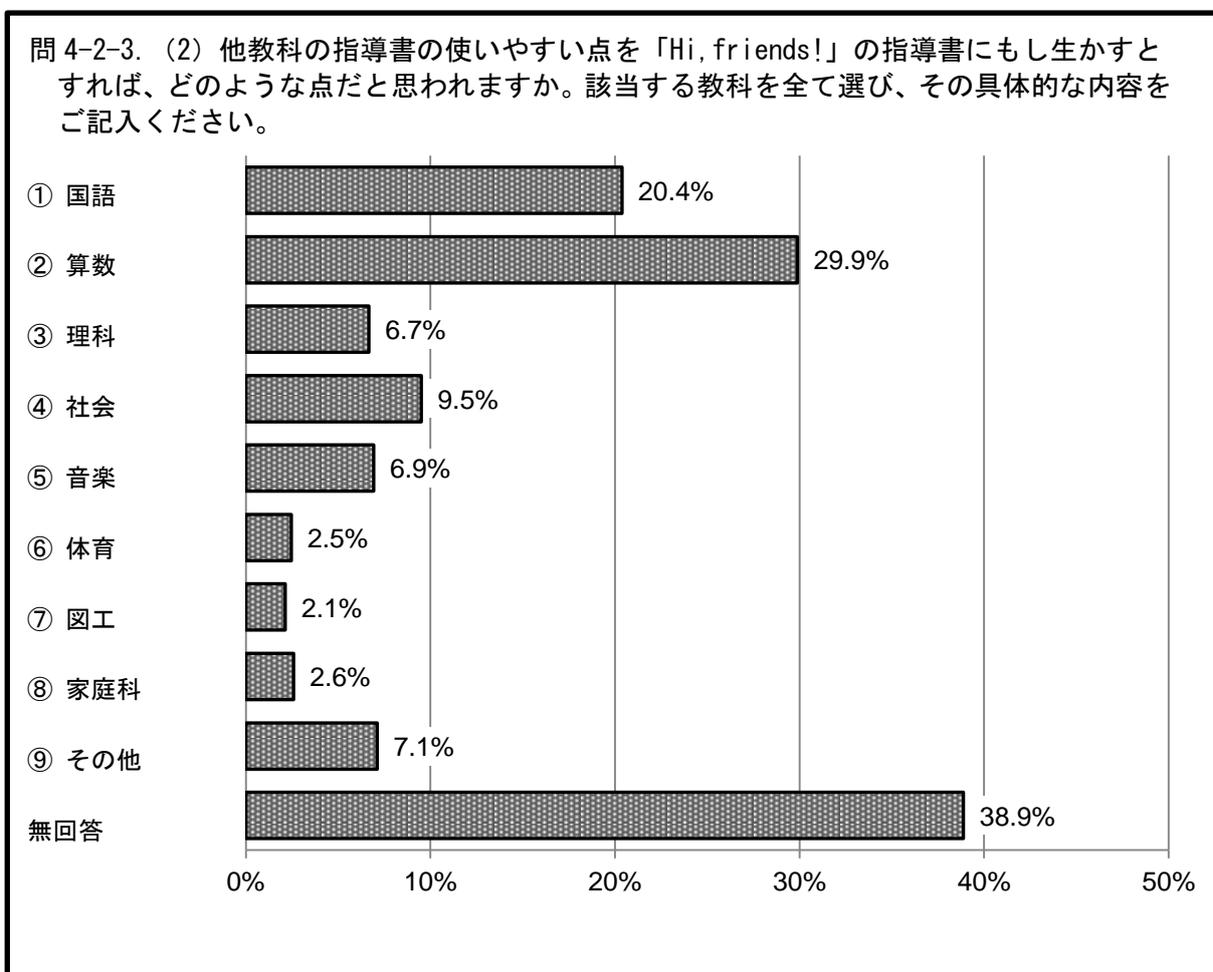
科目を問わず、最も多くみられるのが「1時間単位の流れがわかりやすい」という指摘で、次いで「板書例」「単元計画」についてが多かった。

選択肢	回答数	N=1,546
① 十分満足している	269	17.4%
② やや満足している	946	61.2%
③ やや不満である	264	17.1%
④ 不満である	29	1.9%
無回答	38	2.5%



問4-2-3. (2) 他教科の指導書の使いやすい点を「Hi, friends!」の指導書にもし生かすとすれば、どのような点だと思われますか。該当する教科を全て選び、その具体的な内容をご記入ください。

選択肢	回答数	N=1,546
① 国語	315	20.4%
② 算数	463	29.9%
③ 理科	103	6.7%
④ 社会	147	9.5%
⑤ 音楽	107	6.9%
⑥ 体育	38	2.5%
⑦ 図工	33	2.1%
⑧ 家庭科	40	2.6%
⑨ その他	110	7.1%
無回答	601	38.9%



問4-2-4. その他、「Hi, friends!」についての具体的なご意見があればご記入ください。

200を超える具体的な意見・要望が寄せられた。そのどれもが実際の現場で児童を指導している教員の“生の声”を写し出している。「使いやすい」といった賛同の声も多いが、ここでは改善を求める意見・要望の主なものを紹介する。

- ・その単元と関係深いチャンツの歌やレパートリーを増やして欲しい
- ・日常会話を重視した内容だと、コミュニケーション活動にリアリティーが出てくると思う
- ・ゲームやリスニングは単調なものが多く、子どもたちの実態に合わないことが多い
- ・動作が重い。動画の動きと音声合わないことがある
- ・異文化理解についての内容がもっとあるとより興味をもてる
- ・絵カード等の補助教材が高くて買えない
- ・巻末のカードを切り取りやすくしてほしい
- ・活動の幅が出るように、アクティビティをさらに充実してもらえると嬉しい
- ・指導のポイントがわかりにくい
- ・指導書が薄くなった分情報量も少なく、指導者にとって使いづらい。今でも英語ノート指導書を併用している
- ・日本語との共通点や相違点、ことばへの興味・関心や気づき生まれるような内容にして欲しい
- ・紙質が鉛筆書きこみにあまり適していない
- ・白黒なのが見にくい。子どもと同じカラー版がよい
- ・各レッスンににあう歌も入っていれば、導入、終末で利用できると思う

問5. 外国語活動及び英語活動に関する「教員研修・自己学習」についてお伺いします。

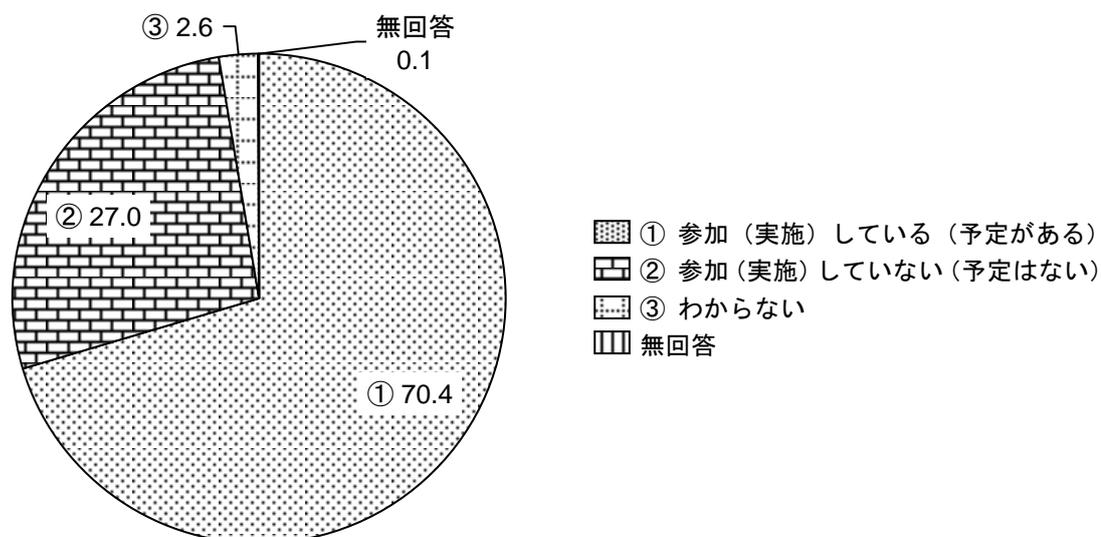
問5-1. 今年の4～12月までに貴校の先生方は外国語活動及び英語活動に関する研修会や研究発表会に参加（実施）されましたか。または、2015年3月までに参加（実施）予定はありますか。

教員の研修会や研究発表会の参加状況を見ると、「①参加（実施）している（予定がある）」という回答が70.4%と全回答数1,684のうち1,185の回答を得た。その一方で、「②参加（実施）していない（予定はない）」が、27.0%と4分の1を上回った。

昨年度とは、設問の内容が少し変わっているが、昨年度は、「②参加（実施）していない（予定はない）」が19.1%だったのに比べ、今年度は、研修への取り組みがなされていない学校が大幅に増えたことがうかがえる。ちなみに昨年度もその前年度より「参加（実施）していない（予定はない）」が増えていることから、研修参加の機会の減少が依然として続いていると言えそうだ。

選択肢	回答数	N=1,684
① 参加（実施）している（予定がある）	1,185	70.4%
② 参加（実施）していない（予定はない）	455	27.0%
③ わからない	43	2.6%
無回答	1	0.1%

問5-1. 今年の4～12月までに貴校の先生方は外国語活動及び英語活動に関する研修会や研究発表会に参加（実施）されましたか。または、2015年3月までに参加（実施）予定はありますか。



問5-2. 問5-1で、「1. 参加（実施）している（予定がある）」を選ばれた方にお伺いします。  
現在、参加されている教員研修（または自己学習）に該当する項目を全て選んでください。

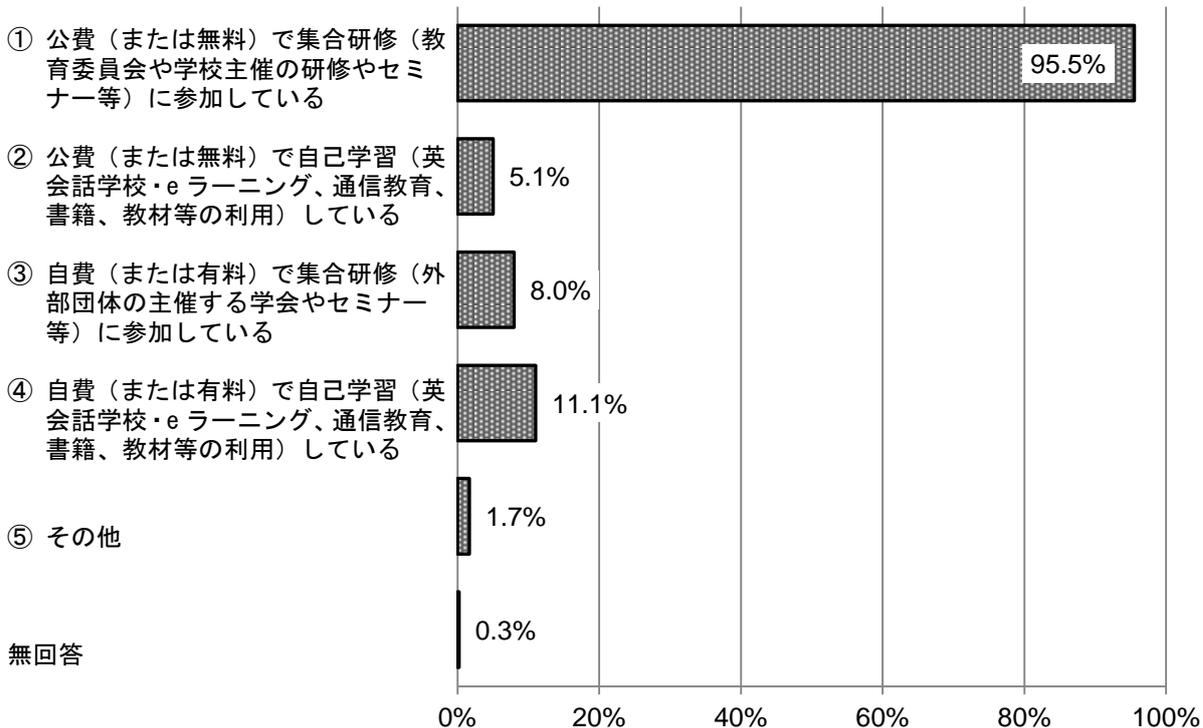
参加している研修（または自己学習）をみると、「①公費（または無料）で集合研修（教育委員会や学校主催の研修やセミナー等）に参加している」と回答した者が95.5%と圧倒的に多かった。2位は「④自費（または有料）で自己学習（英会話学校・eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）している」だったが、11.1%とトップの①とは大きな差があった。

次いで、「③自費（または有料）で集合研修（外部団体の主催する学会やセミナー等）に参加している」が8.0%で続いた。「②公費（または無料）で自己学習（英会話学校・eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）している」は5.1%と最も低かった。

「⑤その他」（1.7%）と回答した中には「自費で講師を招き、職員全体で研修を行った」「授業を指導主事の先生に見ていただき、指導を受けている」「夏休みの職員研修にして、学校に研究員の方に来てもらい講義・講習を受けている」「校内でALTを招いてのレッスン」「研究発表大会、授業について語り合う会の実施」「国際教育振興会主催英語教育方法研究セミナーに参加」「大学教授を招いて学校主催で行っている」などの例が挙げられた。

選択肢	回答数	N=1,185
① 公費（または無料）で集合研修（教育委員会や学校主催の研修やセミナー等）に参加している	1,132	95.5%
② 公費（または無料）で自己学習（英会話学校・eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）している	60	5.1%
③ 自費（または有料）で集合研修（外部団体の主催する学会やセミナー等）に参加している	95	8.0%
④ 自費（または有料）で自己学習（英会話学校・eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）している	131	11.1%
⑤ その他	20	1.7%
無回答	3	0.3%

問5-2. 問5-1で、「1.参加（実施）している（予定がある）」を選ばれた方にお伺いします。  
現在、参加されている教員研修（または自己学習）に該当する項目を全て選んでください。



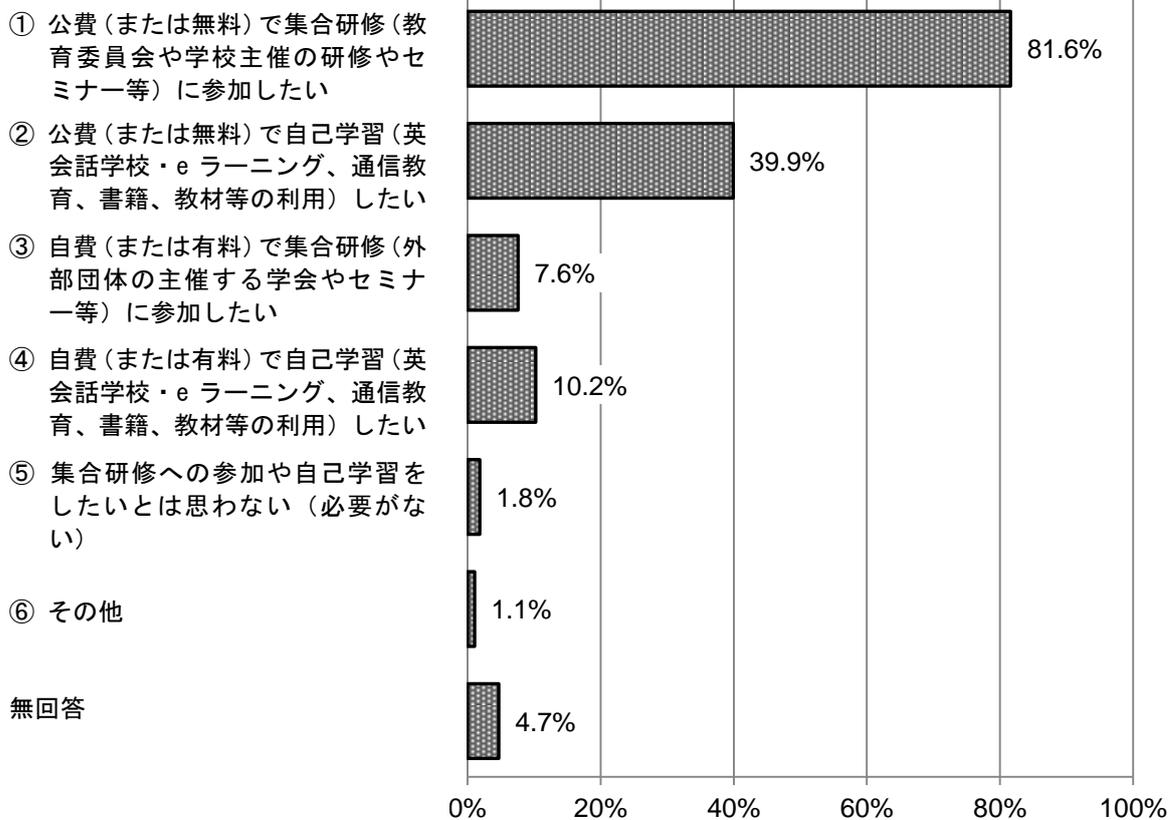
問5-3. 今後、どのような教員研修に参加（または自己学習）したいと思われませんか。該当する項目を全て選んでください。

トップは、「①公費（または無料）で集合研修（教育委員会や学校主催の研修やセミナー等）に参加したい」で81.6%だった。これは、まさに問5-2でトップとなった「①公費（または無料）で集合研修（教育委員会や学校主催の研修やセミナー等）に参加している」と連動しており、“公費、または無料の集合研修”の人気の高さが如実に示されといえよう。次いで2位は、「②公費（または無料）で自己学習（英会話学校・eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）したい」で39.9%。問5-2の「②公費（または無料）で自己学習（英会話学校・eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）している」が5.1%と最も低かったのに比べ、対照的な結果となった。自己都合に合わせて研修できるということで、現状では利用者が少ないが、これからサービスの開拓が期待される分野であろう。「④自費（または有料）で自己学習（英会話学校・eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）したい」が10.2%、「③自費（または有料）で集合研修（外部団体の主催する学会やセミナー等）に参加したい」が7.6%と問5-2の回答との相関が見られた。

一方、「⑤集合研修への参加や自己学習をしたいとは思わない」という回答もわずか1.8%だったが。また、「⑥その他」の記述回答として、「他教科の研修に参加したいので時間が足りない」「先進校の視察をしたい」「海外の小学校現場を見学できる研修」といった声があった。

選択肢	回答数	N=1,684
① 公費（または無料）で集合研修（教育委員会や学校主催の研修やセミナー等）に参加したい	1,374	81.6%
② 公費（または無料）で自己学習（英会話学校・eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）したい	672	39.9%
③ 自費（または有料）で集合研修（外部団体の主催する学会やセミナー等）に参加したい	128	7.6%
④ 自費（または有料）で自己学習（英会話学校・eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）したい	172	10.2%
⑤ 集合研修への参加や自己学習をしたいとは思わない（必要がない）	31	1.8%
⑥ その他	18	1.1%
無回答	79	4.7%

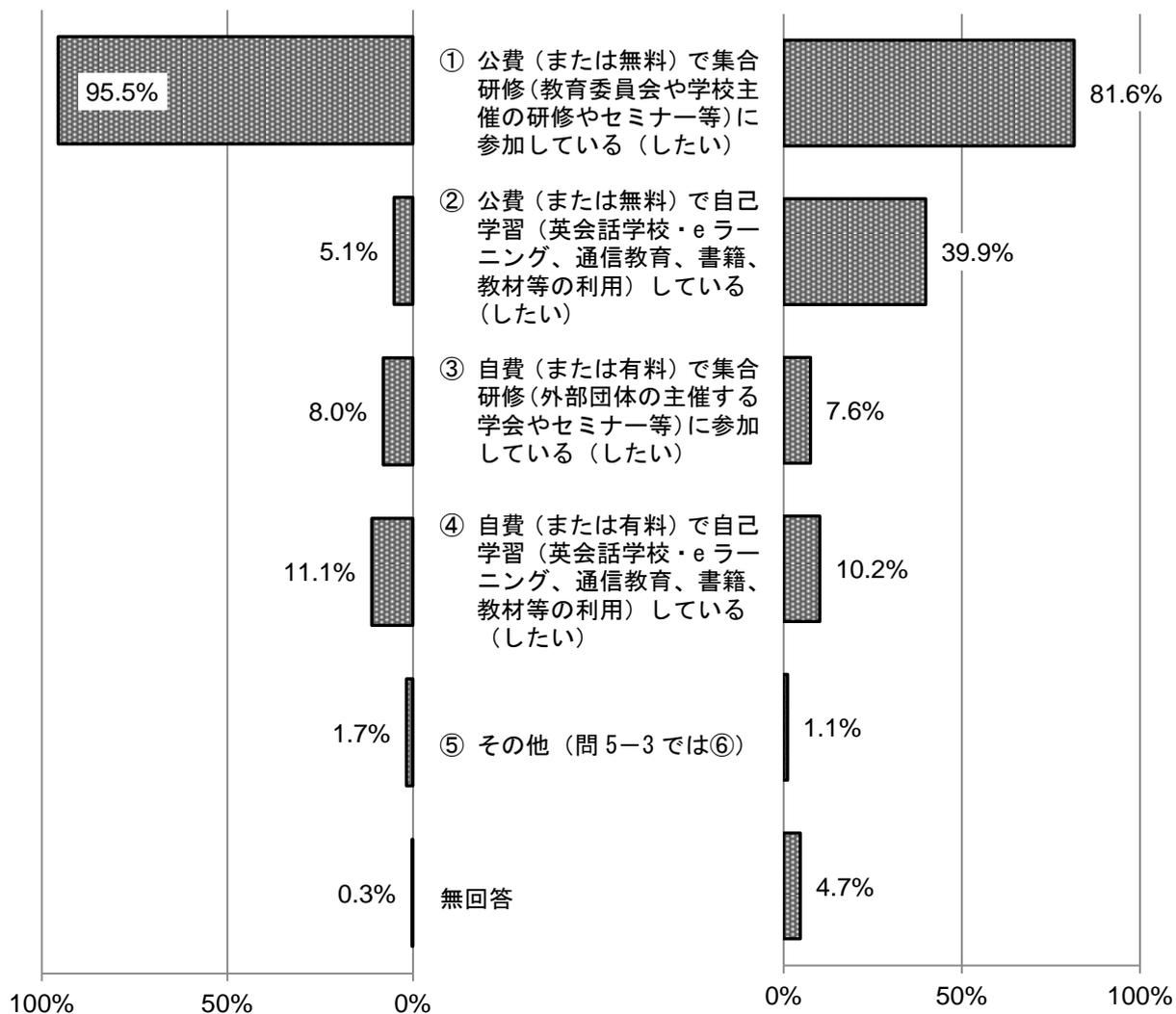
問5-3. 今後、どのような教員研修に参加（または自己学習）したいと思われませんか。該当する項目を全て選んでください。



問5-2. 「現在参加されている教員研修／自己学習」と、問5-3「今後参加したいと思う教員研修／自己学習」の比較  
(問5-3「今後参加したいと思う教員研修／自己学習」には「⑤教員研修／自己学習をしないと思わない」という選択肢があるが、ここでは省略した)

参加している研修

参加したい研修



問 5-4. 教員研修の内容として、最も必要と思われるものを一つだけ選んでください。

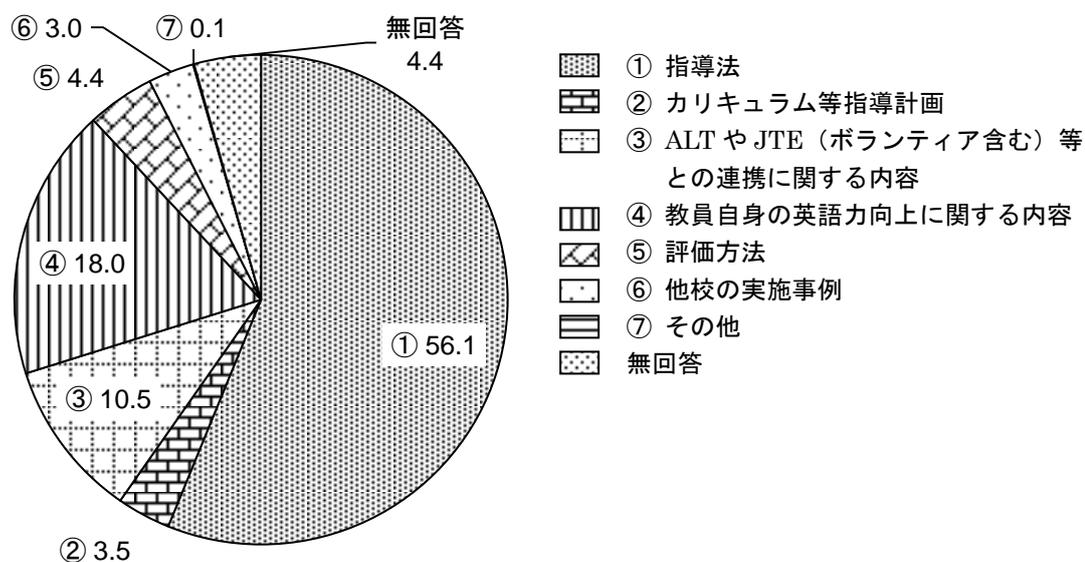
必要と思われる研修内容をみると、「①指導法」が昨年度と同様トップで、56.1%（昨年度 48.7%）と昨年度と比較しても 7.4 ポイントも高かった。次いで、「④教員自身の英語力向上に関する内容」が 18.0%（昨年度 13.1%）と、これも昨年度より 4.9 ポイント高くなった。昨年度は 17.6%で 2 位だった「③ALT や JTE（ボランティア含む）等との連携に関する内容」は 7.1 ポイントも下げ、10.5%にとどまった。

このほかは「⑤評価方法」が 4.4%（昨年度 9.0%）で、「②カリキュラム等指導計画」と「⑥他校の実施事例」がともに 3%台と低い割合だった。特に「⑤評価方法」は、今年度は昨年度より 4.6 ポイント下げた。ちなみに昨年度は、その前年度（ただしこの年度は複数回答）より 16 ポイント下がっており、評価方法についての研修を必要とする割合が低下傾向にあることがうかがえる。また、今年度も指導法が他を引き離してトップだったことから、授業現場でのより良い指導法を模索する教員の姿が浮かび上がってくる。

「⑦その他」の記述回答の内容では「経験豊富な地元教員から学ぶ機会の充実」「小規模校に対する配慮」「専科教員の充実」「全教員の英語に対する苦手意識をどのようになくしていくのか。英語が苦手な人の実践例が欲しい」「学校教員研修を兼ねた海外研修（夏季休業時の短期留学）」「模擬授業により、楽しい言語活動を体得する」といった希望などが出された。

選択肢	回答数	N=1,530
① 指導法	859	56.1%
② カリキュラム等指導計画	54	3.5%
③ ALT や JTE（ボランティア含む）等との連携に関する内容	160	10.5%
④ 教員自身の英語力向上に関する内容	275	18.0%
⑤ 評価方法	68	4.4%
⑥ 他校の実施事例	46	3.0%
⑦ その他	1	0.1%
無回答	67	4.4%

問 5-4. 教員研修の内容として、最も必要と思われるものを一つだけ選んでください。



問 6. 5・6 年生の外国語活動における「評価」についてお伺いします。

問 6-1. 現在、貴校で行っている評価についてお伺いします。

問 6-1-1. 外国語活動における児童への評価材料として、該当する項目を全て選んでください。

児童への評価については、「①授業内での観察・記録」が 96.2% (昨年度 96.6%) と昨年度より 0.4 ポイント下がったものの 1 位で、今年度もほとんどの学校で実施されていることが明らかになった。「⑤児童の自己評価 (どこができたか等)」が 52.6% (昨年度 58.0%)、「④ワークシートやノートの記入結果」が 51.0% (昨年度 48.7%) といずれも 50% を超えた。ただし、「⑤児童の自己評価 (どこができたか等)」は昨年度より 5.4 ポイント下がったが、「④ワークシートやノートの記入結果」は逆に 2.3 ポイント上がった。「②児童への意識調査 (活動は楽しいか等)」は、43.9% (昨年度 43.0%)、「③発言の内容や回数のチェック」は 42.0% (昨年度 35.3%) で、順位は昨年度と変化はなかった。

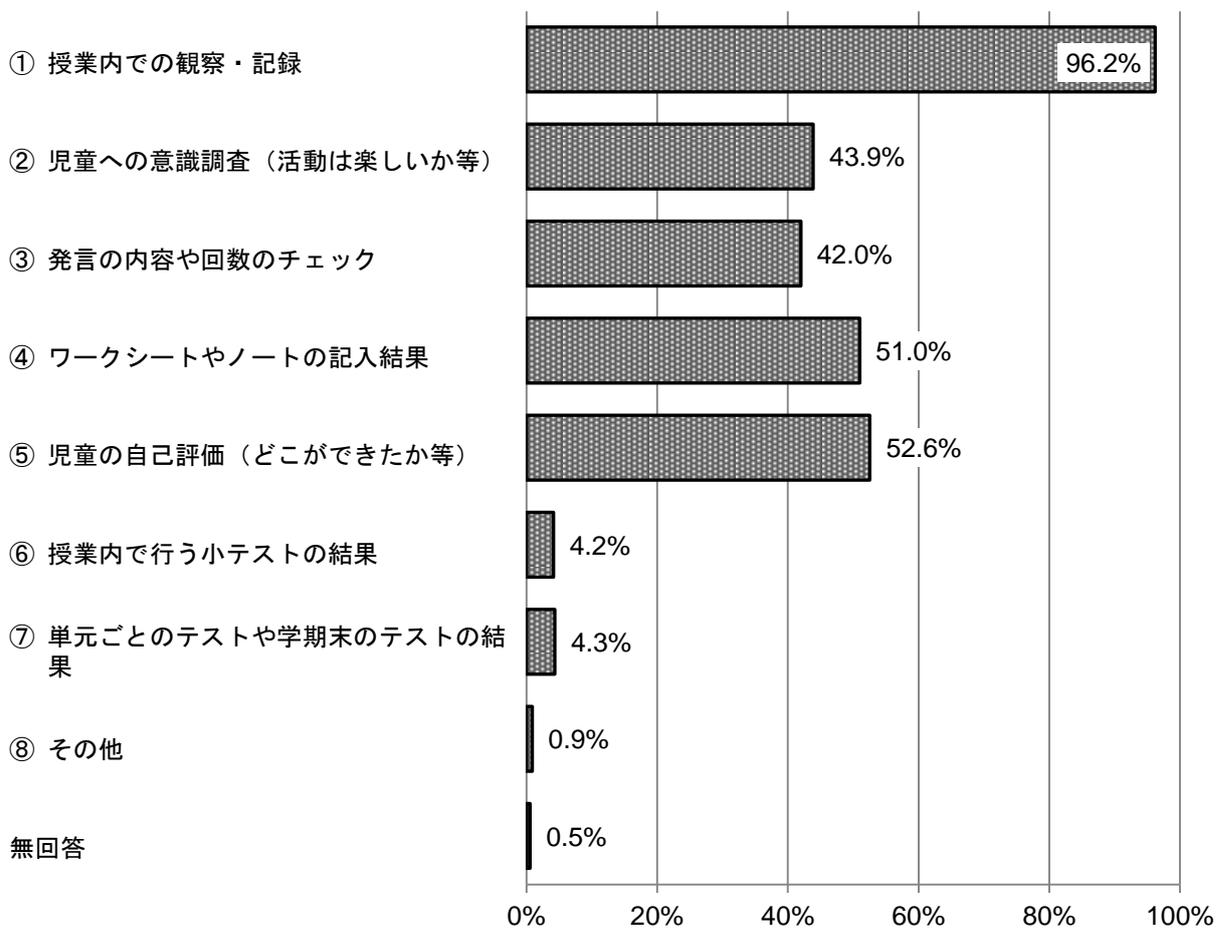
また、実施している所は少ないながら、「⑦単元ごとのテストや学期末のテストの結果」が 4.3% (昨年度は「定期テスト等の結果」という選択肢で 2.3%) でやや増加し、「⑥授業内で行う小テストの結果」が 4.2% (昨年度 5.5%) でやや減少している。

「⑧その他」の記述回答では、「ALT による評価」「スピーキングテスト」「発表」「活動での制作物」「市で行っている英会話力調査」「友達との相互評価」「JET (Junior English Test) のスコア」「課題への取り組み度合い」などが見られた。

全体的に、昨年度との変動は 10 ポイント以内であり、最大は「③発言の内容や回数のチェック」で、6.7 ポイント上がった。

選択肢	回答数	N=1,684
① 授業内での観察・記録	1,620	96.2%
② 児童への意識調査 (活動は楽しいか等)	739	43.9%
③ 発言の内容や回数のチェック	707	42.0%
④ ワークシートやノートの記入結果	859	51.0%
⑤ 児童の自己評価 (どこができたか等)	885	52.6%
⑥ 授業内で行う小テストの結果	70	4.2%
⑦ 単元ごとのテストや学期末のテストの結果	73	4.3%
⑧ その他	15	0.9%
無回答	9	0.5%

問 6-1-1. 外国語活動における児童への評価材料として、該当する項目を全て選んでください。



問 6-1-2. 外国語活動における児童の達成の度合いを、どのような観点で測っていますか。該当する項目を全て選んでください。

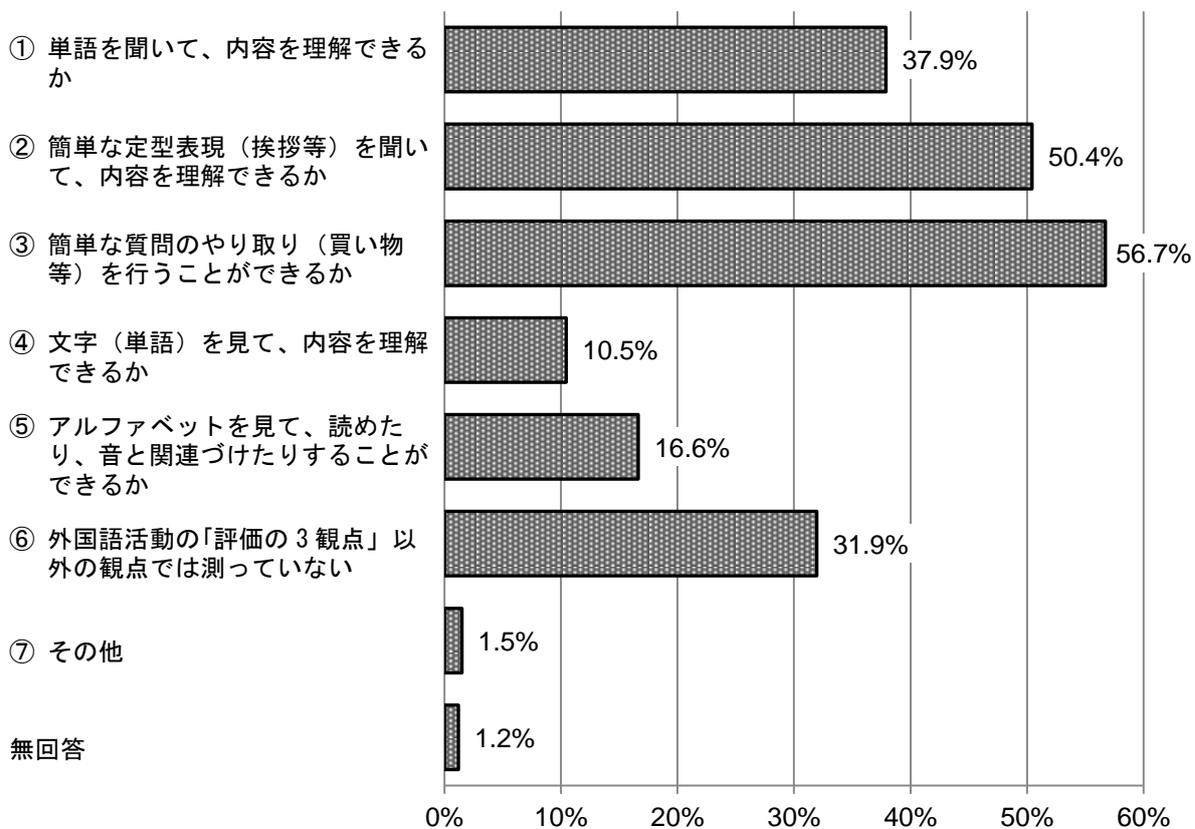
文部科学省による外国語活動の「評価の 3 観点」以外で、児童の達成の度合いをどのように測っているかの設問に対して、最も割合が高かったのは「③簡単な質問のやりとり（買い物等）を行うことができるか」で、56.7%（昨年度 46.0%）だった。昨年度もこの項目がトップだったが、今年度は 10.7 ポイントも高かった。2 位は「②簡単な定型表現（挨拶等）を聞いて、内容を理解できるか」で 50.4%（昨年度 44.1%）。これも昨年と順位は同じだが、昨年度を 6.3 ポイント上回った。次いで、「①単語を聞いて、内容を理解できるか」（今年度 37.9%、昨年度 28.4%）、「⑤アルファベットを見て、読めたり、音と関連づけたりすることができるか」（今年度 16.6%、昨年度 16.0%）の順だった。また、「④文字（単語）を見て、内容を理解できるか」は 10.5%（昨年度 6.1%）だった。

なお、「⑥外国語活動の『評価の 3 観点』以外の観点では測っていない」のみ、昨年度の 40.0%より 8.1 ポイント減の 31.9%で、唯一減少している。なお昨年度と一昨年度ではほとんど増減がなかった。「評価の 3 観点」以外に評価の観点を求める層が増えていると言えようか。

「⑦その他」では、「独自に『人間関係形成力』を評価の観点に入れている」「声に出して覚えようとしているか。前に学習したことを使っているか」「友だちとのコミュニケーション」「日本語との違いに気づいているから」「英語で理数教科を理解しているか」などを評価材料としているといった記述が寄せられた。

選択肢	回答数	N=1,684
① 単語を聞いて、内容を理解できるか	638	37.9%
② 簡単な定型表現（挨拶等）を聞いて、内容を理解できるか	849	50.4%
③ 簡単な質問のやり取り（買い物等）を行うことができるか	955	56.7%
④ 文字（単語）を見て、内容を理解できるか	176	10.5%
⑤ アルファベットを見て、読めたり、音と関連づけたりすることができるか	280	16.6%
⑥ 外国語活動の「評価の 3 観点」以外の観点では測っていない	538	31.9%
⑦ その他	25	1.5%
無回答	20	1.2%

問6-1-2. 外国語活動における児童の達成の割合を、どのような観点で測っていますか。  
該当する項目を全て選んでください。



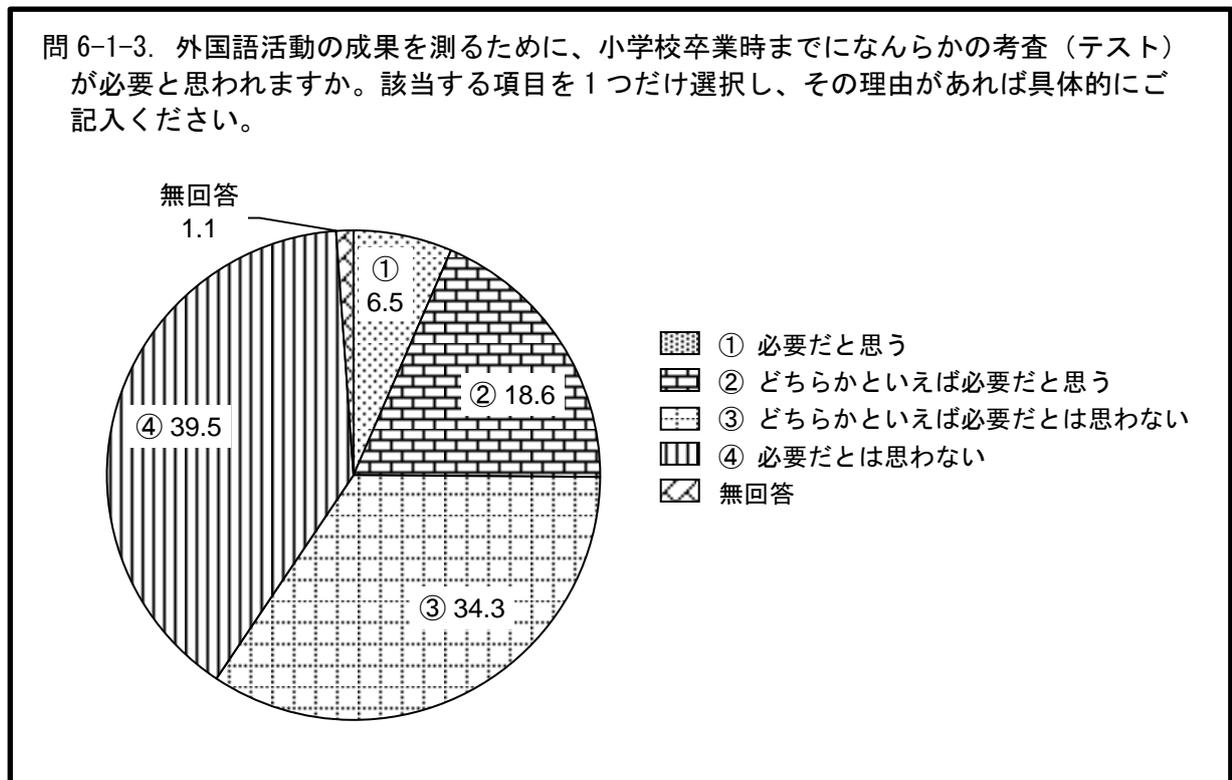
問6-1-3. 外国語活動の成果を測るために、小学校卒業時までになんらかの考査（テスト）が必要と思われませんか。該当する項目を1つだけ選択し、その理由があれば具体的にご記入ください。

設問に対し、小学校卒業時までになんらかの考査（テスト）が「①必要だと思う」という回答が6.5%、「②どちらかといえば必要だと思う」が18.6%で、この2つを合わせた「必要」という回答は25.1%（昨年度16.3%）だった。これに対し、「③どちらかといえば必要だとは思わない」が34.3%、「④必要だとは思わない」が39.5%で、この2つを合わせた「必要ではない」が73.8%（昨年度82.8%）と「必要」を大幅に上回った。

ただし、昨年度と比較すると「必要」という回答が8.8ポイント上がったのに対し、「必要ではない」が9.0ポイント下がり、「小学校卒業時までになんらかの考査（テスト）が必要である」と考える先生が徐々に増えていることがうかがえる。

「必要である」という理由には、「中学校との連携のため」という回答が多かったが、それ以外では「目標を定めたほうが学習意欲向上につながる」「教科として扱う以上、その達成度を教員の主観のみでなく、児童自身に納得のいく形で示すことが必要」という意見が寄せられた。一方、「必要ではない」という理由は、「小学校の外国語活動の目的が3観点なので、テストで成果を測る必要はない」「英語に慣れ親しめば良いと思うから」「コミュニケーション能力の育成を狙いとしているのであればペーパーテストは必要ない」などといったものだった。

選択肢	回答数	N=1,684
① 必要だと思う	109	6.5%
② どちらかといえば必要だと思う	314	18.6%
③ どちらかといえば必要だとは思わない	577	34.3%
④ 必要だとは思わない	665	39.5%
無回答	19	1.1%



問 6-2. 「英語教育の在り方に関する有識者会議」や、これに関する一部の報道等でも伝えられているように、5・6年生の外国語活動の教科化が検討されています。その際に想定される「評価（評定）」についてお伺いします。

問 6-2-1. 習熟度を数値で評価（評定）することについて、どのようにお考えですか。

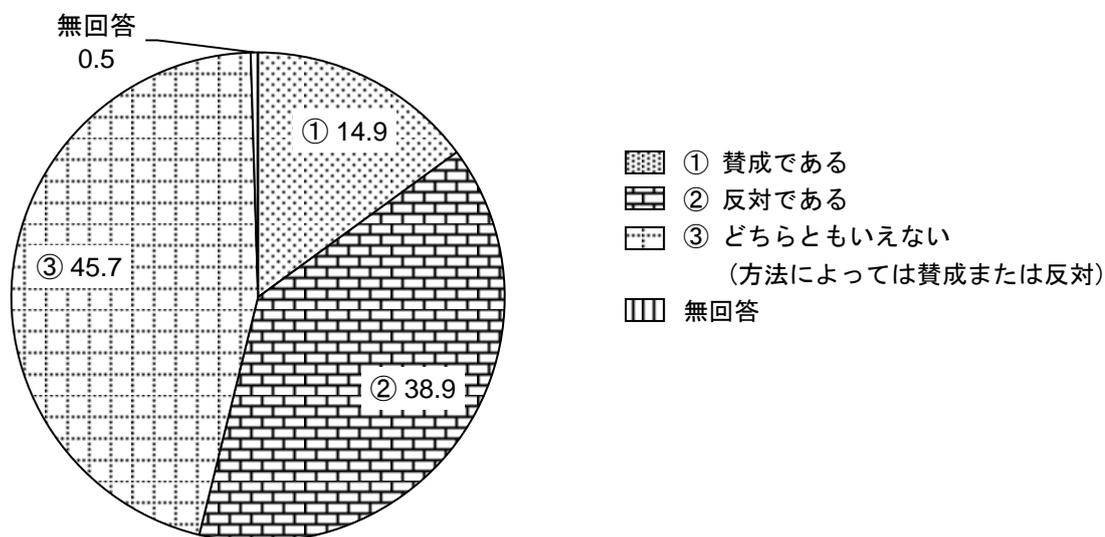
習熟度を数値で評価（評定）することについては、半数近い 45.7%の人が「③どちらともいえない（方法によっては賛成または反対）」と回答した。実際に具体的な評価（評定）の方法が、提示されない現時点では回答するのは難しい、あるいは回答を差し控えるといった趣旨であろう。

そうした背景の下で、残りの半数のうち 38.9%が「②反対である」と回答。一方で、「①賛成である」は 14.9%だった。

結果として「反対」が多い分析結果となったが、これは前問（問 6-1-3）の「外国語活動の成果を測るために、小学校卒業時までになんらかの考査（テスト）が必要と思われますか」という設問に対して、「必要ではない」という回答が圧倒的に多かったことと、はっきりとした相関関係があるといえるだろう。

選択肢	回答数	N=1,683
① 賛成である	251	14.9%
② 反対である	655	38.9%
③ どちらともいえない（方法によっては賛成または反対）	769	45.7%
無回答	8	0.5%

問 6-2-1. 習熟度を数値で評価（評定）することについて、どのようにお考えですか。



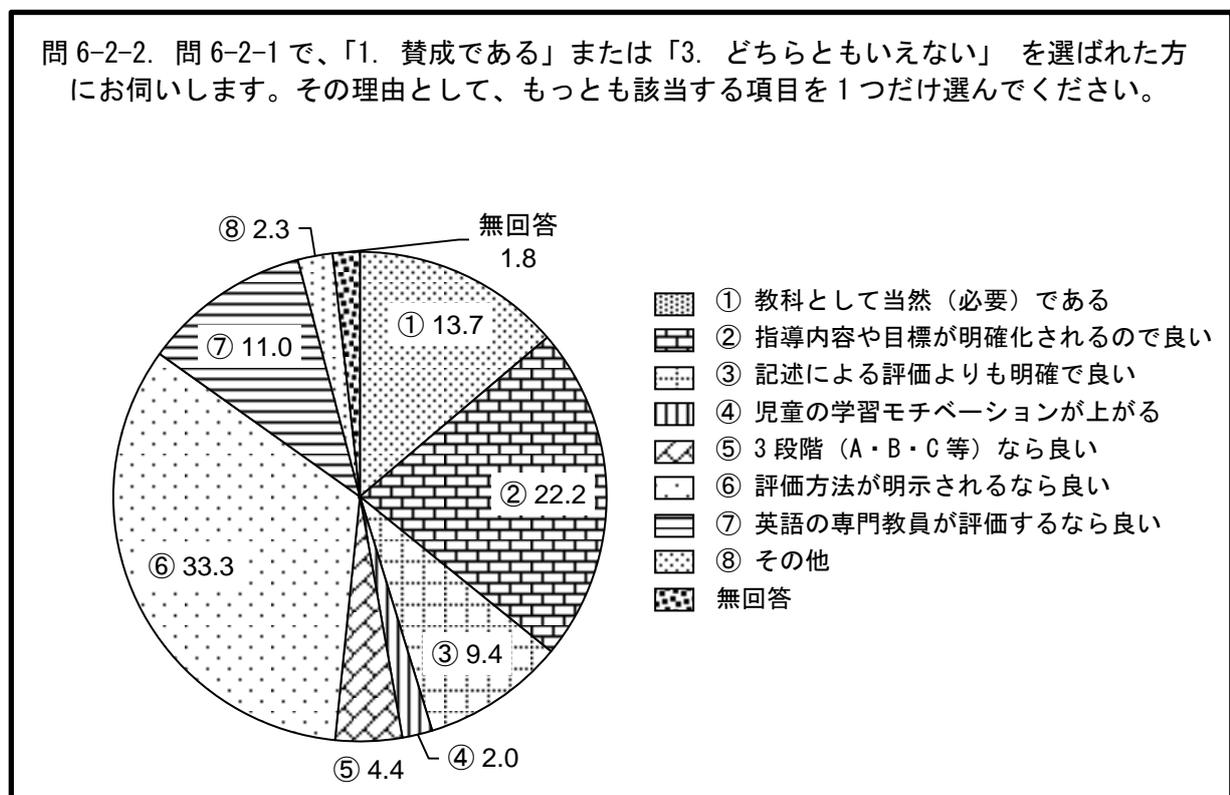
問6-2-2. 問6-2-1で、「1. 賛成である」または「3. どちらともいえない」を選ばれた方にお伺いします。その理由として、もっとも該当する項目を1つだけ選んでください。

「⑥評価方法が明示されるなら良い」と答えた人が33.3%でトップだった。これは、「どちらともいえない」と回答した人の考え方の主流をなすものであると推察される。次いで「②指導内容や目標が明確化されるので良い」(22.2%)、「①教科として当然(必要)である」(13.7%)、「⑦英語の専門教員が評価するなら良い」(11.0%)、「③記述による評価よりも明確で良い」(9.4%)と続いた。このうち、「②指導内容や目標が明確化されるので良い」、「①教科として当然(必要)である」という回答は、「賛成」と答えた人の典型的な意見といえることができる。

このほかの「⑤3段階(A・B・C等)なら良い」(4.4%)、「④児童の学習モチベーションが上がる」(2.0%)は少数意見だった。

「⑧その他」の記述回答では、「何を目的にするかによる」「検討がなお必要のため、現時点では情報不足」「アルファベットが書けるなど小学校で身に付けておくべき最低限の内容については、数値化してもよいが、意欲・関心などは文章表記でもよい」といった意見が寄せられた。

選択肢	回答数	N=961
① 教科として当然(必要)である	132	13.7%
② 指導内容や目標が明確化されるので良い	213	22.2%
③ 記述による評価よりも明確で良い	90	9.4%
④ 児童の学習モチベーションが上がる	19	2.0%
⑤ 3段階(A・B・C等)なら良い	42	4.4%
⑥ 評価方法が明示されるなら良い	320	33.3%
⑦ 英語の専門教員が評価するなら良い	106	11.0%
⑧ その他	22	2.3%
無回答	17	1.8%



問 6-2-3. 問 6-2-1 で、「2. 反対である」 を選ばれた方にお伺いします。その理由として、もっとも該当する項目を1つだけ選んでください。

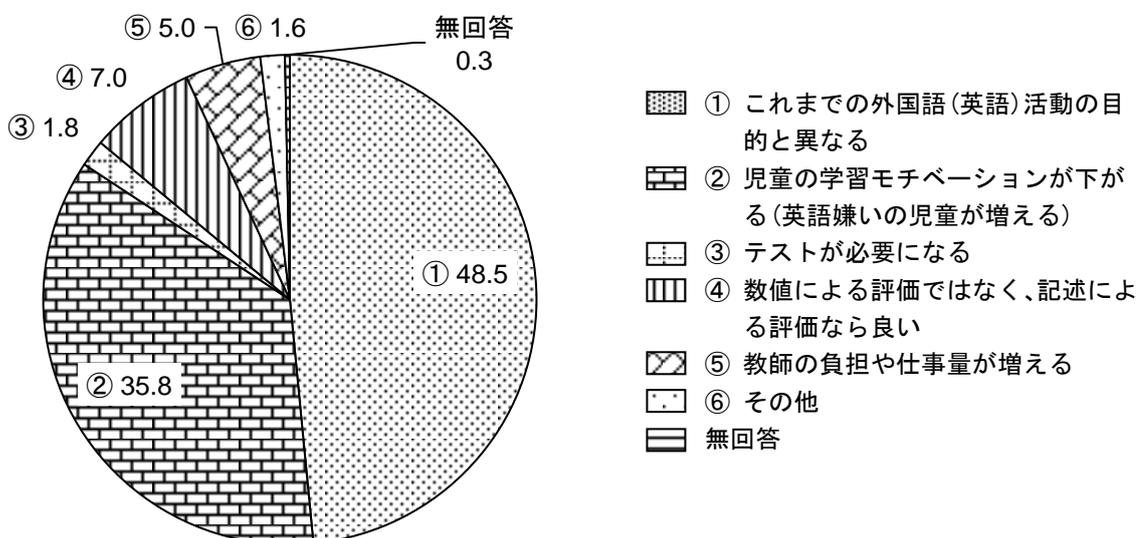
反対の理由を聞いたところ、「①これまでの外国語（英語）活動の目的と異なる」が 48.5%とほぼ半分を占めた。次いで、「②児童の学習モチベーションが下がる（英語嫌いの児童が増える）」という危惧や心配をする声が 35.8%で続いた。「④数値による評価ではなく、記述による評価なら良い」と反対ながら“条件付き”で評価を認める回答が 7.0%あったことは特筆されるだろう。

このほか、割合は少なかったが「⑤教師の負担や仕事量が増える」(5.0%)、「③テストが必要になる」(1.8%) という意見もあった。

「⑥その他」の記述回答では、「地域や学校の規模に差がありすぎる」「指導できないから」「他教科との時間数の調整」「まず基礎教科の学習」「人材・教材が整っていない」「言語としてただ覚えるだけで終わってしまう」という反対理由が述べられている。

選択肢	回答数	N=625
① これまでの外国語（英語）活動の目的と異なる	303	48.5%
② 児童の学習モチベーションが下がる（英語嫌いの児童が増える）	224	35.8%
③ テストが必要になる	11	1.8%
④ 数値による評価ではなく、記述による評価なら良い	44	7.0%
⑤ 教師の負担や仕事量が増える	31	5.0%
⑥ その他	10	1.6%
無回答	2	0.3%

問 6-2-3. 問 6-2-1 で、「2. 反対である」 を選ばれた方にお伺いします。その理由として、最も該当する項目を1つだけ選んでください。



問7. 5・6年生の外国語活動を実施するにあたり、貴校では以下の面での環境が整っていると思われませんか。

下の1～15の項目について、該当する状況を4つの選択肢の中から1つずつ選んでください。

- |                          |                            |
|--------------------------|----------------------------|
| ① 外国語活動を実施する全体的な環境       | ⑨ 使用教材（教具）の質               |
| ② 外国語活動担当教員やJTEの配置       | ⑩ 校内研究会・研修会の実施体制           |
| ③ 校内研修を企画・運営できる教員        | ⑪ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制  |
| ④ ALTの小学校訪問頻度            | ⑫ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制  |
| ⑤ 外国語活動実施に対する教員の積極性      | ⑬ 進学先中学校との情報交換の体制          |
| ⑥ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人 | ⑭ 学校外での研修会・勉強会などの情報        |
| ⑦ 外国語活動の指導法について相談できる人    | ⑮ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組やサポート体制 |
| ⑧ 使用教材（教具）の量             |                            |

外国語活動の実施に際して、環境整備が「整っている」比率が高い項目から順に並べ、分析した。「整っている比率」とは「1. 十分整っている」と「2. ある程度整っている」の数値の合計である。

その結果、最も比率が高かったのは、「④ALTの小学校訪問頻度」81.1%（昨年度79.7%）で、例年同様トップだった。今年度はさらにポイントがアップし、「1. 十分整っている」の項目も33.1%（昨年度34.3%）と他の項目を寄せ付けない高い比率だった。2位は、「①外国語活動を実施する全体的な環境」74.5%（昨年度75.5%）、次いで「⑧使用教材（教具）の量」64.6%（昨年度65.7%）、「⑨使用教材（教具）の質」61.8%（昨年度63.1%）と続き、ここまでは昨年度と同じ順位だった。このように使用教材は質・量ともそれなりに整っているように思えるが、「1. 十分整っている」という点でみると「量」が8.7%（昨年10.8%）、「質」が7.2%（昨年9.6%）で、ともに1割を割っただけでなく、パーセンテージも昨年より低下している。まだまだ充実していると言い難い。

このあとは、「⑤外国語活動実施に対する教員の積極性」59.2%（昨年度57.5%）、「②外国語活動担当教員やJTEの配置」50.0%（昨年度61.1%）と続き、ここまでは50%を超えた項目である。「②外国語活動担当教員やJTEの配置」は、昨年度は60%を超えていたが、今年度は11.1ポイントも下がり、順位も「⑤外国語活動実施に対する教員の積極性」と入れ替わった。ただし、「1. 十分整っている」では14.9%と、トップの「④ALTの小学校訪問頻度」に次ぐ高さだった。もっとも「4. まったく整っていない」では19.8%で、この部門の2位に位置づけられており、十分整備されている学校とまったく整備されていない学校に二極分化していることがうかがわれる。

さらに、「⑭学校外での研修会・勉強会などの情報」44.7%（昨年度51.4%）、「⑮学校外での研修会・勉強会参加の仕組やサポート体制」38.4%（昨年度42.0%）、「⑬進学先中学校との情報交換の体制」38.4%（昨年度41.0%）、「⑫同一中学に進学する近隣小学校との情報の交換」34.7%（昨年度35.1%）と続いた。「⑫同一中学に進学する近隣小学校との情報交換体制」は、「4. まったく整っていない」の項で20.6%とトップであり、「⑬進学先中学校との情報交換の体制」も同じく18.0%で3位にランクされるなど、進学先中学校や近隣小学校との情報交換体制が欠如している姿が浮かび上がった。

次いで「⑥英語の文法・表現・発音等について相談できる人」33.6%（昨年度38.0%）「⑦外国語活動の指導法について相談できる人」33.6%（昨年度38.2%）、「⑪5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制」32.3%（昨年度26.6%）、「③校内研修を企画・運営できる教員」29.7%（昨年度34.3%）、「⑩校内研究会、研修会の実施体制」25.4%（昨年度28.6%）の順だった。「⑩校内研究会、研修会の実施体制」については、「1. 十分整っている」の中でも最も低い数値（2.3%）だった。

これらの結果から周囲に相談できる人がいなかったり、校内での教員同士の情報交換不足、研究会・研修会の体制の不整備や人材不足が浮き彫りになった。

## 〈 項目順 〉

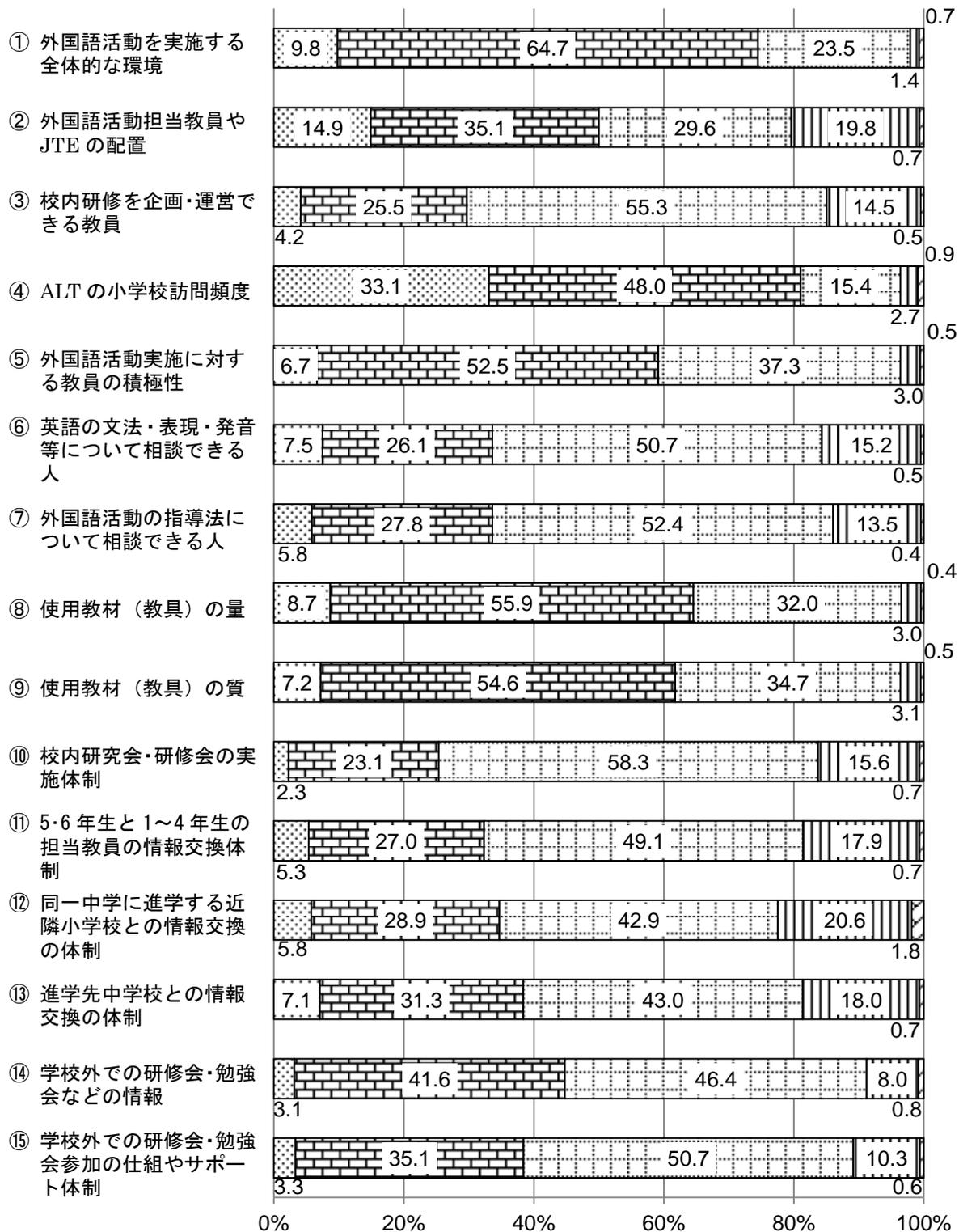
項目	1. 十分整 っている	2. ある程 度整って いる	3. あまり 整ってい ない	4. まった く整って いない	無回答
① 外国語活動を実施する全体的な環境	9.8%	64.7%	23.5%	1.4%	0.7%
② 外国語活動担当教員やJTEの配置	14.9%	35.1%	29.6%	19.8%	0.7%
③ 校内研修を企画・運営できる教員	4.2%	25.5%	55.3%	14.5%	0.5%
④ ALTの小学校訪問頻度	33.1%	48.0%	15.4%	2.7%	0.9%
⑤ 外国語活動実施に対する教員の積極性	6.7%	52.5%	37.3%	3.0%	0.5%
⑥ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人	7.5%	26.1%	50.7%	15.2%	0.5%
⑦ 外国語活動の指導法について相談できる人	5.8%	27.8%	52.4%	13.5%	0.4%
⑧ 使用教材(教具)の量	8.7%	55.9%	32.0%	3.0%	0.4%
⑨ 使用教材(教具)の質	7.2%	54.6%	34.7%	3.1%	0.5%
⑩ 校内研究会・研修会の実施体制	2.3%	23.1%	58.3%	15.6%	0.7%
⑪ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制	5.3%	27.0%	49.1%	17.9%	0.7%
⑫ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制	5.8%	28.9%	42.9%	20.6%	1.8%
⑬ 進学先中学校との情報交換の体制	7.1%	31.3%	43.0%	18.0%	0.7%
⑭ 学校外での研修会・勉強会などの情報	3.1%	41.6%	46.4%	8.0%	0.8%
⑮ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制	3.3%	35.1%	50.7%	10.3%	0.6%

(問7)

〈 項目順グラフ 〉

問7. 5・6年生の外国語活動を実施するにあたり、貴校では以下の面での環境が整っていると思われますか。

1. 十分整っている
  2. ある程度整っている
  3. あまり整っていない
  4. まったく整っていない
  無回答



く降順「十分整っている」＋「ある程度整っている」の肯定回答の多い順。ただし、合計が同%の場合は「十分整っている」が多いものを上位とした

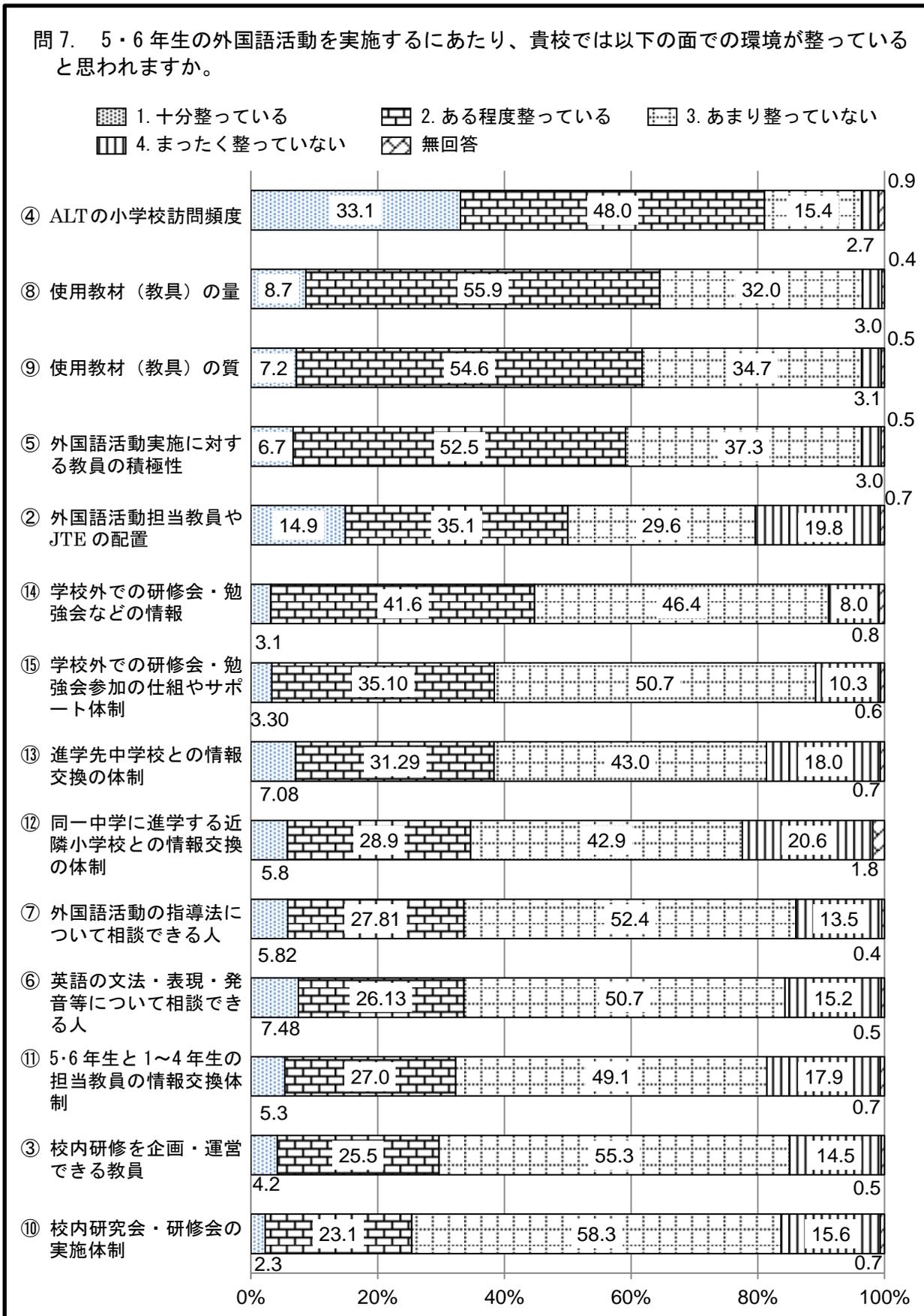
※①については、「全体的な環境」を問うているのでこの表から外し、②～⑮を対象に、肯定回答の多い順に記載した。

項 目	1. 十分整っている	2. ある程度整っている	3. あまり整っていない	4. まったく整っていない	無回答
④ ALT の小学校訪問頻度	33.1%	48.0%	15.4%	2.7%	0.9%
⑧ 使用教材（教具）の量	8.7%	55.9%	32.0%	3.0%	0.4%
⑨ 使用教材（教具）の質	7.2%	54.6%	34.7%	3.1%	0.5%
⑤ 外国語活動実施に対する教員の積極性	6.7%	52.5%	37.3%	3.0%	0.5%
② 外国語活動担当教員や JTE の配置	14.9%	35.1%	29.6%	19.8%	0.7%
⑭ 学校外での研修会・勉強会などの情報	3.1%	41.6%	46.4%	8.0%	0.8%
⑮ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制	*3.30%	*35.10%	50.7%	10.3%	0.6%
⑬ 進学先中学校との情報交換の体制	*7.08%	*31.29%	43.0%	18.0%	0.7%
⑫ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制	5.8%	28.9%	42.9%	20.6%	1.8%
⑦ 外国語活動の指導法について相談できる人	*5.82%	*27.81%	52.4%	13.5%	0.4%
⑥ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人	*7.48%	*26.13%	50.7%	15.2%	0.5%
⑪ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制	5.3%	27.0%	49.1%	17.9%	0.7%
③ 校内研修を企画・運営できる教員	4.2%	25.5%	55.3%	14.5%	0.5%
⑩ 校内研究会・研修会の実施体制	2.3%	23.1%	58.3%	15.6%	0.7%

※上の表は、原則として小数点第2位以下を四捨五入しているが、⑮⑬、⑦⑥は僅差のため「1. 十分整っている」、「2. ある程度整っている」に限り（表中\*の%値）小数点第2位までを記した。

(問7)

〈降順グラフ〉 ※①については、「全体的な環境」を問うているのでこの表から外し、②～⑮を対象に、肯定回答の多い順に記載した。



※上のグラフは、前頁と同様の理由で⑮⑬、⑦⑥の「1. 十分整っている」と「2. ある程度整っている」については小数点第2位までを記した

問 8. 現在、貴校の 5・6 年生の外国語活動において、問題や課題であると感じていることはありますか。該当するものを上位 3 つまで選び、優先度が高い順に 1 位、2 位、3 位として、その選択肢番号をご記入ください。

得点は 1 位を 3 点、2 位を 2 点、3 位を 1 点として集計した。

外国語活動において問題や課題だと感じている項目について、総得点を指標としてみると、トップは「⑤教員（HRT 等）の指導力・技術」で 2,225 点（昨年度 1,705 点）。2 位が「①指導内容・方法」1,969 点（昨年度 1,574 点）、3 位が「⑥ALT との連携および打ち合わせ時間」1,610 点（昨年度 1,469 点）、4 位が「③評価内容・方法」1,173 点（昨年度 774 点）と続き、ここまでの順位は昨年度と同じだった。次いで、「⑦教員研修（質、回数等）」、「④教材・教具（「Hi, friends!」含む）」、「⑨教員間意識の違い」、「②指導計画」、「⑧中学校との連携」、「⑩設備の改善・維持」、「⑪その他」の順だった。これでもわかるように「⑩設備の改善・維持」は 244 点と低く、ハード面についての問題点への指摘は少なかった。

単純集計（1 位～3 位のウエイトをかけない回答数だけの数値）でみると、「⑤教員（HRT 等）の指導力・技術」が最多で 1,007、次いで「①指導内容・方法」884、「⑥ALT との連携および打ち合わせ時間」773 から最も回答数が少ない「⑪その他」の 25 まで、総得点の順位とまったく同じだった。

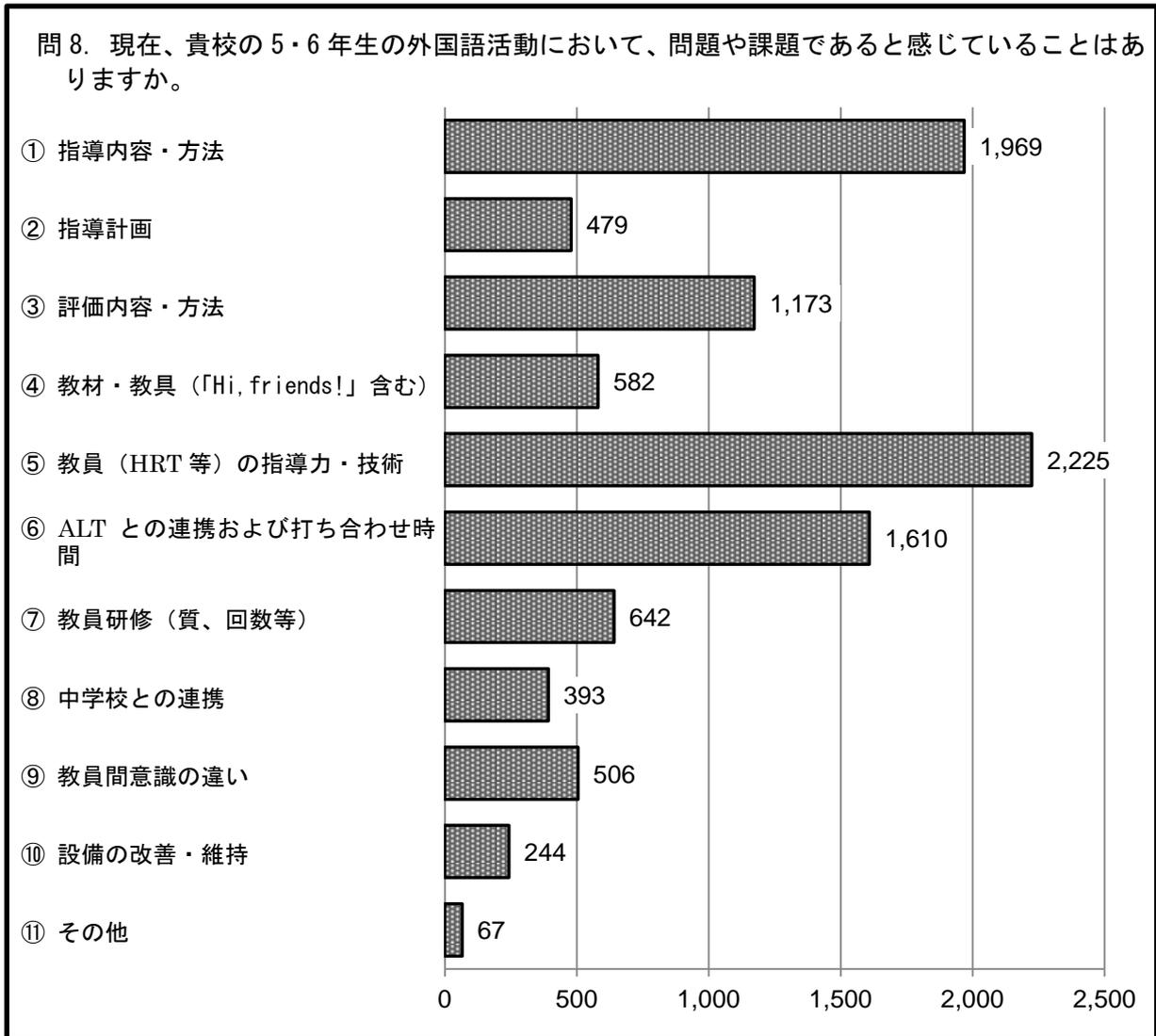
「⑪その他」では、「他の教科の進度や学校行事の多さによる外国語活動時数の確保」「近隣小学校との連携」などの記述があった。

#### 〈 選択肢順 〉

選択肢	総得点	回答数	1 位	2 位	3 位
① 指導内容・方法	1,969	884	402	281	201
② 指導計画	479	246	68	97	81
③ 評価内容・方法	1,173	640	159	215	266
④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）	582	330	63	126	141
⑤ 教員（HRT 等）の指導力・技術	2,225	1,007	448	322	237
⑥ ALT との連携および打ち合わせ時間	1,610	773	278	281	214
⑦ 教員研修（質、回数等）	642	376	65	136	175
⑧ 中学校との連携	393	225	49	70	106
⑨ 教員間意識の違い	506	284	73	76	135
⑩ 設備の改善・維持	244	135	36	37	62
⑪ その他	67	25	20	2	3

(問 8)

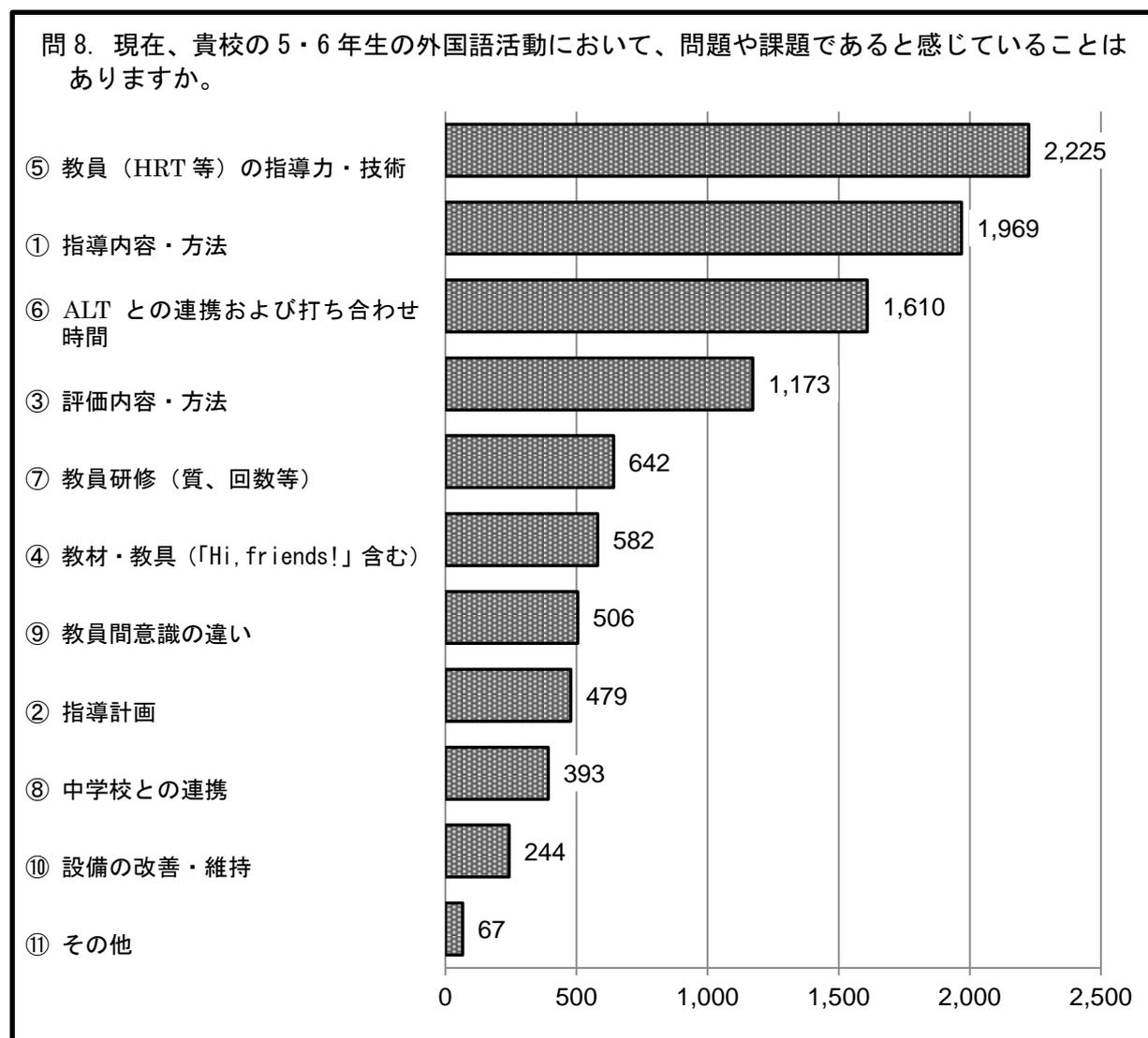
〈 選択肢順グラフ 〉



〈 降順 選択肢の優先度の高い順位の得点換算順 同点の場合は1位を優先 〉

選択肢	総得点	回答数	1位	2位	3位
⑤ 教員（HRT等）の指導力・技術	2,225	1,007	448	322	237
① 指導内容・方法	1,969	884	402	281	201
⑥ ALTとの連携および打ち合わせ時間	1,610	773	278	281	214
③ 評価内容・方法	1,173	640	159	215	266
⑦ 教員研修（質、回数等）	642	376	65	136	175
④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）	582	330	63	126	141
⑨ 教員間意識の違い	506	284	73	76	135
② 指導計画	479	246	68	97	81
⑧ 中学校との連携	393	225	49	70	106
⑩ 設備の改善・維持	244	135	36	37	62
⑪ その他	67	25	20	2	3

〈 降順 選択肢の優先度の高い順位の得点換算順グラフ 〉

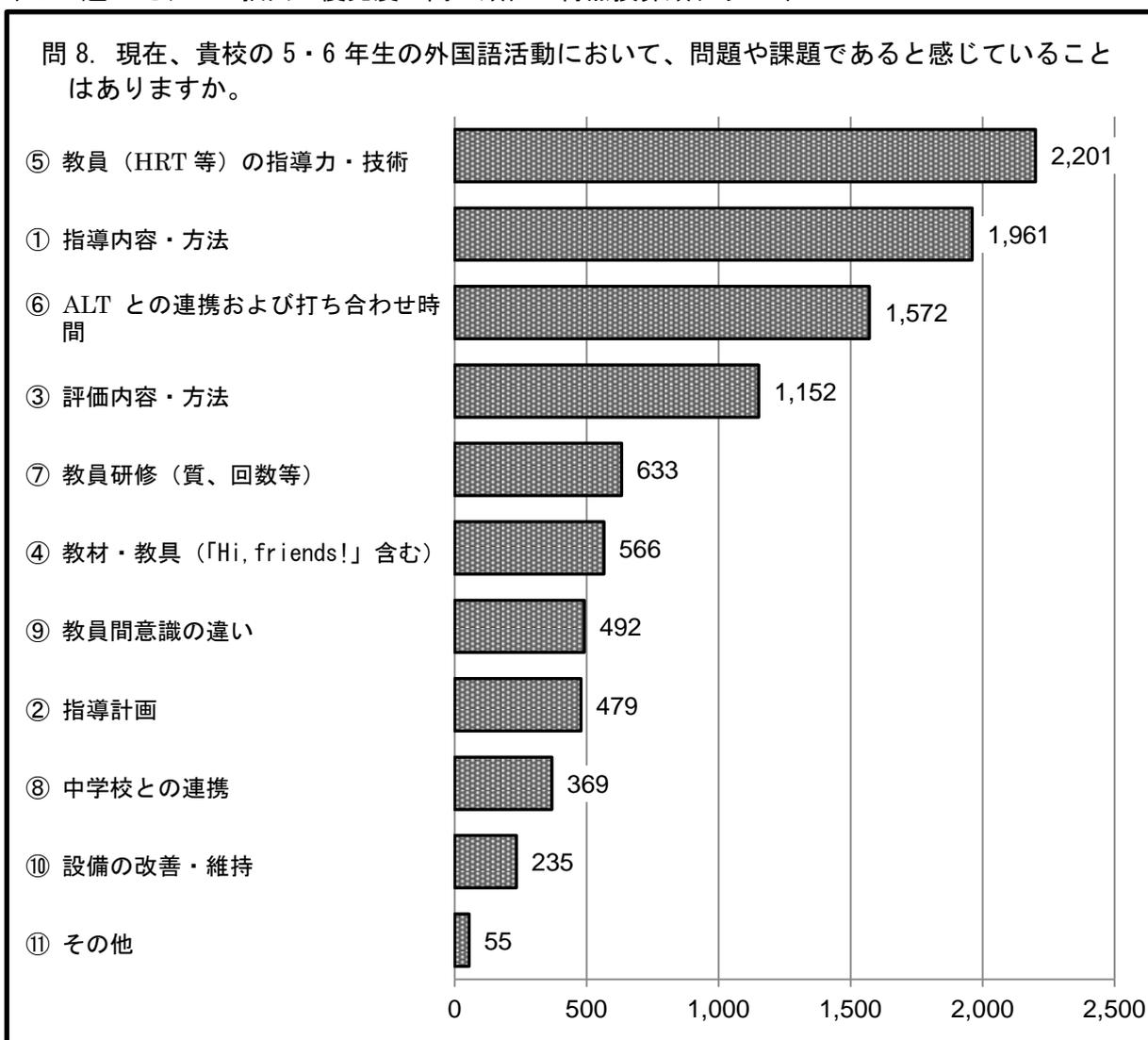


(問 8)

〈 3 つ選んだケース抽出：優先度の高い順位の得点換算順 〈1〉=3 得点、〈2〉=2 得点、〈3〉=1 得点 〉

選択肢	総得点	回答数	1 位	2 位	3 位
⑤ 教員 (HRT 等) の指導力・技術	2,201	998	442	319	237
① 指導内容・方法	1,961	881	400	280	201
⑥ ALT との連携および打ち合わせ時間	1,572	759	268	277	214
③ 評価内容・方法	1,152	632	154	212	266
⑦ 教員研修 (質、回数等)	633	372	64	133	175
④ 教材・教具 (「Hi, friends!」含む)	566	324	59	124	141
⑨ 教員間意識の違い	492	278	71	72	135
② 指導計画	479	246	68	97	81
⑧ 中学校との連携	369	216	43	67	106
⑩ 設備の改善・維持	235	132	33	37	62
⑪ その他	55	21	16	2	3

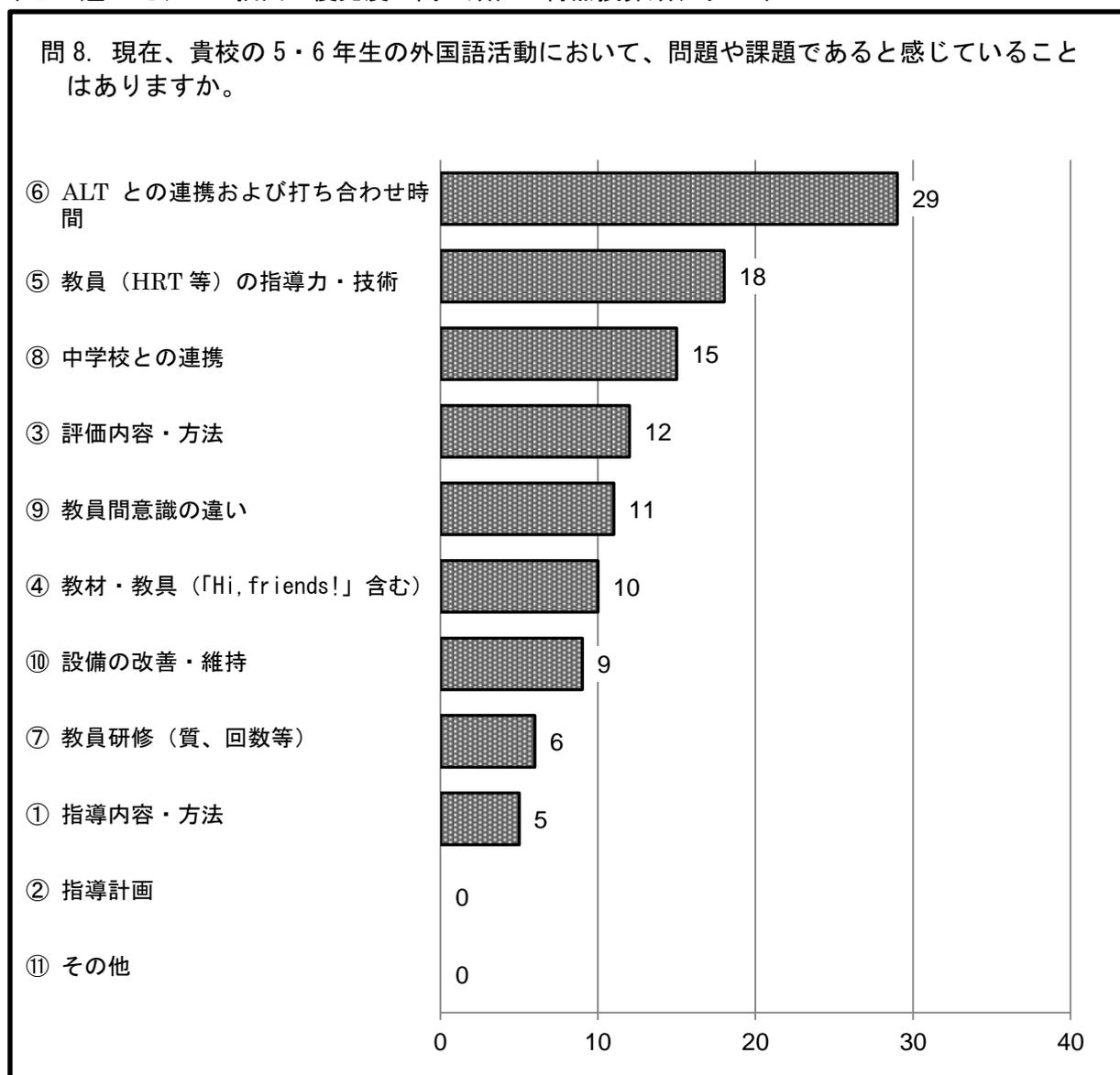
〈 3 つ選んだケース抽出：優先度の高い順位の得点換算順グラフ 〉



〈 2 つ選んだケース抽出：優先度の高い順位の得点換算順 〈1〉=3 得点、〈2〉=2 得点 〉

選択肢	総得点	回答数	1 位	2 位
⑥ ALT との連携および打ち合わせ時間	29	11	7	4
⑤ 教員（HRT 等）の指導力・技術	18	7	4	3
⑧ 中学校との連携	15	6	3	3
③ 評価内容・方法	12	5	2	3
⑨ 教員間意識の違い	11	5	1	4
④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）	10	4	2	2
⑩ 設備の改善・維持	9	3	3	0
⑦ 教員研修（質、回数等）	6	3	0	3
① 指導内容・方法	5	2	1	1
② 指導計画	0	0	0	0
⑪ その他	0	0	0	0

〈 2 つ選んだケース抽出：優先度の高い順位の得点換算順グラフ 〉



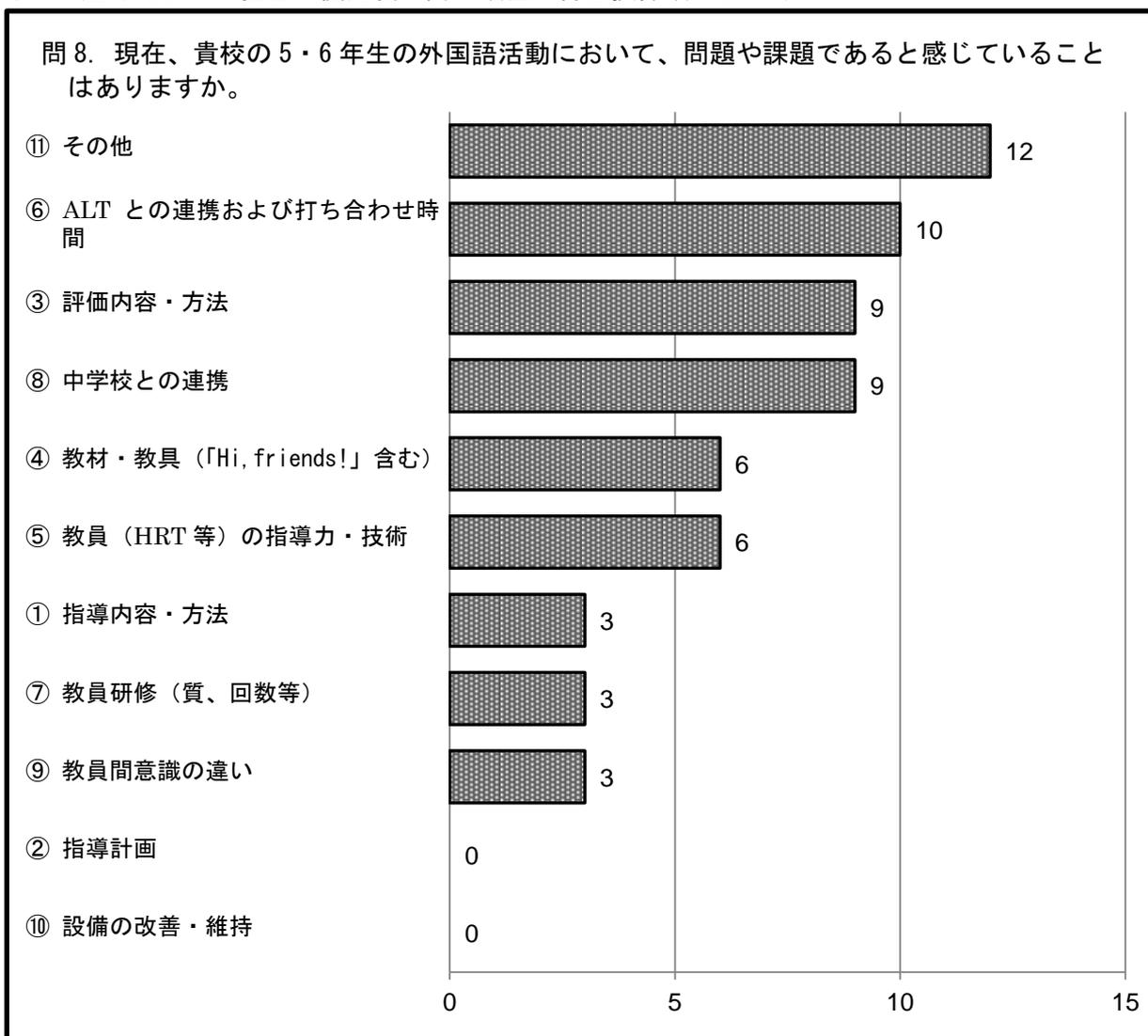
(問 8)

〈 1つ選んだケース抽出：優先度の高い順位の得点換算順 <1>=3 得点 〉

選択肢	総得点	回答数	1位
⑪ その他	12	4	4
⑥ ALT との連携および打ち合わせ時間 *	10	4	3
③ 評価内容・方法	9	3	3
⑧ 中学校との連携	9	3	3
④ 教材・教具 (「Hi, friends!」含む)	6	2	2
⑤ 教員 (HRT 等) の指導力・技術	6	2	2
① 指導内容・方法	3	1	1
⑦ 教員研修 (質、回数等)	3	1	1
⑨ 教員間意識の違い	3	1	1
② 指導計画	0	0	0
⑩ 設備の改善・維持	0	0	0

\* 選択肢⑥については、「1位の欄のみに⑥を記入」した3件以外に、「3位の記入欄のみに⑥を記入し、1位と2位は空欄」だったものが1件あった。よって、選択肢⑥の総得点と回答数には、この1件も加えて集計している。

〈 1つ選んだケース抽出：優先度の高い順位の得点換算順グラフ 〉



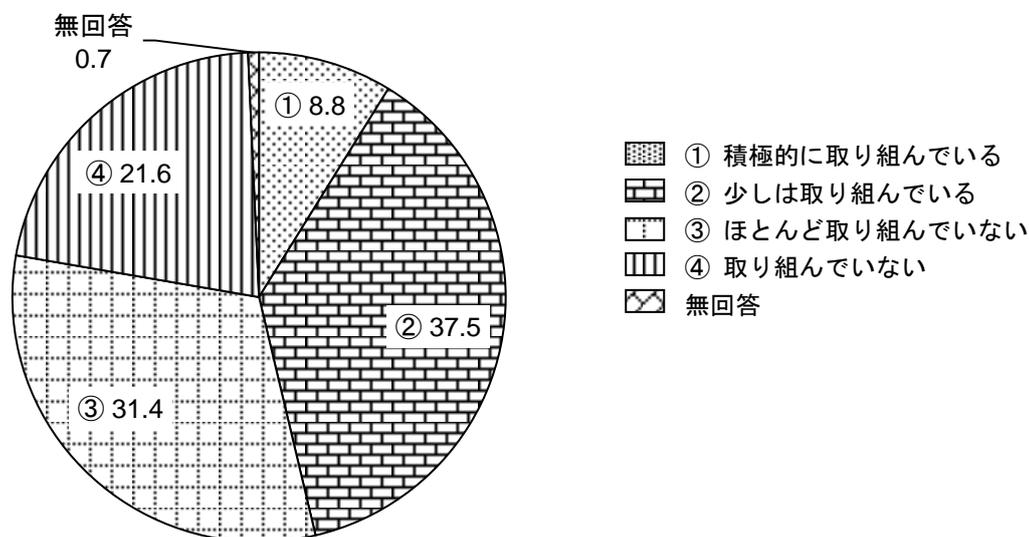
問9. 外国語活動の導入をふまえた小学校と中学校との連携（小中連携）についてお伺いします。  
問9-1. 貴校での外国語活動における「小中連携」の取り組み状況について、該当する項目を1つだけ選んでください。

「小中連携」の取り組みについて、何らかの形で取り組んでいる（「①積極的に取り組んでいる」と「②少しは取り組んでいる」の合計）と回答したのは46.3%（昨年度61.8%）だった。これに対し、取り組んでいない（「③ほとんど取り組んでいない」と「④取り組んでいない」の合計）と回答したのは53.0%（昨年度38.0%）だった。

この数字から「取り組んでいる学校」と「取り組んでいない学校」は概ね拮抗しているといえる。ただ、昨年度は「取り組んでいる」が半数を超えていた。具体的に比較すると、「取り組んでいる」が昨年度より15.5ポイント減少し、「取り組んでいない」が15.0ポイント増加していることから「小中連携」の取り組みが後退している状況がうかがえた。

選択肢	回答数	N=1,684
① 積極的に取り組んでいる	148	8.8%
② 少しは取り組んでいる	632	37.5%
③ ほとんど取り組んでいない	529	31.4%
④ 取り組んでいない	363	21.6%
無回答	12	0.7%

問9-1. 貴校での外国語活動における「小中連携」の取り組み状況について、該当する項目を1つだけ選んでください。

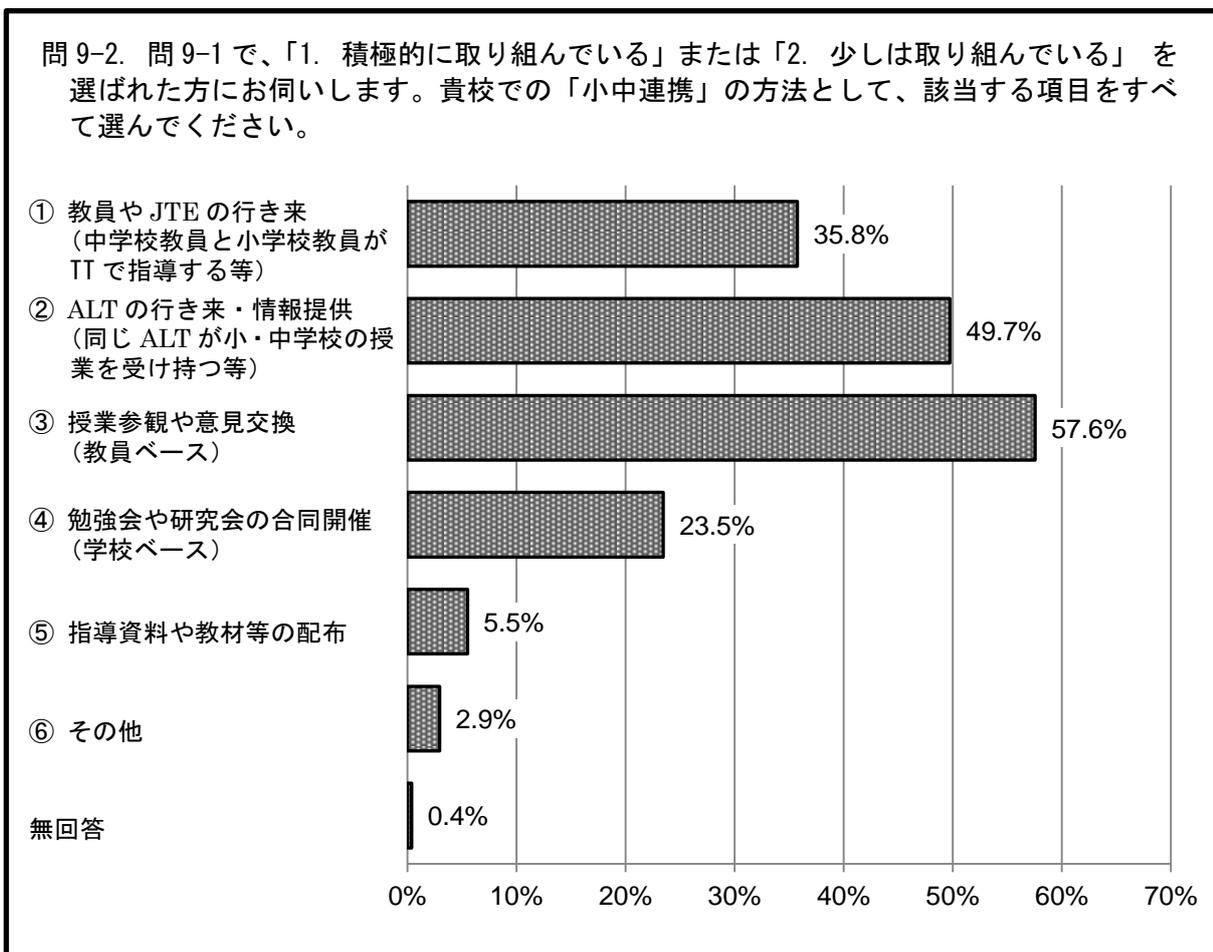


問 9-2. 問 9-1 で、「1. 積極的に取り組んでいる」または「2. 少しは取り組んでいる」を選ばれた方にお伺いします。貴校での「小中連携」の方法として、該当する項目をすべて選んでください。

小中連携に取り組んでいる小学校が行っている方法で最も多かったのは「③授業参観や意見交換（教員ベース）」で、半数を超える 57.6%（昨年度 62.7%）の回答があった。「②ALT の行き来・情報提供（同じ ALT が小・中学校の授業を受け持つ等）」が 2 位で 49.7%（昨年度 35.2%）、次いで「①教員や JTE の行き来（中学校教員と小学校教員が TT で指導する等）」35.8%（昨年度 23.0%）、「④勉強会や研究会の合同開催（学校ベース）」23.5%（昨年度 28.0%）と続いた。

昨年と比べ、「①教員や JTE の行き来（中学校教員と小学校教員が TT で指導する等）」と「④勉強会や研究会の合同開催（学校ベース）」の順位が入れ替わった。「⑤指導資料や教材等の配布」は 5.5%と低い比率だった。「⑥その他」では「出前授業に中学校が来てくれる」「6 年生と中 1 生徒の英語の交流授業」などの記述があった。

選択肢	回答数	N=780
① 教員や JTE の行き来（中学校教員と小学校教員が TT で指導する等）	279	35.8%
② ALT の行き来・情報提供（同じ ALT が小・中学校の授業を受け持つ等）	388	49.7%
③ 授業参観や意見交換（教員ベース）	449	57.6%
④ 勉強会や研究会の合同開催（学校ベース）	183	23.5%
⑤ 指導資料や教材等の配布	43	5.5%
⑥ その他	23	2.9%
無回答	3	0.4%



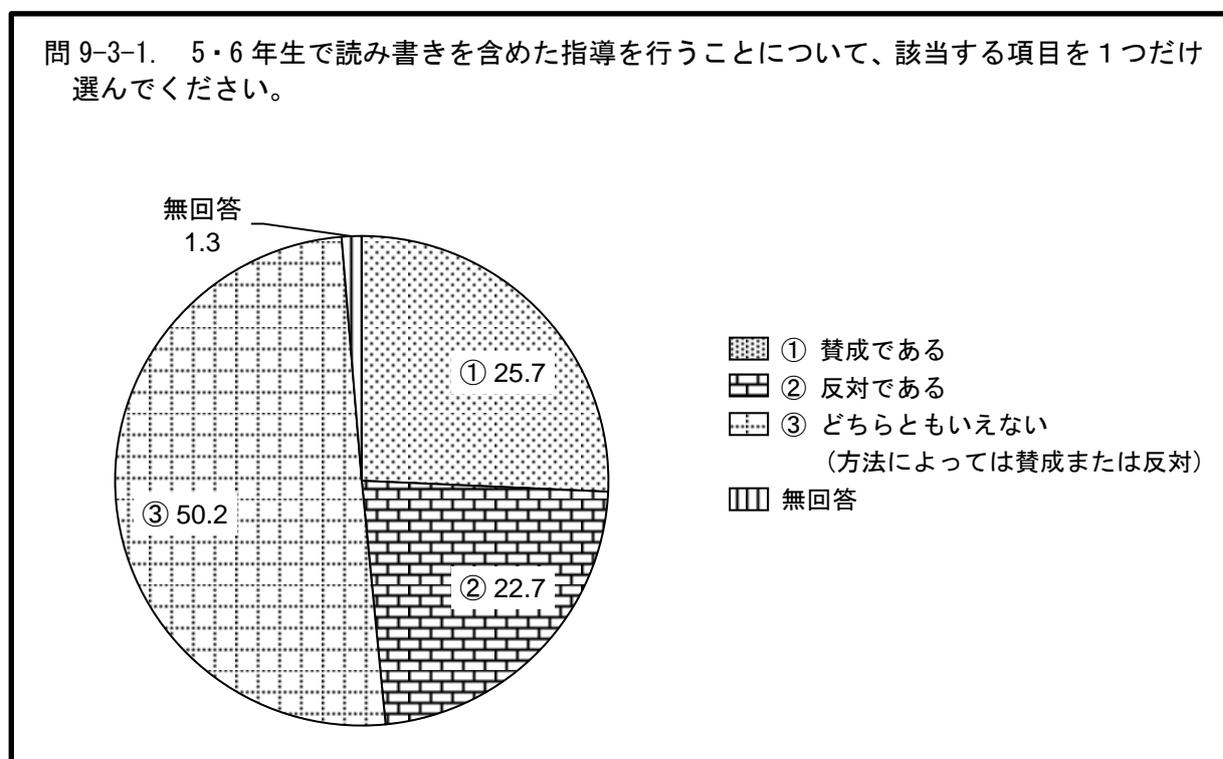
問9-3. 「5・6年生で読み書きを含めた指導を行う」ことについてお伺いします。

問9-3-1. 5・6年生で読み書きを含めた指導を行うことについて、該当する項目を1つだけ選んでください。

「③どちらともいえない（方法によっては賛成または反対）」が全回答数1,684中846の回答数と最多となり、比率では50.2%と半数を超えた。授業の具体的なイメージがわからない現状では回答しにくいといったことが如実に表れた結果といえよう。

残りの半数のうち、「①賛成である」が25.7%、「②反対である」が22.7%と、賛成・反対がほぼ拮抗する結果となった。

選択肢	回答数	N=1,684
① 賛成である	433	25.7%
② 反対である	383	22.7%
③ どちらともいえない（方法によっては賛成または反対）	846	50.2%
無回答	22	1.3%



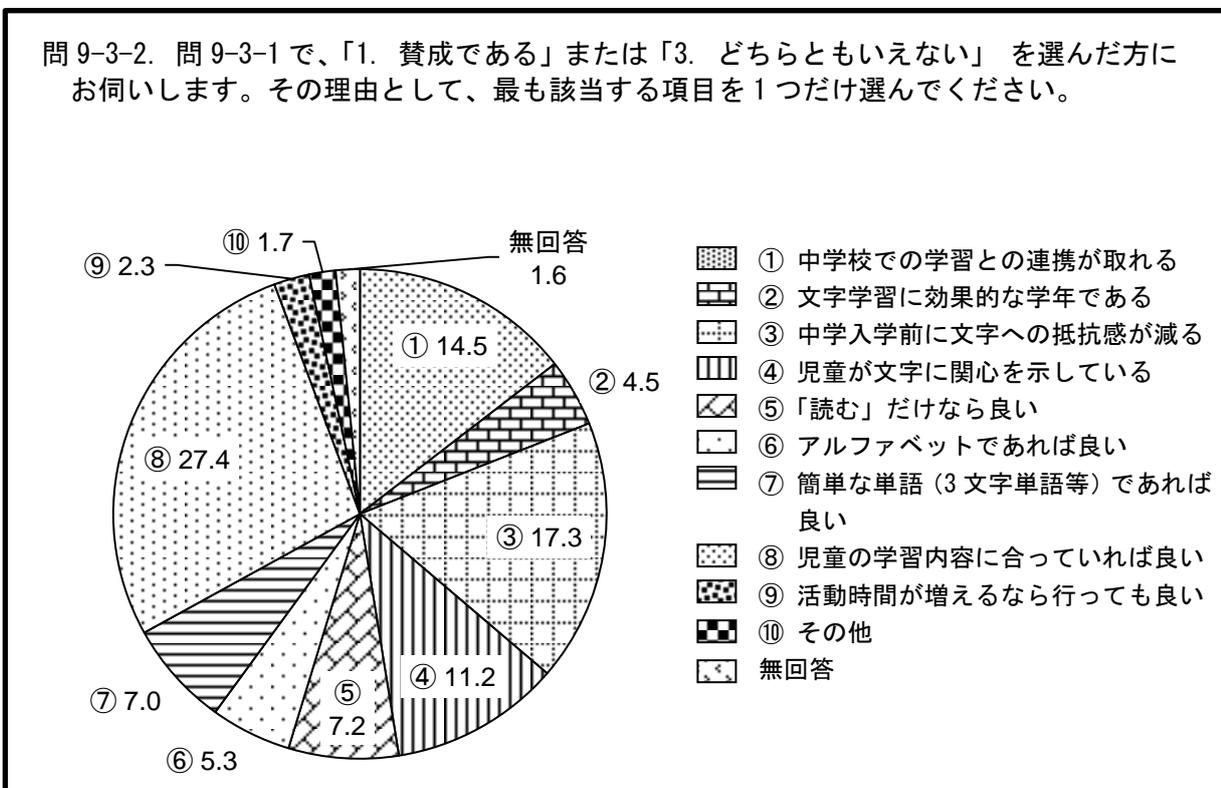
問9-3-2. 問9-3-1で、「1. 賛成である」または「3. どちらともいえない」を選んだ方にお伺いします。その理由として、最も該当する項目を1つだけ選んでください。

「1. 賛成である」または「3. どちらともいえない」の理由のトップは、「⑧児童の学習内容に合っていれば良い」(27.4%)だった。2位は「③中学入学前に文字への抵抗感が減る」(17.3%)、3位が「①中学校での学習との連携が取れる」(14.5%)、4位が「④児童が文字に関心を示している」(11.2%)で、ここまでの10%を超えた。

これに次いで、「⑤『読む』だけなら良い」(7.2%)、「⑦簡単な単語(3文字単語等)であれば良い」(7.0%)、「⑥アルファベットであれば良い」(5.3%)が続くが、これらは“条件付き”の賛成といえる。

「⑩その他」では、「子どものためになる」「言語は文字とセットだから」「話せるためには読み書きは必須」などという記述があった。

選択肢	回答数	N=1,207
① 中学校での学習との連携が取れる	175	14.5%
② 文字学習に効果的な学年である	54	4.5%
③ 中学入学前に文字への抵抗感が減る	209	17.3%
④ 児童が文字に関心を示している	135	11.2%
⑤ 「読む」だけなら良い	87	7.2%
⑥ アルファベットであれば良い	64	5.3%
⑦ 簡単な単語(3文字単語等)であれば良い	84	7.0%
⑧ 児童の学習内容に合っていれば良い	331	27.4%
⑨ 活動時間が増えるなら行っても良い	28	2.3%
⑩ その他	21	1.7%
無回答	19	1.6%



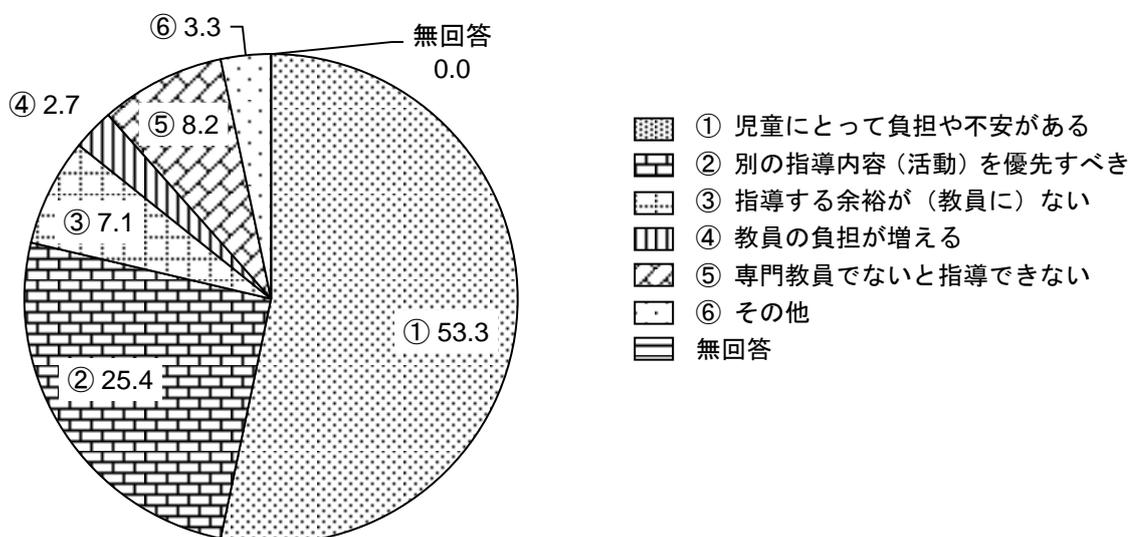
問9-3-3. 問9-3-1で、「2. 反対である」を選んだ方にお伺いします。その理由として、最も該当する項目を1つだけ選んでください。

反対の理由で最も多かったのは「①児童にとって負担や不安がある」で、53.3%と半数を超えた。次いで多かったのが「②別の指導内容（活動）を優先すべき」で25.4%だった。これ以下は、どの項目も10%を下回った。その順位を列挙すると「⑤専門教員でないと指導できない」(8.2%)、「③指導する余裕が（教員に）ない」(7.1%)、「⑥その他」(3.3%)、「④教員の負担が増える」(2.7%)となった。

「⑥その他」には、「子どもの英語嫌いが増える」「その前に十分な聞く・話す体験が必要」といった声が寄せられた。

選択肢	回答数	N=366
① 児童にとって負担や不安がある	195	53.3%
② 別の指導内容（活動）を優先すべき	93	25.4%
③ 指導する余裕が（教員に）ない	26	7.1%
④ 教員の負担が増える	10	2.7%
⑤ 専門教員でないと指導できない	30	8.2%
⑥ その他	12	3.3%
無回答	0	0.0%

問9-3-3. 問9-3-1で、「2. 反対である」を選んだ方にお伺いします。その理由として、最も該当する項目を1つだけ選んでください。



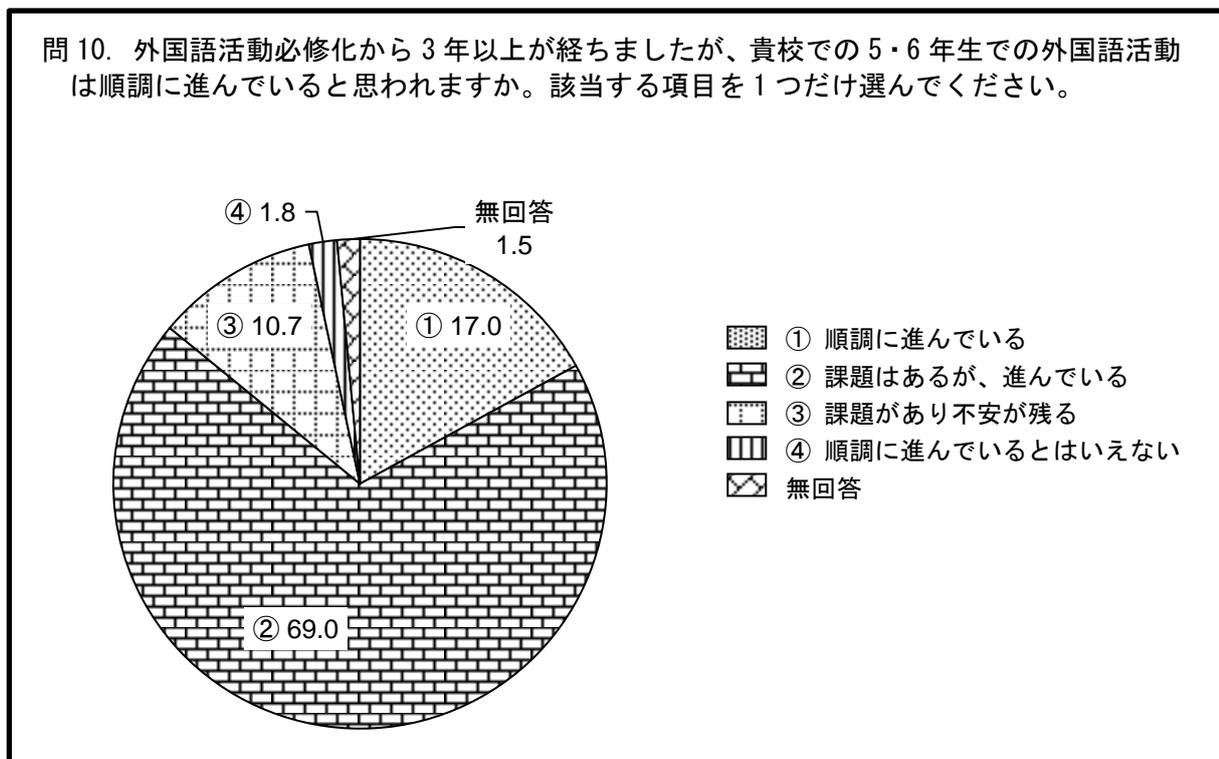
(問 10)

問 10. 外国語活動必修化から 3 年以上が経ちましたが、貴校での 5・6 年生での外国語活動は順調に進んでいると思われますか。該当する項目を 1 つだけ選んでください。

必修化後の外国語活動を聞いたところ、「② 課題はあるが、進んでいる」が 69.0%と約 7 割に達した。昨年度の 63.7%と比較しても 5.3 ポイント高くなっている。ただし、「①順調に進んでいる」は 17.0% (昨年度 24.0%) と昨年より 7 ポイント下がった。それでも、この 2 つを合わせると、86.0%で取り組みが進んでいるという結果になった。

一方、「③ 課題があり不安が残る」は 10.7% (昨年度 9.5%) と、昨年度よりやや増加しているが、課題を抱えながらも、全体としては昨年度同様、外国語活動は進んでいるという傾向だった。

選択肢	回答数	N=1,684
① 順調に進んでいる	286	17.0%
② 課題はあるが、進んでいる	1,162	69.0%
③ 課題があり不安が残る	180	10.7%
④ 順調に進んでいるとはいえない	31	1.8%
無回答	25	1.5%



問 11. 外国語活動及び英語活動の導入が、「貴校（教員・児童）に与える影響や変化」についてお伺いします。

問 11-1. 貴校（教員・児童）に生じた影響や変化はありますか。該当項目を全て選んでください。

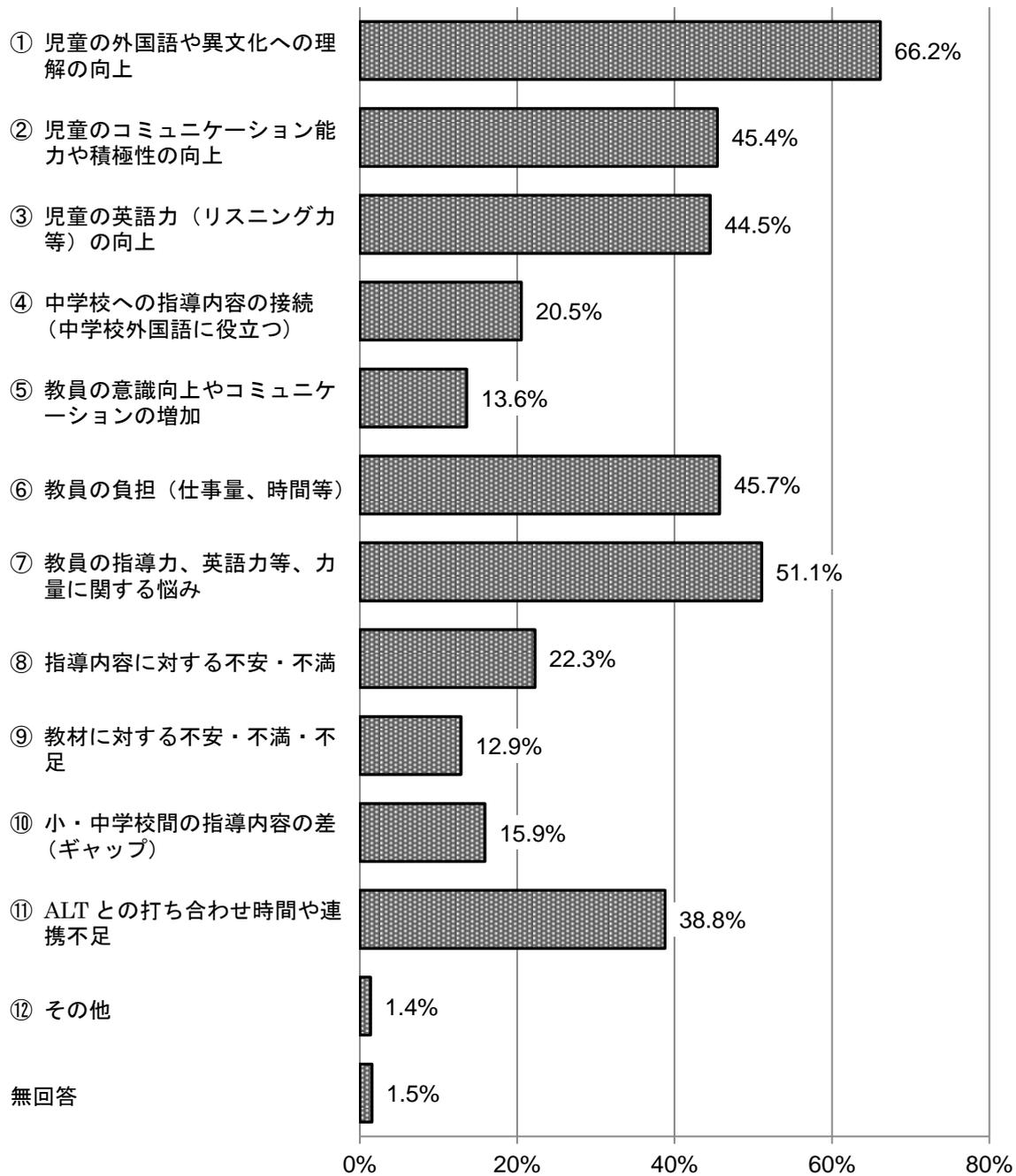
外国語活動及び英語活動の導入が与える影響や変化について、最も多かった回答は「①児童の外国語の異文化への理解の向上」66.2%（昨年度 75.6%）で、昨年度、その前年度に続きトップだった。次いで「⑦教員の指導力、英語力等、力量に関する悩み」51.1%（昨年度 54.3%）、「⑥教員の負担（仕事量、時間等）」45.7%（昨年度 51.4%）、「②児童のコミュニケーション能力や積極性の向上」45.4%（昨年度 53.1%）、「③児童の英語力（リスニング力等）の向上」44.5%（昨年度 42.1%）と続いた。昨年度と比べ、この上位5までをみると、児童の理解・能力の向上といったプラス面と、教員の指導に対する悩みや負担などのマイナス面が並存しているのがよくわかる。

プラス面では、「④中学校への指導内容の接続（中学校外国語に役立つ）」が20.5%（昨年度 18.8%）、「⑤教員の意識向上やコミュニケーションの増加」が13.6%（昨年度 14.4%）あったが、「⑪ALTとの打ち合わせ時間や連携不足」の38.8%（昨年度 46.5%）をはじめ、「⑧指導内容に対する不安・不満」22.3%（昨年度 32.9%）、「⑩小・中学校間の指導内容の差（ギャップ）」15.9%（昨年度 17.1%）、「⑨教材に対する不安・不満・不足」12.9%（昨年度 20.1%）とマイナス面の影響もかなり多く挙げられた。こうした傾向は前の2年間と同様であった。

選択肢の①から⑤まではプラス面の、⑥から⑪まではマイナス面の影響・変化である。この2つのグループごとに昨年度と比較してみると、まず、プラス面の影響・変化では、「①児童の外国語の異文化への理解の向上」が9.4ポイント減少、「④中学校への指導内容の接続（中学校外国語に役立つ）」が7.7ポイント減少しているが、③から⑤の3つについては昨年並みかやや上昇している。マイナス面の影響・変化では、「⑧指導内容に対する不安・不満」が10.6ポイント減少、「⑪ALTとの打ち合わせ時間や連携不足」が7.7ポイント減少したのをはじめ、すべての項目で減少している。プラス面での影響・変化が減少している部分もあるが現状維持の項目も多い。一方でマイナス面の影響・変化についてはすべての項目で減少していることがわかる。

選択肢	回答数	N=1,684
① 児童の外国語や異文化への理解の向上	1,114	66.2%
② 児童のコミュニケーション能力や積極性の向上	765	45.4%
③ 児童の英語力（リスニング力等）の向上	750	44.5%
④ 中学校への指導内容の接続（中学校外国語に役立つ）	346	20.5%
⑤ 教員の意識向上やコミュニケーションの増加	229	13.6%
⑥ 教員の負担（仕事量、時間等）	770	45.7%
⑦ 教員の指導力、英語力等、力量に関する悩み	860	51.1%
⑧ 指導内容に対する不安・不満	375	22.3%
⑨ 教材に対する不安・不満・不足	217	12.9%
⑩ 小・中学校間の指導内容の差（ギャップ）	268	15.9%
⑪ ALTとの打ち合わせ時間や連携不足	653	38.8%
⑫ その他	23	1.4%
無回答	26	1.5%

問 11-1. 貴校（教員・児童）に生じた影響や変化はありますか。該当項目をすべて選んでください。



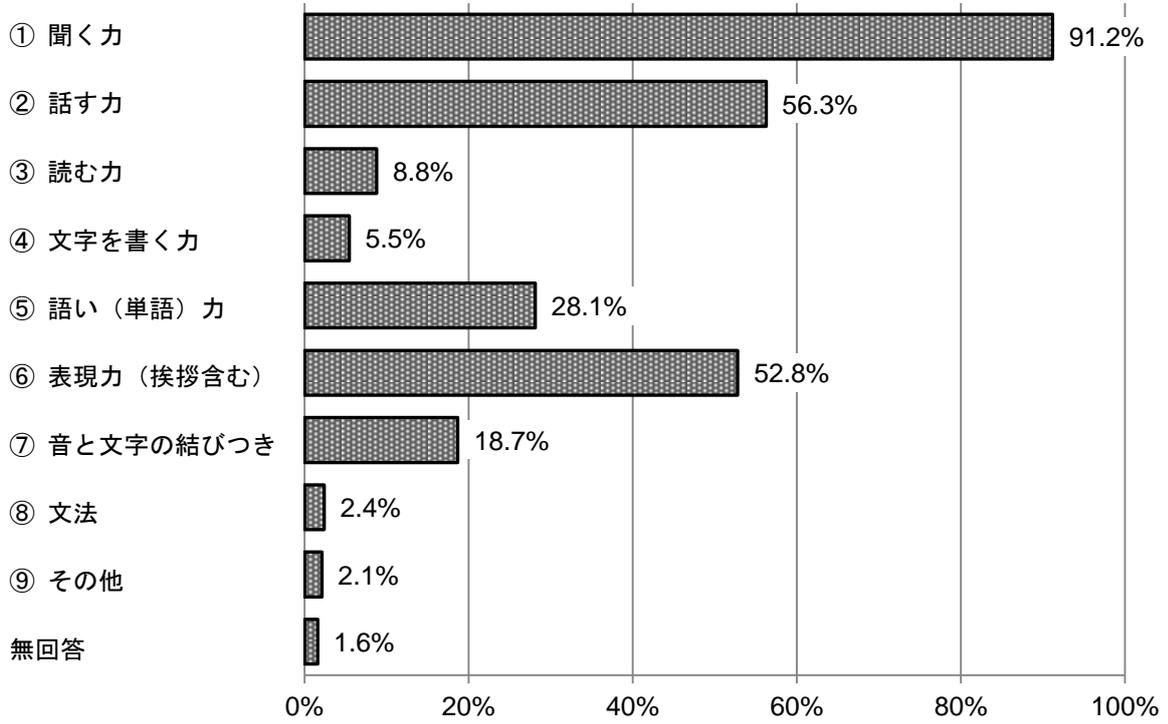
問 11-2. 問 11-1 で「3. 児童の英語力(リスニング力等)の向上」を選ばれた方にお伺いします。児童の英語力の面でなんらかの変化や成果があったと思われるものを全て選んでください。

設問は、児童の英語力の向上について、どの項目が良い影響を与えたか、あるいはどの項目で児童が伸びたかということであり、その最多は「①聞く力」の91.2%（昨年度65.2%）で実に9割を超える比率を示した。昨年度もトップだったが、昨年度より26.0ポイントも高くなっており、現場の教員たちが、「①聞く力」の向上に確かな手応えを感じていることがうかがえる。2位は「②話す力」56.3%（昨年度48.0%）、3位が「⑥表現力（挨拶含む）」52.8%（昨年度51.1%）で、昨年度とは2位と3位が入れ替わっている。「②話す力」は昨年度より8.3ポイント上回っており、「①聞く力」とともに児童の英語力向上に良い影響を与えていることがうかがえる。

上位3項目に続き、「⑤語い（単語）力」が28.1%（昨年度32.5%）と昨年度より減少したが、高い比率を示した。「③読む力」8.8%（昨年度5.5%）と「④文字を書く力」5.5%（昨年度4.4%）は10%を切る低い比率だった。

選択肢	回答数	N=750
① 聞く力	684	91.2%
② 話す力	422	56.3%
③ 読む力	66	8.8%
④ 文字を書く力	41	5.5%
⑤ 語い（単語）力	211	28.1%
⑥ 表現力（挨拶含む）	396	52.8%
⑦ 音と文字の結びつき	140	18.7%
⑧ 文法	18	2.4%
⑨ その他	16	2.1%
無回答	12	1.6%

問 11-2. 問 11-1 で「3. 児童の英語力（リスニング力等）の向上」を選ばれた方にお伺いします。児童の英語力の面でなんらかの変化や成果があったと思われるものを全て選んでください。



<平成26年12月調査>

## 小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査

《 総合編（国・公・私立小学校対象） 》

報 告 書

---

平成27年6月

公益財団法人 日本英語検定協会

英語教育研究センター

〒162-8055 東京都新宿区横寺町55

Tel. 03-3266-6706/Fax. 03-3266-6740

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

〒105-0003 東京都港区西新橋1-20-10

Tel. 03-3539-3785/Fax. 03-3539-3787

---